

RFD2000

RFID SLED



ユーザー ガイド



ZEBRA

著作権

© 2018 ZIH Corp and/or its affiliates. All rights reserved. Zebra および図案化された Zebra ヘッドは、ZIH Corp. の商標であり、世界各地の多数の法域で登録されています。その他のすべての商標は、該当する各所有者が権利を有しています。

著作権と商標：著作権と商標情報の詳細については、www.zebra.com/copyright でご確認ください。

保証：保証情報の詳細については、www.zebra.com/warranty でご確認ください。

エンド ユーザー ソフトウェア使用許諾契約：EULA 情報の詳細については、www.zebra.com/eula でご確認ください。

オーストラリアのみ

以下の記述はオーストラリアにのみ適用されます。本保証は、Zebra Technologies Asia Pacific Pte. Ltd. (住所：71 Robinson Road, #05-02/03, Singapore 068895, Singapore) が規定するものです。当社の製品には、オーストラリア消費者法に基づいて除外できない保証が付帯しています。購入者は、重大な故障に対する交換または返金、およびその他の合理的に予見できる損失または損害に対する補償を受ける権利があります。また、商品が許容品質ではないが、その故障が重大な故障にならない場合、購入者は、商品の修理または交換を受ける権利があります。

前述の Zebra Technologies Corporation Australia による限定的保証は、オーストラリア消費者法によって定められた権利および賠償に加えて提供されます。ご質問がある場合は、Zebra Technologies Corporation までお電話 (+65 6858 0722) でお問い合わせください。また、最新の保証条件は、www.zebra.com で確認いただけます。

使用条件

- 所有権の宣言

このマニュアルには、Zebra Technologies Corporation およびその子会社（「Zebra Technologies」）の専有情報が含まれています。このマニュアルは、本書に記載されている機器を操作および保守する当事者への情報の提供とその当事者の限定使用のみを目的としています。このような専有情報を、Zebra Technologies の書面による明示的な許可なしに、その他の目的のために使用したり、複製を行ったり、または他の当事者に開示することはできません。

- 製品の改善

製品の継続的な改善は、Zebra Technologies のポリシーです。すべての仕様や設計は、予告なしに変更される場合があります。

- 責任の放棄

Zebra Technologies では、公開されているエンジニアリング仕様およびマニュアルに誤りが含まれていないよう、万全の対策を講じていますが、まれに誤りが発生することがあります。Zebra Technologies では、このような誤りが発見された場合にそれを修正し、その誤りから生じる責任を放棄する権利を有しています。

- 責任の限定

いかなる場合においても、Zebra Technologies または付属の製品（ハードウェアおよびソフトウェアを含む）の作成、製造、または配布に関わるその他の関係者は、本製品の使用、使用した結果、または使用できなかった結果により生じるすべての損害（業務利益の損失、業務の中断、または業務情報の損失を含む派生的損害を含むがそれに限定されない）に対し、Zebra Technologies がそのような損害の発生する可能性を通告されていた場合でも、一切責任を負いません。法域によっては、付随的損害または派生的損害に関する責任の除外または限定を認めていない場合があります。その場合、お客様には上記の限定または除外は適用されません。

改訂版履歴

元のマニュアルに対する変更を次に示します。

変更	日付	説明
-01 改訂版 A	2017 年 12 月	初期リリース
-02 改訂版 A	2018 年 5 月	改訂版 B ソフトウェア アップデート: - 「RFID Manager を StageNow にインポート」章の名前を 「RFID Manager StageNow プラグイン」に変更 - 「RFID Manager StageNow プラグイン」章の内容更新
-03 改訂版 A	2018 年 11 月	技術仕様を追加。

目次

著作権	2
オーストラリアのみ	2
使用条件	2
改訂版履歴	3
このガイドについて	
はじめに	7
構成	7
章の説明	8
表記規則	8
関連するドキュメントおよびソフトウェア	9
サービスに関する情報	9
はじめに	
はじめに	10
パッケージの開梱	10
RFID スレッドの機能	11
LED の定義	12
充電中の RFD2000 LED の定義	12
充電中以外の RFD2000 LED の定義	12
LED の意味	13
RFID スレッドのバッテリーの交換	14
バッテリーの取り外し	14
バッテリーの取り付け	15
モバイル コンピュータを RFID スレッドに取り付ける / 取り外す	16
モバイル コンピュータを RFID スレッドに取り付ける	16
モバイル コンピュータを RFID スレッドから取り外す	16
ストラップの取り付け	17
充電中	18
バッテリー管理	19
低バッテリー通知	19
バッテリーの最適な使用方法	19
モバイル デバイス	19

Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーション

はじめに	20
要件	20
Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーションのインストール	20
Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーション	21
Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーションの使用	21
RFD2000 への TC20 の接続	22
RFD2000 の接続解除	22
デモ アプリケーションの画面	23
Rapid Read	24
Inventory	25
Locate Tag	28
Settings	29
Access Control	41
Pre Filters	42
About	43

RFID Manager

はじめに	44
RFD2000 のセットアップ	45
Android 用 RFID Manager のインストール	45
要件	45
インストール	45
Android 用 RFID Manager の使用	45
Connection Status	46
RFID の規制	48
Settings	49
ファームウェアの更新	51
Recovery Mode	53
RFID Manager ログ	54
ビープ音の意味	55
About	55
はじめに	56
アプリケーションの用途と画面	56

RFID Scan-Scan-Write

設定	60
----------	----

StageNow

StageNow ステージング ソリューション	61
-------------------------------	----

RFID Manager StageNow プラグイン

はじめに	62
要件	62
RFID Manager CSP プラグインのインポート	63
StageNow を使用したファームウェア アップデート プロファイルの作成	65
リーダー構成の作成	70

Reset Radio と Reset to Factory プロファイルの作成	73
単一プロファイルによるファームウェアおよび規制のアップデートの適用	76
メンテナンスと トラブルシューティング	
はじめに	77
クリーニング	77
使用可能な洗剤の活性成分	77
有害成分	77
クリーニング方法	77
クリーニングの際の注意事項	78
必要な材料	78
クレードルのコネクタのクリーニング	78
クリーニングの頻度	78
メンテナンス	79
RFD2000	79
バッテリー	79
技術仕様	80
トラブルシューティング	
トラブルシューティング	82
LED モード 2 による RFD2000 RFID スレッドのトラブルシューティング	84
Data Dictionary	
はじめに	86
RFD2000 の属性	86
属性の定義	86
インベントリ コマンド構成	87
タグ選択構成	90
タグ クエリ構成	94
タグ アクセス構成	95
リージョン構成	97
周辺機器構成	100
トリガー構成	100
ASCII 構成	101
タグ アクセス基準構成	103
Locate Tag 構成	105
Dynamic Power 構成	105
デューティ サイクル構成	105
電力モード構成	106
[Unique Tag Reporting]	107
その他の RFID 構成	107
システム構成	107
アクション値	108

このガイドについて

はじめに

本書『RFD2000 RFID スレッド ユーザー ガイド』は、RFID スレッドの一般的な使い方を示したものです。

構成

表 1 RFD2000 の構成

構成	説明
RFD2000-1000100-US	RFID スレッド、米国
RFD2000-1000100-EU	RFID スレッド、欧州
RFD2000-1000100-JP	RFID スレッド、日本
RFD2000-1000100-IN	RFID スレッド、インド
RFD2000-1000100-KR	RFID スレッド、韓国
RFD2000-1000200-US	RFID スレッド、Inditex 社、米国
RFD2000-1000200-EU	RFID スレッド、Inditex 社、欧州
RFD2000-1000200-IN	RFID スレッド、Inditex 社、インド
RFD2000-1000200JP	RFID スレッド、Inditex 社、日本

表 2 RFD2000 のアクセサリ

構成	説明
CRD1S-RFD2000-1R	シングル スロット充電クレードル
CRD5S-RFD2000-1R	5 スロット充電クレードル
BTRY-RF20GAB0E-00	予備バッテリー
BTRY-RF20GAB0E-00K	予備バッテリー、インドおよび韓国

章の説明

このガイドは、次の章で構成されています。

- [はじめに](#)では、RFD2000 RFID スレッドの各部の名称、バッテリーの取り付け、モバイル デバイスの取り付け、LED の意味、充電について説明します。
- [Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーション](#)では、RFD2000 の機能とタグ操作機能を実行する、Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーションについて説明します。
- [RFID Manager](#)では、RFD2000 で使用する TC20 Android モバイル デバイス用の Zebra RFID Manager アプリケーションをインストールおよび設定する方法について説明します。
- [RFID Scan-Scan-Write](#)では、RFD2000 を使用してタグをプログラミングするために Android モバイル デバイスを使用する事例を実行します。
- [メンテナンスとトラブルシューティング](#)では、クリーニング、メンテナンス、トラブルシューティングの各手順について説明します。
- [StageNow](#)では、複雑なステージング プロファイルも容易に作成できる、この簡単なウィザードベースのツールにアクセスするためのリファレンスを提供します。
- [RFID Manager StageNow プラグイン](#)では、RFID ファームウェアの更新プロファイルを生成し、RFID CSP プラグインを StageNow アプリケーションにインポートするために必要な手順について説明します。
- [Data Dictionary](#)には、RFD2000 属性情報 (デバイスに関する構成パラメータ、監視対象データ、作成日) が記載されています。

表記規則

本書では、次の表記規則を使用しています。

- 「RFID スレッド」は「RFD2000 RFID スレッド」を指します。
- 太字は、次の項目の強調に使用します。
 - ダイアログ ボックス名、ウィンドウ名、画面名
 - ドロップダウン リスト名、リスト ボックス名
 - チェック ボックス名、ラジオ ボタン名
 - スクリーン上のアイコン
 - キーパッド上のキー名
 - 画面上のボタン名
- ビュレット (•) は、次を示します。
 - 実行する操作
 - 代替方法のリスト
 - 実行する必要があるが、任意の順番で実行できる手順のリスト
- 順番どおりに実行する必要がある手順 (順を追った手順) は、番号付きの一覧で示されます。

関連するドキュメントおよびソフトウェア

以下のドキュメントおよびソフトウェアには、次のリーダーに関する詳細情報が記載されています：

- RFD2000 Quick Start Guide (p/n MN-003129-xx)
- CRD1S-RFD2000 and SHARECRADLE-MC Cradle Regulatory Guide (p/n MN-003127-xx)
- RFD2000 RFID Developer Guide (p/n MN-003158-xx)
- Zebra RFID SDK for Android Developer Guide (p/n MN-003158-xx)
- TC20 Quick Start Guide (p/n MN-003018-xx)
- TC20 User Guide (p/n MN-003020-xx)
- developer.zebra.com/community/android/stagenow
- techdocs.zebra.com/stagenow/2-10/about/

このガイドを含むすべてのガイドの最新版については、次の弊社 Web サイトをご覧ください：
www.zebra.com/support

サービスに関する情報

本機器の使用中に問題が発生した場合は、お客様の使用環境を管理する技術サポートまたはシステム サポートにお問い合わせください。本機器に問題がある場合は、各地域の Zebra グローバル カスタマー サポート センターの担当者が、次のサイトに問い合わせをします。www.zebra.com/support

Zebra サポートへのお問い合わせの際は、以下の情報をご用意ください。

- 装置のシリアル番号
- モデル番号または製品名
- ソフトウェアのタイプとバージョン番号

Zebra では、サポート契約で定められた期間内に電子メール、電話、または FAX でお問い合わせに対応いたします。

Zebra サポートが問題を解決できない場合、修理のため機器をご返送いただくことがあります。その際に詳しい手順をご案内します。Zebra は、承認済みの梱包箱を使用せずに発生した搬送時の損傷について、その責任を負わないものとします。装置を不適切な形で搬送すると、保証が無効になる場合があります。

ご使用のビジネス製品を Zebra ビジネス パートナーから購入された場合のサポートについては、購入先のビジネス パートナーにお問い合わせください。

はじめに

はじめに

この章では、RFD2000 RFID スレッドの部品、バッテリーの取り付け、モバイル デバイスの接続、LED の意味、および充電について説明します。

パッケージの開梱

RFD2000 RFID スレッドを覆っている保護材を慎重にすべて取り外し、後で保管や搬送に使えるように、梱包箱を保管しておきます。次の項目がパッケージに入っていることを確認します。

- RFD2000
- バッテリー
- ストラップ
- クイック スタート ガイド

破損している機器がないかどうかを確認してください。不足または破損している機器がある場合は、ただちに Zebra Support Center (Zebra サポート センター) にお問い合わせください。連絡先については、[9ページのサービスに関する情報](#)を参照してください。

RFID スレッドの機能

RFD2000 RFID スレッドを使用すると、TC20 モバイル コンピュータを、スキャン トリガーを備えたガン タイプのハンドルとして使用することができます。RFD2000 はすべての RFID 操作に使用され、長時間にわたる大量のスキャンが必要な作業でモバイル コンピュータを使用する場合に、ユーザーへの負担が軽減されます。

図 1 RFD2000 RFID スレッドの機能

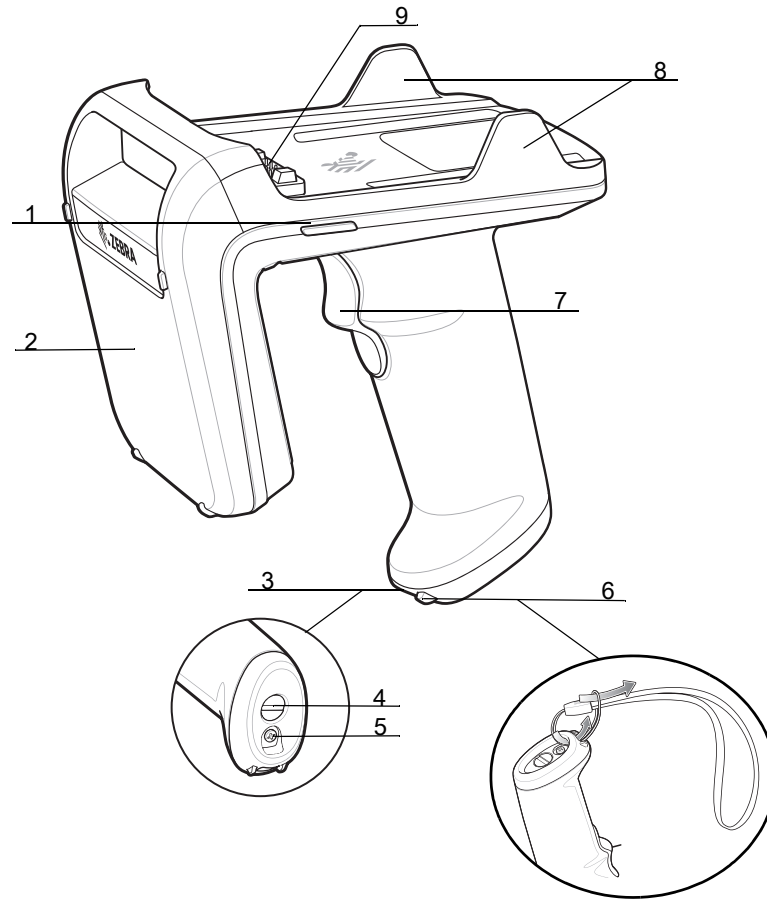


表 3 RFD2000 の部品

番号	項目
1	LED インジケータ (2)
2	アンテナ
3	バッテリー ボックス
4	バッテリー ボックス ラッチ
5	バッテリー ボックスのネジ
6	ストラップ用フック
7	トリガー
8	保持クリップ (2)
9	TC20 用コネクタ

LED の定義

充電中の RFD2000 LED の定義

RFD2000 RFID スレッドは 2 色の LED で状態を示します。

表 4 充電中の RFD2000 LED の定義

状況	RFD2000 電源 LED
充電が必要	黄色 (速く - 速く - ゆっくり)
充電中	黄色 (点滅)
バッテリー充電完了	緑色 (点灯)
充電エラー	黄色 (すばやく点滅)

充電中以外の RFD2000 LED の定義

表 5 充電中以外の RFD2000 LED の定義

モード	状況	RFD2000 電源 LED	TC20
LED モード 0 - すべての LED フィードバックが無効	タグ読み取り表示とバッテリー読み取りがオフ	消灯	バッテリーの充電状態 (SOC) が 10% 以下になると、短いビープ音が 4 回鳴ります
LED モード 1 - タグ読み取り表示有効	タグ読み取り表示有効 (デフォルト)	緑色の LED が点滅します	バッテリーの充電状態 (SOC) が 10% 以下になると、短いビープ音が 4 回鳴ります
LED モード 2 - バッテリー表示有効	バッテリー充電の状態 ¹	バッテリー残量が 99% ~ 51% の場合は緑色 バッテリー残量が 21% ~ 50% の場合は黄色 バッテリー残量が 0% ~ 20% の場合は赤色	
	低バッテリー充電状態 ¹	バッテリー残量が 0% ~ 10% の場合は赤色	バッテリーの充電状態 (SOC) が 10% 以下になると、短いビープ音が 4 回鳴ります
LED モード 3 - 低バッテリー表示有効	正常な充電状態の場合は LED の点灯なし	充電状態が 10% を超えている場合は LED の点灯なし	
	低バッテリー充電状態 ¹	バッテリー残量が 0% ~ 10% の場合は赤色	バッテリーの充電状態 (SOC) が 10% 以下になると、短いビープ音が 4 回鳴ります

¹RFD2000 RFID スレッドを充電クレードルから取り外す場合は、バッテリー充電状態の LED インジケータが 4 秒間点灯します。

LED の意味

電源投入

RFD2000 RFID スレッドの電源がオフのときに電源を投入するには、トリガーを 1.3 秒間押し続けます。RFD2000 RFID スレッドがブート アップを開始すると黄色の LED が一度点滅します。

回復モード

RFD2000 RFID スレッドを回復モードにするには、電源がオフになっているときに、トリガーを 20 秒間押し続けます。LED が赤色で点灯して、RFD2000 RFID スレッドが回復モードになったことを示します。

ファームウェアの更新

RFD2000 RFID スレッド ファームウェア アップデートが進行中で、LED が緑色で点滅します。

バッテリー エラー

RFD2000 RFID スレッドで無効なバッテリーを使用すると、LED が赤色で点滅します。RFD2000 用に製造されたバッテリー以外は使用しないでください。

バッテリー寿命終了

バッテリー寿命終了の表示は、デフォルトでは無効になっています。バッテリー健全性の LED 表示を有効にしたときのパーセンテージは次のとおりです。

- 寿命終了パーセンテージが 99% ~ 51% のときは緑色/赤色の交互点滅
- 寿命終了パーセンテージが 21% ~ 50% のときは黄色/赤色の交互点滅
- 残りの寿命終了パーセンテージが 0% ~ 20% のときは赤色の点滅

バッテリー健全性パーセンテージが構成可能なしきい値 (デフォルトは 60%) を下回った場合、バッテリー寿命終了表示がバッテリー充電状態の代わりに表示されます。

RFID スレッドのバッテリーの交換

バッテリーの取り外し

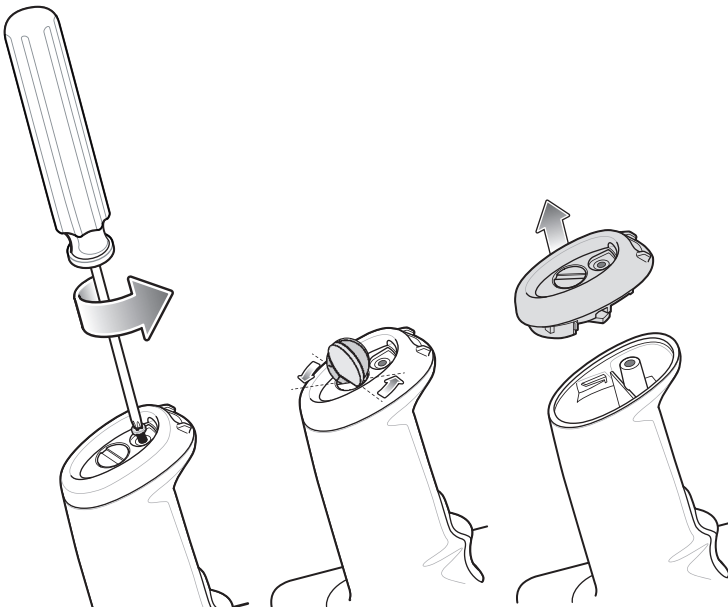
バッテリーを取り外すには、次の手順に従います。



メモ: 最初にご使用になる前に、RFD2000 RFID スレッドをフル充電します。

1. プラス ドライバを使用して、バッテリー ボックスのネジを外します。
2. マイナス ドライバまたはコインを使用して、バッテリー ボックス ラッチを反時計回りに約 30° 回して外します。
3. バッテリー ボックスのキャップを取り外します。
4. バッテリーを取り外します。

図 2 RFID スレッドのバッテリーの取り外し

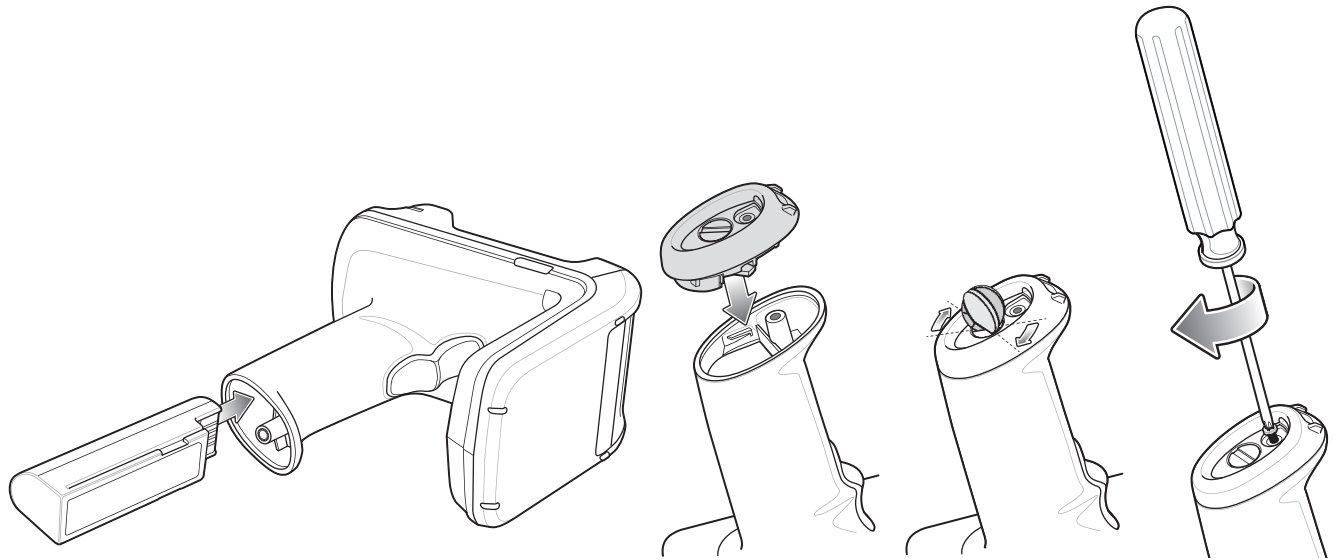


バッテリーの取り付け

バッテリーを取り付けるには、次の手順に従います。

1. バッテリーをコネクタ側から先に、端子部分をトリガー方向に向けて、バッテリー ボックスに挿入します。
2. バッテリー ボックスのキャップを取り付けます。
3. マイナス ドライバまたはコインを使用して、バッテリー ボックス ラッチを時計回りに回して締めます。
4. バッテリー ボックスのネジを挿入し、プラス ドライバを使用して締めます。

図 3 RFID スレッドのバッテリーの取り付け

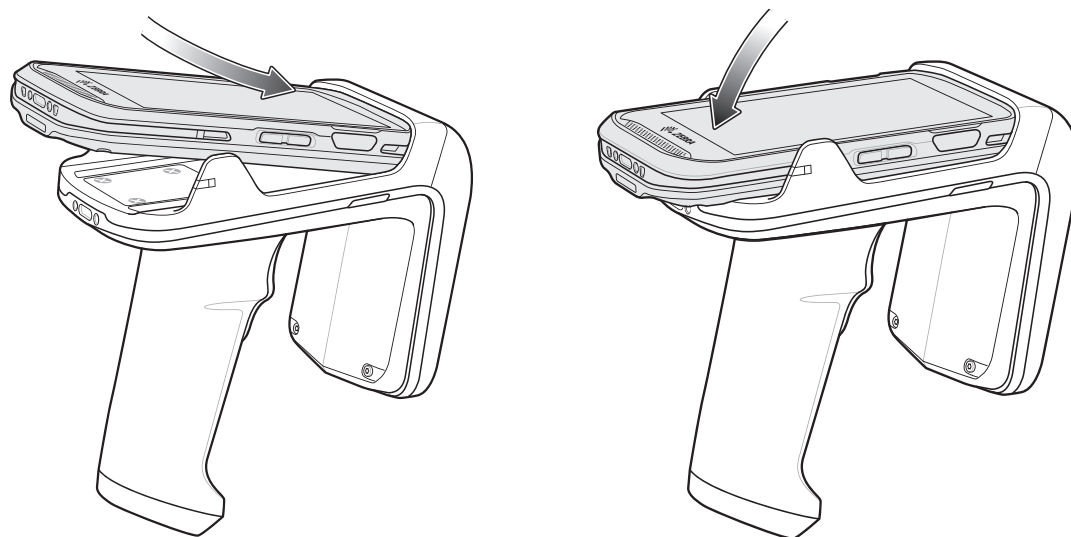


モバイル コンピュータを RFID スレッドに取り付ける/取り外す

モバイル コンピュータを RFID スレッドに取り付ける

TC20 モバイル コンピュータを RFD2000 RFID スレッドに固定するには、スレッド ベースの前方に TC20 を完全に装着し、保持クリップまで押し下げます。

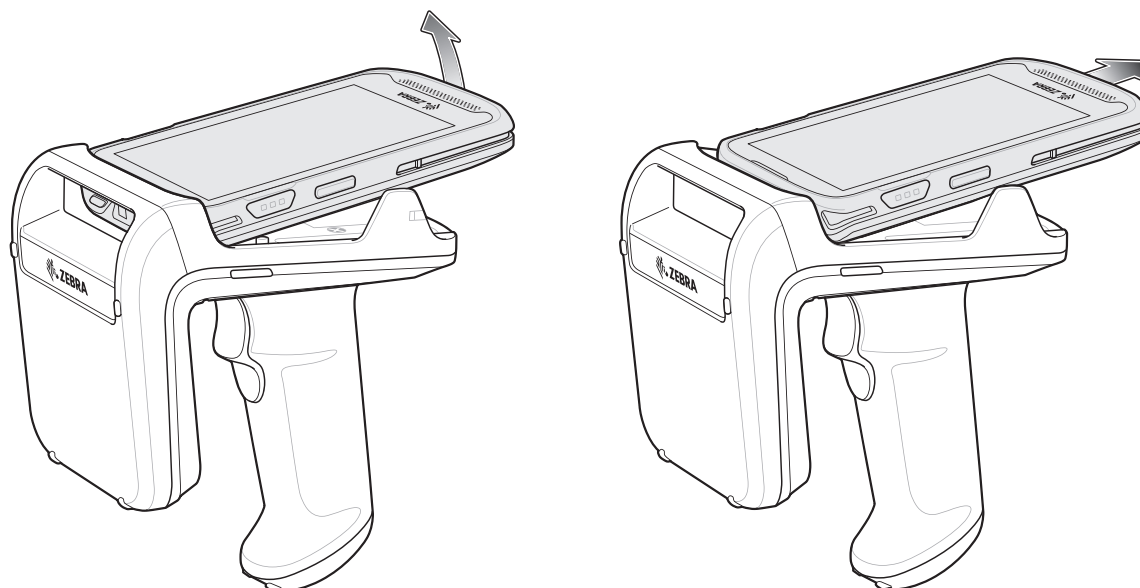
図 4 モバイル コンピュータを RFID スレッドに取り付ける



モバイル コンピュータを RFID スレッドから取り外す

TC20 モバイル コンピュータを RFD2000 RFID スレッドから取り外すには、スレッドのハンドルをしっかり握って、TC20 をスレッド ベースから持ち上げて外します。

図 5 モバイル コンピュータを RFID スレッドから取り外す

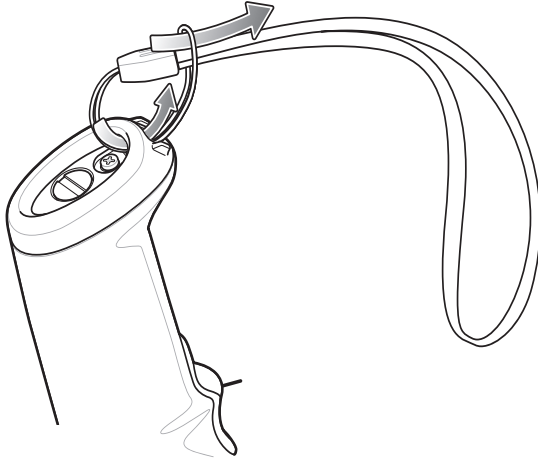


ストラップの取り付け

オプションのストラップを取り付けるには、次の手順に従います。

1. RFD2000 のハンドルの下部にあるストラップ用フックの中に、ストラップのループを挿入します。
2. ストラップの上部をループの中に通します。
3. 取り付け点の上でクリップをループに通して引っ張り、しっかり固定します。

図 6 ストラップの取り付け

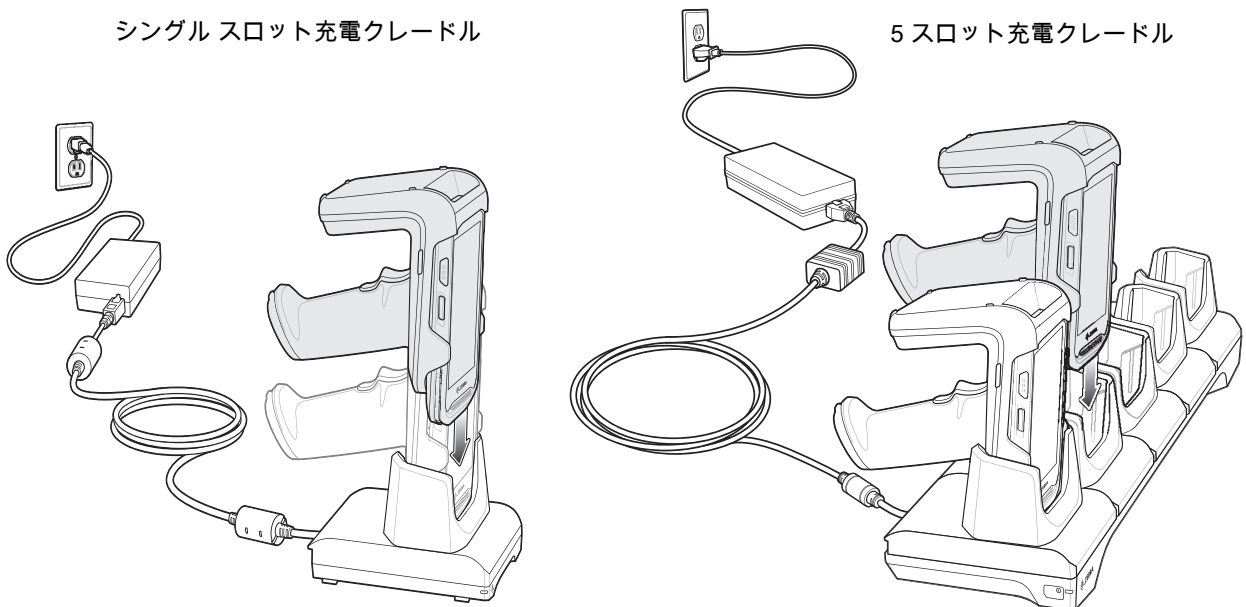


充電中

RFD2000 を初めて使用する場合、まず充電クレードルにセットして、LED 電源/充電インジケータが緑色に点灯するまでフル充電してください (充電状態の表示については[12ページのLED の定義](#)を参照)。RFD2000 RFID スレッドおよび TC20 モバイル コンピュータは個別に、または連結して、充電クレードルで充電できます。

RFD2000 RFID スレッドは、充電クレードルから取り外す際には、自動的に電源がオンになっています。リーダーが 30 分間使用されない場合、リーダーはオフ モードになります。ハンドルのトリガーを 1.3 秒間押すと、リーダーは再びオンになります。

図 7 充電クレードル



バッテリー管理

メイン バッテリーの充電状態を確認するには、適切な Zebra RFID Mobile アプリケーションを実行して、[Settings] > [Battery] を選択します。LED でバッテリー状態を確認するには、クレードルから RFD2000 RFID スレッドを取り外します。バッテリー充電状態は 4 秒間表示されます。

Zebra RFID Mobile アプリケーションでは、バッテリー ステータスはバッテリーの充電または放電状況を示し、バッテリーレベルはバッテリー充電量 (フル充電と比較した割合) を示します。パートナー アプリケーションを使用している場合は、パートナー アプリケーションのドキュメントを参照してください。

低バッテリー通知

デフォルトでは、RFD2000 RFID スレッドをクレードルから取り外したとき、LED バッテリー充電状態の表示は 4 秒間続きます。バッテリーの充電状態が 21 ~ 50% の範囲にあるとき、表示は黄色です。バッテリーの充電状態が 0 ~ 20% の範囲にあるとき、表示は赤色です。

バッテリー充電状態が 10% を下回ると、TC20 モバイル デバイスでは短いビープ音が 4 回鳴ります。

バッテリーの最適な使用方法

RFD2000 は、アプリケーションのニーズに対応した、インテリジェントなパフォーマンスとバッテリーの最適化をサポートします。この設定を有効にするために API が使用できます。詳細については、『RFD2000 RFID Developer Guide』(p/n MN-003158) を参照してください。

モバイル デバイス

TC20 モバイル コンピュータの詳細については、『TC20 User Guide』で次のサイトにある p/n MN-003020-xx を参照してください。 www.zebra.com/support

Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーション

はじめに

この章では、RFD2000 の機能とタグ操作機能を実行する、Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーションについて説明します。

要件

Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーションの要件は、次のとおりです。

- モバイル コンピュータ上の Android の推奨バージョンは、Nougat バージョン 7.1.x です
- Zebra Enterprise モバイル コンピュータ - TC20
- Zebra RFID Manager APK
- Zebra RFID Mobile アプリケーション APK

Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーションのインストール



メモ: Zebra RFID Mobile アプリケーションをインストールする前に、まず Zebra RFID Manager APK をインストールする必要があります。

www.zebra.com/support から、モバイル コンピュータに、Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーション (またはパートナー アプリケーション) をインストールします。Android デバイスにソフトウェアをインストールする手順は、Android のバージョンに応じて異なります。

ソフトウェアをインストールするには、次の手順に従います。

1. Android デバイスをコンピュータに接続します。このデバイスは MTP デバイスとして接続する必要があり、またコンピュータ上のドライブとして表示される必要があります。メディア転送プロトコルを使用したファイルの転送については、次のサイトにある TC20 モバイル コンピュータの『Integrator Guide』を参照してください。www.zebra.com/support
2. [Device Settings] > [Security] の順に移動し、[Unknown Sources] チェック ボックスをオンにして、不明なソースからのアプリケーションのインストールを許可します。
3. Zebra_RFID_Mobile_API-1.0.5.xx.apk ファイルをモバイル デバイスにコピーします。
4. [Settings] > [Security] の順に移動し、[Unknown sources] を選択します。
5. ファイル マネージャを使用して、[手順 3](#) で Zebra_RFID_Mobile_API-1.0.5.xx.apk ファイルのコピー先にしたフォルダでこのファイルを見つけ、選択します。
6. ポップアップ ウィンドウで、Android App インストーラを選択して、インストールを開始します。

Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーション

このアプリケーションは Android モバイル デバイス上で動作し、RFD2000 の機能とタグ操作機能を実行します。

デバイスが RFD2000 リーダーに接続されているかどうかに関係なく、このアプリケーションでは、すべての画面に移動できます。リーダーに接続されていない場合、[Settings] 画面にはアプリケーションの既定が表示されます。接続されていない場合、どのような操作 (Rapid Read、在庫、タグの確認、アクセス操作、設定の保存、バッテリ状態) を実行しようとしても、「No Active Connection with Reader」と表示されます。

在庫/確認操作が進行中である場合は、すべての画面に移動します。操作が進行中である場合、追加の操作が開始されると、デバイスでは「Operation in Progress」と表示されます。

Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーションの使用法

RFID の操作にこのアプリケーションを使用するには、次の手順に従います。

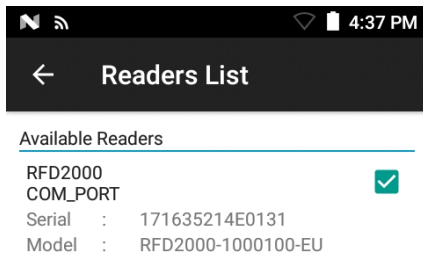
1. Android モバイル デバイスに Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーションがインストールされていることを確認します。
2. モバイル デバイスで Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーションを起動します。
3. [Home] 画面に戻り、[Settings] > [Antenna] を選択します。既定では [Power Level] は 27.0dBm に設定されています。日本向けの機器は、SKU の種類に応じて異なる既定のパワーレベルに設定されています。
4. デバイスを使用する前に、およびリージョンが設定されていない場合は、デバイスが動作するリージョンを設定します。リージョンを設定するには、アプリケーションを開き、[Settings] > [Regulatory] を選択します ([36ページのRegulatory](#)を参照)。

RFD2000 への TC20 の接続

1. 手動でデモ アプリケーションを起動します。
2. [Settings] の [Readers List] から **[RFD2000]** チェック ボックスをオンにします。アプリケーションは自動的にデバイスに接続します。

接続が成功すると、現在の画面に RFD2000 からの値が入力されます。

図 8 [Settings] - [Readers List] / [Connection] 画面



RFD2000 の接続解除

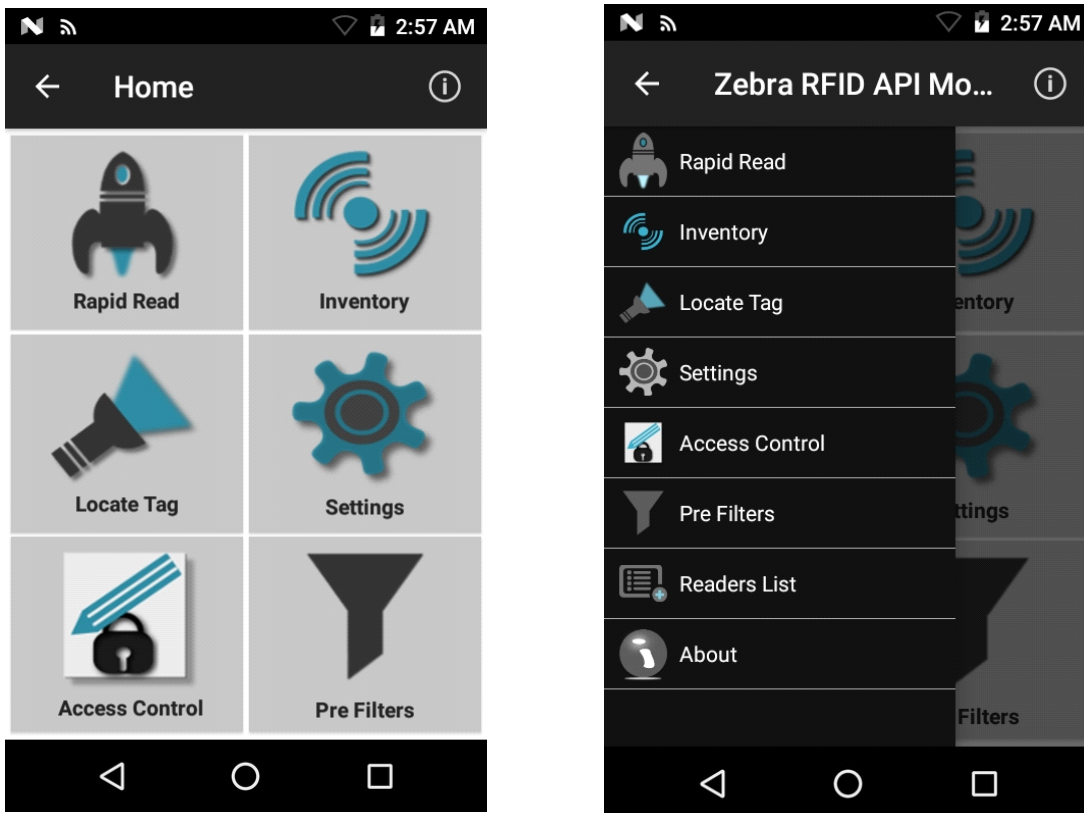
RFD2000 を TC20 から取り外すと、アプリケーションが接続解除されます。または、[Readers List] ページに移動し、リーダーの横にあるチェック ボックスをオフにして接続解除する方法もあります。

デモ アプリケーションの画面

[Home] 画面

Android 用の Zebra RFID Mobile アプリケーションにアクセスするには、モバイル デバイス上の **[RFID Reader]** アイコンをタッチして [Home] 画面を表示します。**[RFID Reader]** アイコンを再度タップすると、RFID リーダーのメニューが表示されます。メニュー項目をタップするとその画面にアクセスします。

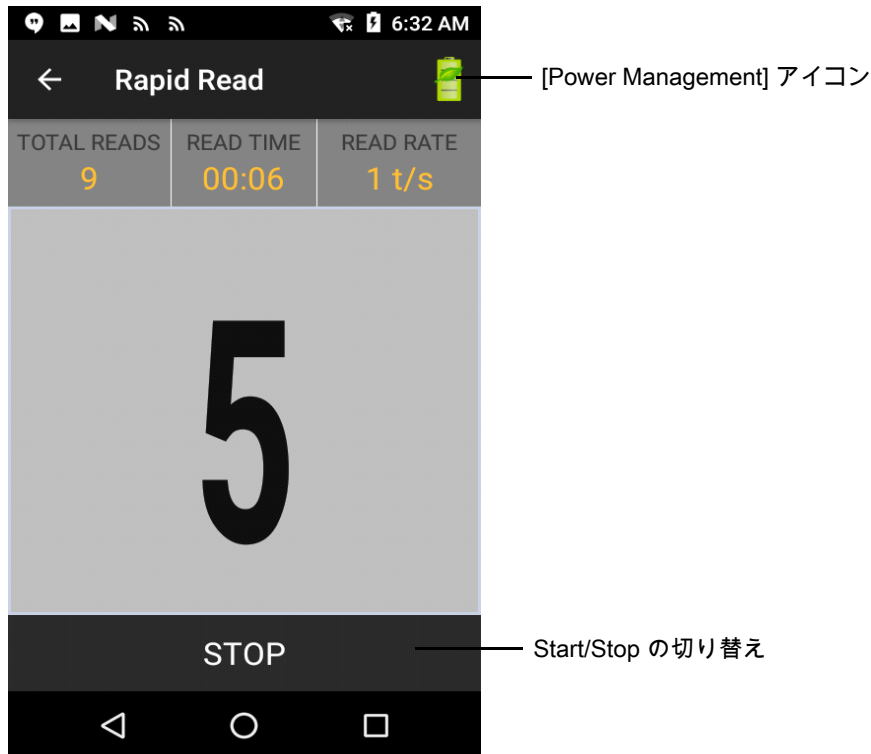
図 9 [Home] 画面と [Menu] 画面



Rapid Read

[Home] 画面または [Menu] 画面から [Rapid Read] をタップします。

図 10 [Rapid Read] 画面



[Rapid Read] 画面と [Inventory] 画面には、次のデータが表示されます ([25ページのInventory](#)を参照)。

- [Total tag] 数
- [Read time] (mm:ss)
- タグの [read rate] (タグ/秒)
- 固有のタグの数 (画面の中央に表示)

[Rapid Read] 画面と [Inventory] 画面は、リーダー上での在庫操作を異なる 2 通りのビューで示したものです。**Start/Stop** 機能は、両方の画面で、どちらから実行しても同じことになります。たとえば、ユーザーが [Rapid Read] 画面で操作を開始して [Inventory] 画面に移動すると、[Inventory] 画面で使用するボタンは [STOP] になります。これは、[Inventory] 画面で操作が開始された場合でも同様です。Rapid Read 処理の間、ユーザーが [Inventory] 画面に移動すると、各タグのタグ数が含まれるタグの詳細を表示できます。表示される統計情報は、処理の開始に使用された画面に関係なく、[Rapid Read] 画面と [Inventory] 画面で維持されます。

[START] を選択すると、Rapid Read 在庫操作が始まります。[STOP] を選択すると、在庫操作が停止します。



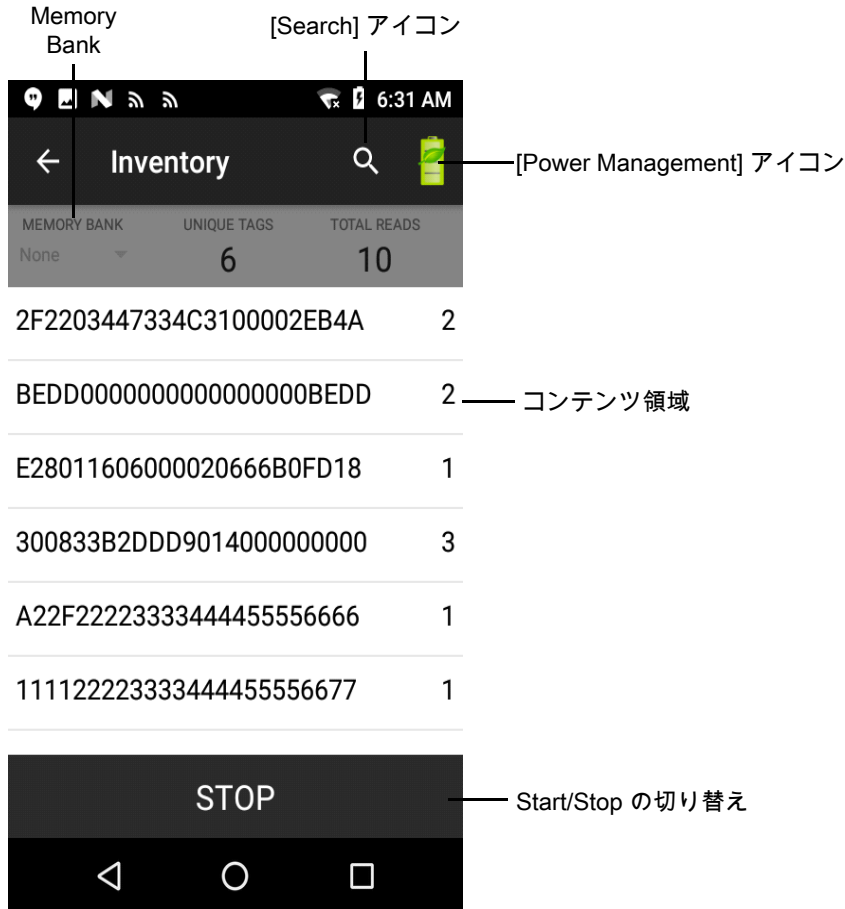
メモ: また、RFD2000 のスキャン トリガーで在庫操作を開始/停止することもできます。トリガーを押すと操作が始まり、再度押すと停止します。

別の画面に移動しても、操作は停止しません。ただし、Rapid Read の処理中に変更または別の操作を行おうとすると、エラーになります。

Inventory

[Home] 画面または [Menu] 画面から [Inventory] を選択します。

図 11 [Inventory] 画面



タグ読み取りは、[Rapid Read] 画面だけでなくこの画面上でも開始/停止されます (24ページのRapid Readを参照)。処理が始まると、画面にタグ情報が表示されます。

[START] を選択すると、Rapid Read 在庫操作が始まります。[START] ボタンは [STOP] に変わります。[STOP] をタップすると、読み取り在庫操作が停止します。



メモ: また、RFD2000 のスキャン トリガーで在庫操作を開始/停止することもできます。トリガーを押すと操作が始まり、再度押すと停止します。

[Locate Tag] 画面に移動すると、選択されているタグ ID がその画面に表示されています (28ページのLocate Tagを参照)。

[Inventory] 画面の機能

表 6 [Inventory] 画面の機能

項目	説明
アクション バー	
タグ	[Memory Bank] をタップし、ドロップダウン メニューから次のいずれかのメモリ バンク オプションを選択します。 • [None] - EPC (既定) になります。 • [User] - タグが在庫操作されている場合にユーザー メモリ バンク データの読み取りを許可します。 • [Reserved] - タグが在庫操作されている場合に予約済みメモリ バンク データの読み取りを許可します。 • [TID] - タグが在庫操作されている場合に TID メモリ バンク データの読み取りを許可します。 • [EPC] - タグが在庫操作されている場合に EPC メモリ バンク データの読み取りを許可します。 次の在庫操作が始まると、選択されているメモリ バンクの詳細が表示されます。接続されているリーダーで操作が継続している場合、このメニューは非アクティブになります。 • [Default Display] - [None]。
検索	[Search] アイコンをタップし、タグ ID を入力します。エントリに一致するタグがコンテンツ領域に表示されます。
電源管理	Dynamic Power Optimization がオンであるかどうかを示すアイコン。 38ページのPower Management を参照してください。[Power Management] アイコンをタップすると、[Battery Status] 画面が開きます。
コンテンツ領域 (タグを選択する)	[Tag ID] をタップすると、そのタグが強調表示されます。強調表示されているタグ ID は、[Access Control] 画面の [Tag Pattern] テキスト領域だけでなく、[Tag Location] テキスト領域にも入力されます。[START] をタップすると、タグの検索が始まります。詳細については、 28ページのLocate Tag を参照してください。この画面から [Menu] に戻るか、[Home] 画面に移動して [Locate Tag] を選択します。

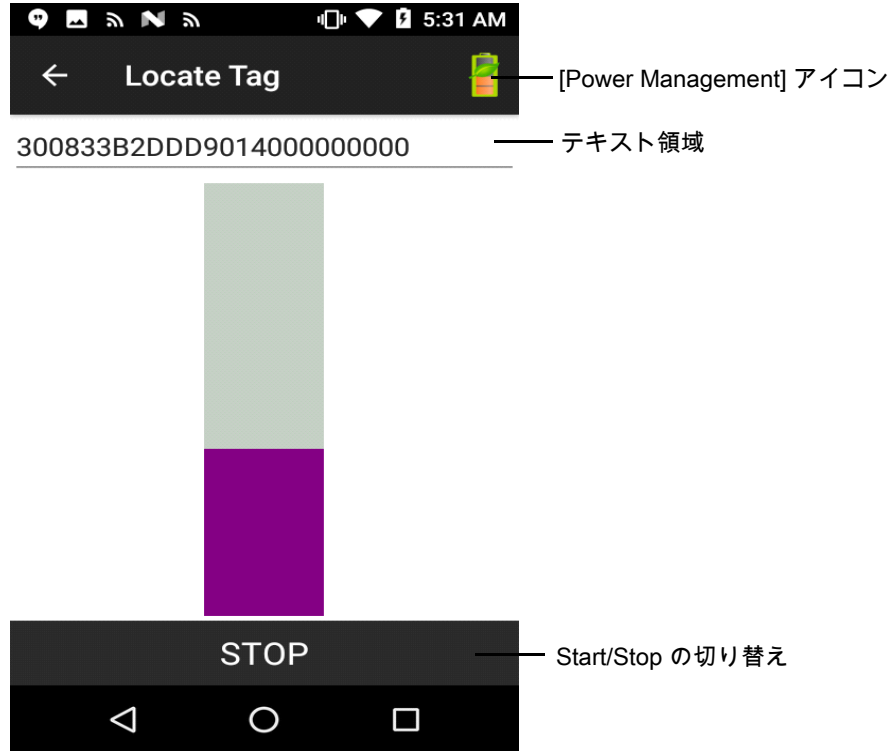
表 6 [Inventory] 画面の機能 (続き)

項目	説明																										
コンテンツ領域 (タグを選択する)	この領域に表示されるタグは、メモリ バンクで選択されたオプションに基づきます。タグ ID をタップすると、タグに関する詳細が展開表示されます。タグ ID を再度タップすると、詳細が折りたたまれます。 既定のタグ表示の例: <table> <tr> <td>Tag ID</td><td>Tag Count</td></tr> <tr> <td>AD99 1540419072596540040</td><td>4</td></tr> </table> タグの展開表示の例: メモ: タグの詳細の展開表示が可能であるのは、在庫操作が停止している場合のみです。メモリ バンクのデータが表示されるのは、在庫操作が完了している場合のみです。 <table> <tr> <td>Tag ID</td><td>Tag Count</td></tr> <tr> <td>AD99 1540419072596540040</td><td>4</td></tr> <tr> <td>EPC MEMORY</td><td>3000</td></tr> <tr> <td>RSSI</td><td></td></tr> <tr> <td>-50</td><td></td></tr> <tr> <td>Phase</td><td></td></tr> <tr> <td>1800</td><td></td></tr> <tr> <td>USER</td><td></td></tr> <tr> <td>1122334455667788AABBCCDDEEFF</td><td></td></tr> <tr> <td>1122334455667788AABBCCDDEEFF</td><td></td></tr> <tr> <td>1122334455667788AABBCCDDEEFF</td><td></td></tr> </table>	Tag ID	Tag Count	AD99 1540419072596540040	4	Tag ID	Tag Count	AD99 1540419072596540040	4	EPC MEMORY	3000	RSSI		-50		Phase		1800		USER		1122334455667788AABBCCDDEEFF		1122334455667788AABBCCDDEEFF		1122334455667788AABBCCDDEEFF	
Tag ID	Tag Count																										
AD99 1540419072596540040	4																										
Tag ID	Tag Count																										
AD99 1540419072596540040	4																										
EPC MEMORY	3000																										
RSSI																											
-50																											
Phase																											
1800																											
USER																											
1122334455667788AABBCCDDEEFF																											
1122334455667788AABBCCDDEEFF																											
1122334455667788AABBCCDDEEFF																											

Locate Tag

[Home] 画面または [Menu] 画面から [Locate Tag] をタップします。

図 12 [Locate Tag] 画面



この画面で、テキスト領域にタグ ID を入力するか、[Inventory] 画面からタグを選択して、検索するタグ ID を事前に入力します。

[START] をタップすると、タグの確認操作が始まります。[STOP] をタップすると、停止します。RFD2000 のトリガーを使用して操作を開始/停止することもできます。



メモ: また、RFD2000 のスキャン トリガーで在庫操作を開始/停止することもできます。トリガーを押すと操作が始まり、再度押すと停止します。

表示されているカラー バーにより、タグの相対距離が示されます。

タグの確認操作が始まると、別の画面に移動しても、[STOP] を選択するまで操作は停止しません。

Settings

図 13 [Settings] 画面

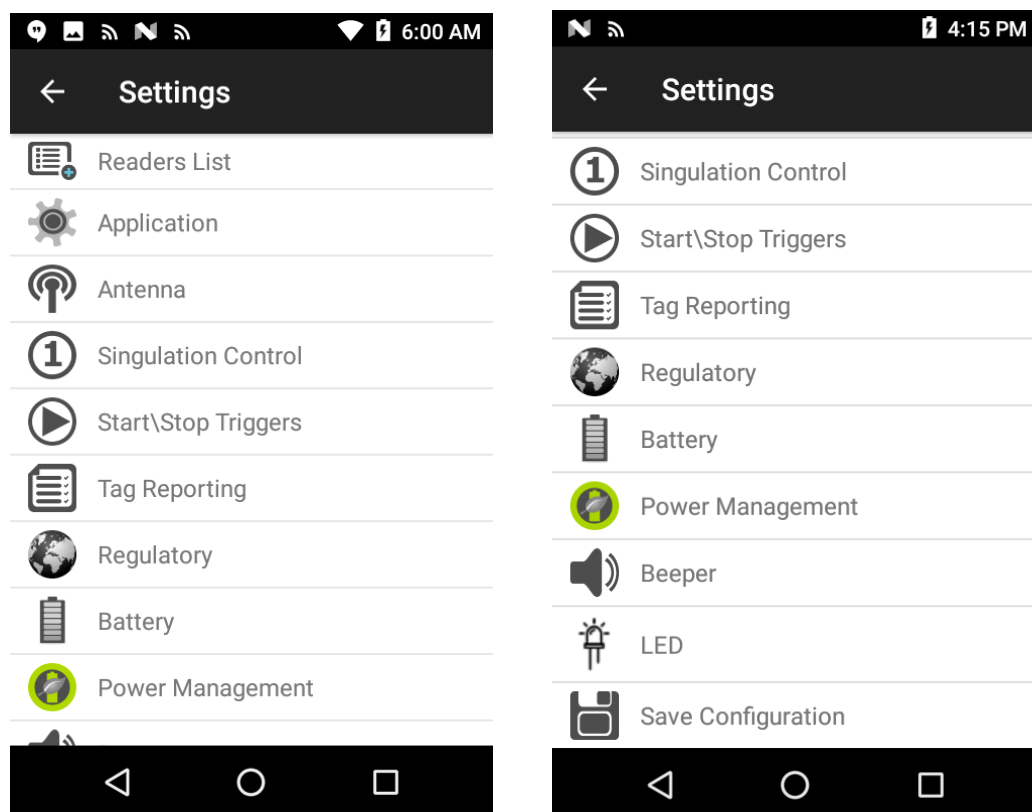


表 7 [Settings] 画面のオプション

[Settings] のオプション	説明	ページ
[Readers List]	接続済みの RFD2000 RFID が表示されます。	5-30
[Application]	リーダーの接続、通知、およびデータ エクスポートの設定が表示されます。	5-31
[Antenna]	アンテナのパワーレベルとリンク プロファイルが表示されます。	5-32
[Singulation Control]	[Session]、[Tag Population]、[Inventory State] および [SL Flag] が表示されます。	5-33
[Start/Stop Triggers]	[START]/[STOP] ボタンの制御を許可します。	5-34
[Tag Reporting]	タグ報告のオプションとして、ユニーク タグの報告をサポートします。	5-35
[Regulatory]	リージョンとチャンネルを選択できます。	5-36
[Battery]	RFD2000 のバッテリー状態を表示します。	5-37
[Power Management]	Dynamic Power Optimization のオン/オフを切り替えます。	5-38

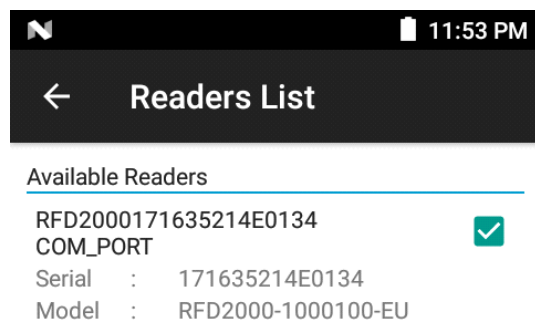
表 7 [Settings] 画面のオプション (続き)

[Settings] のオプション	説明	ページ
[Beeper]	ビープ音のオン/オフ切り替えと、音量の設定に使用します。	5-39
[LED]	TC20 タグ読み取り LED インジケータを有効/無効にします。	5-39
[Save Configuration]	次のすべての設定を保存可能: [Antenna]、[Singulation]、[Tag Reporting]、[START/STOP trigger]、[Beeper Volume]、[Regulatory]。 メモ: 変更すると、設定も自動的に保存されます。	5-40

Readers List

[Settings] 画面から、[Readers List] を選択します。

図 14 [Settings] - [Readers List] 画面

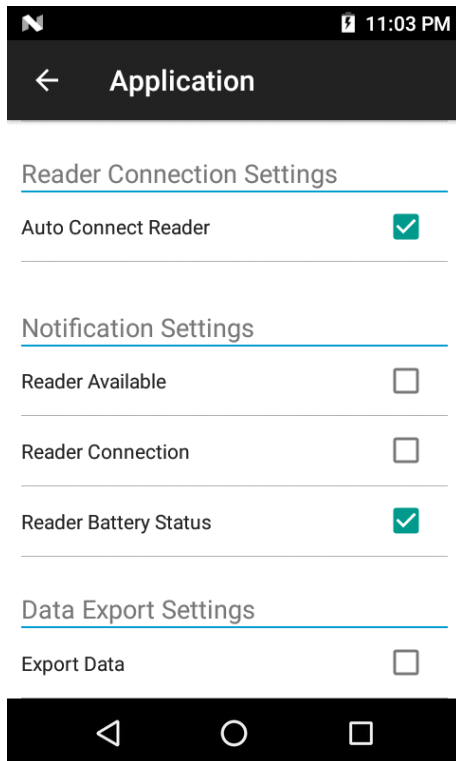


[Readers List] からリーダー名をタップして、選択したリーダーとのセッションを確立します。もう一度タップすると、セッションが終了します。

Application

[Settings] 画面から、[Application] を選択します。

図 15 [Settings] - [Application] 画面

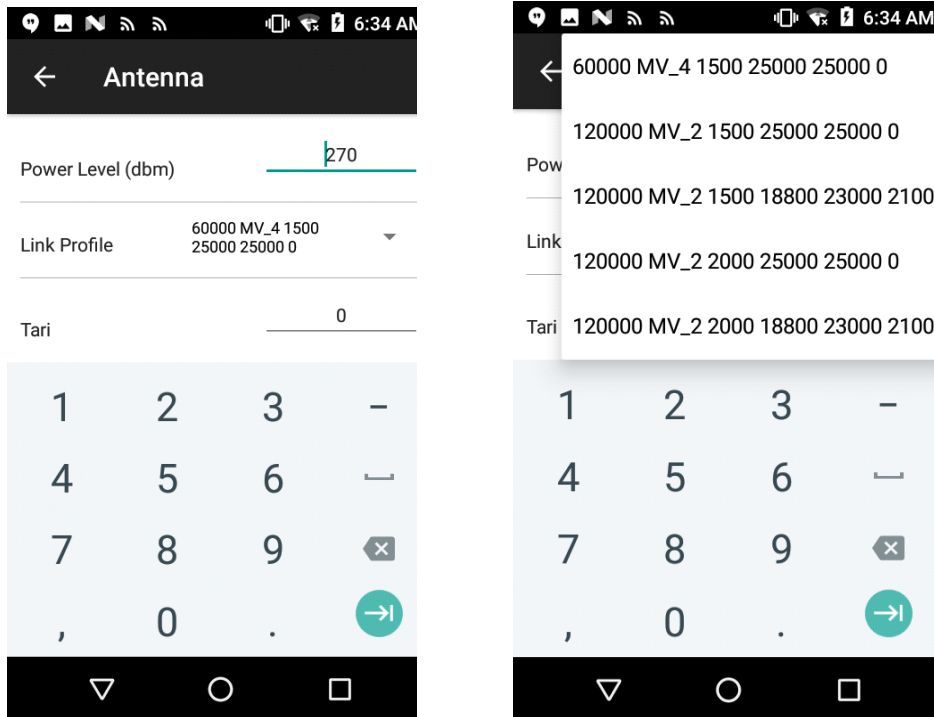


アプリケーションでは常に、TC20 モバイル コンピュータに接続された RFD2000 リーダーが検出されます。

- **[Auto Reconnect Reader]** - チェックされていると、アプリケーションではリーダーへの再接続を試行します。
- **[Export Data]** - チェックされていると、在庫操作が停止した場合、アプリケーションでは在庫操作が行われた RFID データがファイルに書き込まれます。Android プラットフォームでは、ファイルは固定ディレクトリに保存されます。在庫ディレクトリ (Sdcard/inventory/<files>) でのファイル参照でファイルを確認します。また、これらのファイルを PC にコピーすることができます。

Antenna

図 16 [Settings] - [Antenna]



[Antenna] 画面に以下が表示されます。

- **[Power Level]** には、現在の選択が表示され、また (RFD2000 により報告される) 使用可能なパワーレベルのドロップダウン リストが含まれます。27.0dBm はデフォルト設定です。使用されている値が 10dBm を単位としているため、270 と表示されます。日本向けの機器は、SKU の種類に応じて異なる既定のパワーレベルに設定されています。

DPO が有効になっている場合の最小パワーレベルは 3.1dBm です。DPO が無効の場合、最小パワーレベルは 0dBm です。

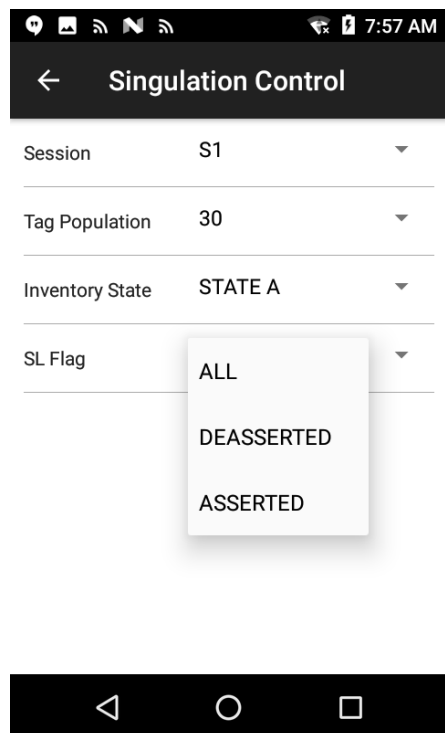
- **[Link Profile]** には、現在の選択が表示され、また (RFD2000 により報告される) 使用可能なリンク プロファイルのドロップダウン リストが含まれます。

リンク プロファイルの表示形式は次のとおりです。ビット/秒単位である戻りリンクデータのビットレート (60000 -> 60Kbs など)、Miller 値 (MV_4 -> Miller 4 など)、変調の種類 (PR ASK がサポートされている唯一の変調)、PIE 値には単位がなく 1.5 と 2 のいずれか (1.5 -> 1500 および 2 -> 2000 など)、最小 Tari 値は元のマイクロ秒単位の値が 1000 倍 (6250 は 6.25 マイクロ秒を示す)、最大 Tari 値は元のマイクロ秒単位の値が 1000 倍、Tari ステップ値は元のマイクロ秒単位の値が 1000 倍です。ステップ値がゼロである場合、このリンク プロファイルでは Tari が固定されています。ステップ サイズがゼロ以外である場合、Tari の既定値が最小値です。

- リーダーへの接続が存在しない場合、**[Power Level]** と **[Link Profile]** は空白になります。

Singulation Control

図 17 [Settings] - [Singulation Control]



各アンテナのシンギュレーション制御の設定を表示/構成します。

- **[Session]** - 使用可能なオプション (S0、S1、S2、S3) が含まれるドロップダウン リスト。
- **[Tag Population]** - 読み取り幅 (FOV: Field of View) 内のタグの見積もり数の数値。表示される値は、30、100、200、300、400、500、600 です。
- **[Inventory State]** - State A および State B、AB FLIP。
- **[SL flag]** - ALL、DEASSERTED、ASSERTED。

ドロップダウン リストからすべての値を選択できます。

Start\Stop Triggers

図 18 [Settings] - [Start/Stop Triggers]

The screenshot shows the 'Start\Stop Triggers' settings screen. At the top, there's a title bar with a back arrow and the text 'Start\Stop Triggers'. Below this, the screen is divided into two main sections: 'START' and 'STOP'.
 In the 'START' section:
 - 'Start Trigger' is set to 'Handheld' with a dropdown arrow.
 - 'Trigger Released' has an unchecked checkbox.
 - 'Trigger Pressed' has a checked checkbox.
 In the 'STOP' section:
 - 'Stop Trigger' is set to 'Duration' with a dropdown arrow.
 - 'Duration (ms)' is set to '10000' with an input field.
 At the bottom of the screen, there are three standard Android navigation icons: a back arrow, a circle, and a square.

[Start Trigger] の [Periodic] には、[Period] 入力ボックス (ミリ秒単位) が表示されます。

[Stop Trigger] の [Duration]、[Tag Observation] および [N Attempts] には、数値の入力ボックスが表示されます。すべての時間の入力はミリ秒単位です。

リーダーにトリガーを保存するために必要なすべての詳細を入力しないと、アプリケーションではリーダーにトリガー設定を保存しません。

[Start/Stop Trigger] の設定に必要な入力は次のとおりです。

- [Start Trigger]
 - [Immediate]
 - [Hand-held] - [Trigger Pressed] と [Trigger Released] のいずれかのチェック ボックスをオンにします。
 - [Periodic] - ミリ秒単位で期間を入力します。
- [Stop Trigger]
 - [Immediate]
 - [Hand-held] - ミリ秒単位で [Timeout] を指定して、[Trigger Pressed] と [Trigger Released] のいずれかのチェック ボックスをオンにします。
 - [Duration] - ミリ秒単位で期間を入力します。
 - [Tag Observation] - ミリ秒単位でタイムアウトを指定してタグの数を入力します。
 - [N Attempts] - ミリ秒単位でタイムアウトを指定して試行回数を入力します。

[Start Trigger] の種類が [Hand-held] トリガー (Pressed または Released) である場合、繰り返し操作を実行できれば、アプリケーションは操作で使用事例を実現するための繰り返しを設定します。

トリガーが Hand-held と定義されている場合、アプリケーションでは Hand-held トリガー アクションに対して [Immediate] トリガーの種類として動作しません。

Tag Reporting

図 19 [Settings] - [Tag Reporting]

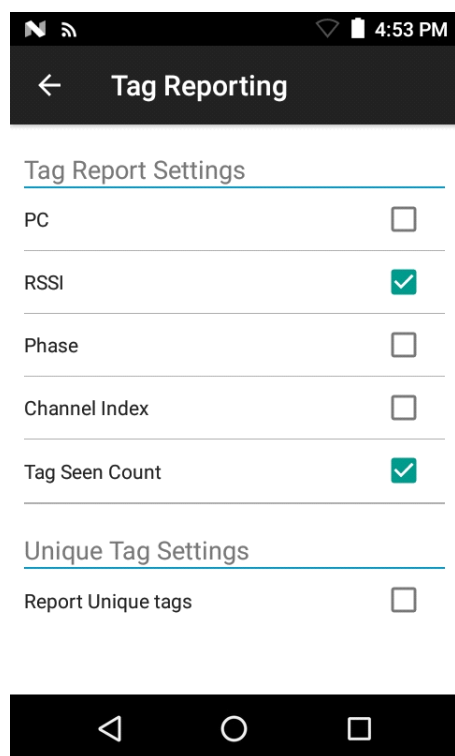
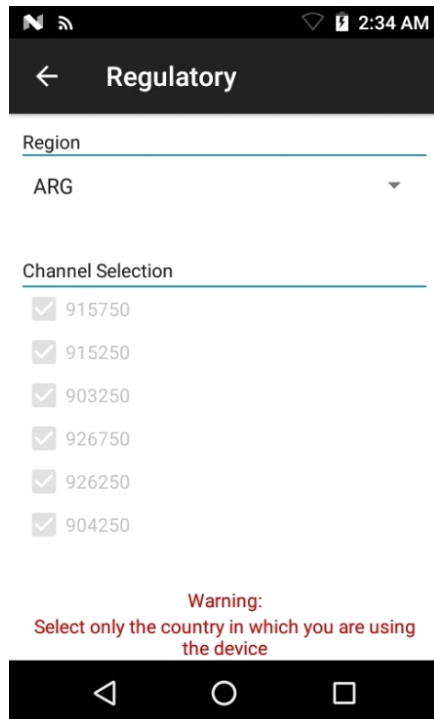


表 8 [Tag Reporting] 画面のオプション

オプション	説明
[PC]	オンにすると、タグ データの一部としての PC の報告を許可します。
[RSSI]	RSSI (Received Signal Strength Indication) がタグ データの一部として報告されるかどうかを示す選択です。
[Phase]	位相がタグ データの一部として報告されるかどうかを示す選択です。
[Channel Index]	規制チャネル インデックスがタグ データの一部として報告されるかどうかを示す選択です。
[Tag Seen Count]	タグ認識数がタグ データの一部として報告されるかどうかを示す選択です。
[Report Unique Tags]	このオプションが有効な場合、リーダーはユニーク タグの読み取りのみを報告します。[Tag List Match Mode] を使用する場合、ユニーク タグの報告機能を有効にできます。

Regulatory

☒ 20 [Settings] - [Regulatory]



[Region] ドロップダウンには、デバイスで設定されている現在のリージョンが表示されます。デバイスを使用する前に正しいリージョンを選択します。

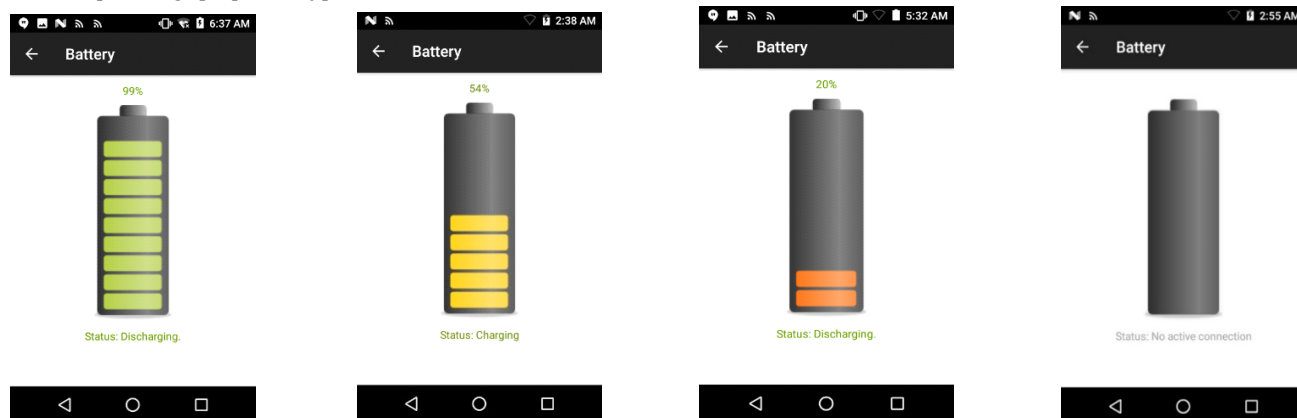
- **[Channel Selection]** は、チャンネル設定が許可されているリージョンにのみ許可されます。
- サポートされるリージョンは、RFD2000 により報告されます。
- RFD2000 でリージョンが構成されていない場合、RFD2000 への接続後に表示される最初の画面は **[Regulatory]** 画面です。



メモ: 機器を使用する国のみを選択してください。

Battery

図 21 [Settings] - [Battery]

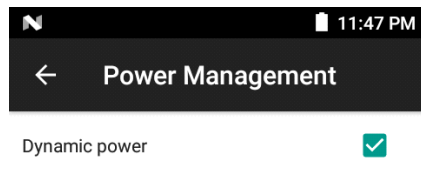


この画面には、RFD2000 RFID スレッドのバッテリーのステータスが表示されます。バッテリー レベルは次のとおりです。

- 高レベル (緑色) のステータス - バッテリーはかなり充電されている
- 充電中/放電中のステータス
- 危機的 (赤色) ステータス - バッテリー レベルが危機的
- 低 (オレンジ色) ステータス - バッテリー レベル低
- リーダーが接続されていない (灰色) - 有効な接続なし

Power Management

☒ 22 [Settings] - [Power Management]



Dynamic Power optimization configures the reader for best battery life and works with Pre configured settings. Dynamic Power optimization works only for inventory operation



この画面には、リーダーで **Dynamic Power Optimization (DPO)** を有効にするためのオプションがあります。DPO を有効にすると、在庫操作の実行中にバッテリー駆動時間が長くなります。

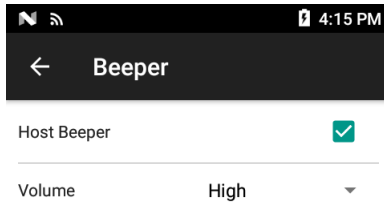


メモ: 既定では、DPO は有効です。アクセス操作の実行時、またはフィルタの使用時に DPO を無効にする必要はありません。DPO は自動的に無効になり、操作が完了すると、自動的に有効になるからです。

[Dynamic Power] がオンである場合、アプリケーションのタイトル バーに緑色のバッテリー アイコンが表示されます。これをタップすると、[Battery Status] 画面が表示されます。

Beeper

図 23 [Settings] - [Host Beeper]

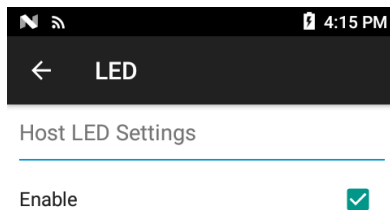


この画面には、現在の **[Host Beeper]** の設定が表示されます。**[Host Beeper]** チェック ボックスをオフにして、ビープ音をオフにしたり、音量を **[High]**、**[Medium]** または **[Low]** に設定したりします。

モバイル コンピュータでは、在庫およびアクセス操作用ビープ音を提供します。

LED

図 24 [Settings] - [Host LED]



この画面には、現在の **[Host LED Settings]** が表示されます。チェック ボックスをオンにすると、モバイル コンピュータ LED を有効にします。在庫およびアクセス関連の操作時に、LED が緑色で点滅し、読み取りが行われたことを示します。

Save Configuration

図 25 [Settings] - [Save Configuration]

ANTENNA	
Antenna Power	270
Link Profile	60000 MV_4 1500 25000 25000 0

SINGULATION	
Session	S1
Tag Population	30
Inventory State	STATE A
SL Flag	ALL

SAVE

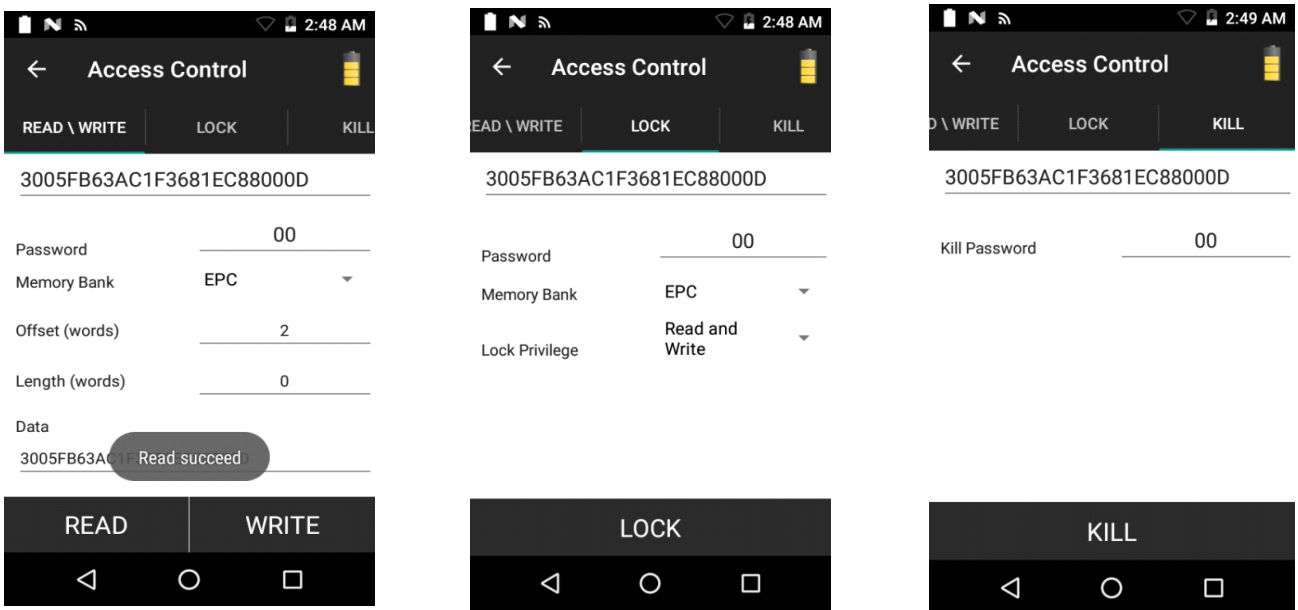
この画面を使用して、設定を保存したり、RFD2000 上の現在の設定を表示したりします。

ユニットで [Reset to Factory Default] が実行されるまで、設定が RFD2000 で保存されます (29ページのSettingsを参照)。

タグが [Inventory] 画面で選択されている場合、[Tag Pattern] 領域に情報が自動で入力されます。

Access Control

図 26 [Access Control] 画面 - [Read/Write]、[Lock]、[Kill]



タグが [Inventory] 画面で選択されている場合、[Tag Pattern] 領域に情報が自動で入力されます。

Read/Write

[Read/Write] のオプションは次のとおりです。

- [Tag ID] と [Password] の値は 16 進数です。[Tag ID] は編集されています。
- **[Memory Bank]** のオプションは [EPC]、[RESERVED]、[TID] および [USER] です。
- **[Offset]** と **[Length]** の値は 16 ビットの単語です。
- **[Access operation]** 画面では、編集されたタグ ID が保持されます。

Lock

[Lock Privilege] のオプションは次のとおりです。

- **[Read and Write]**
- **[Permanent Lock]**
- **[Permanent Unlock]**
- **[Unlock]**

Kill

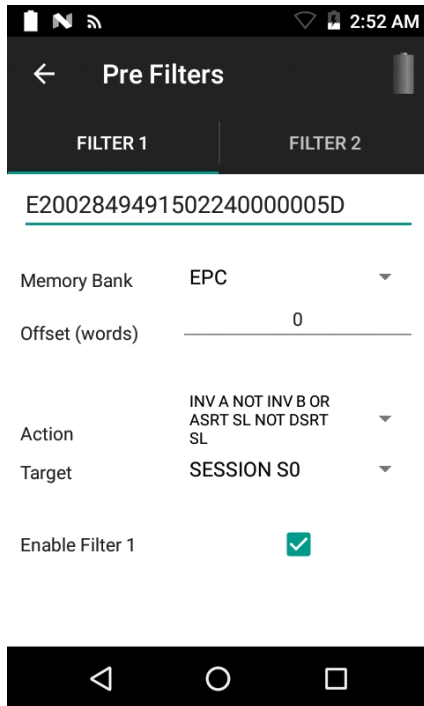
恒久的にタグを使用不能にします。[Kill Password] を指定する必要があります。

Pre Filters



メモ: Pre Filters 機能を許可するには、[Power Management] 画面から DPO を無効にする必要があります。38ページのPower Managementを参照してください。

図 27 [Pre Filters] 画面



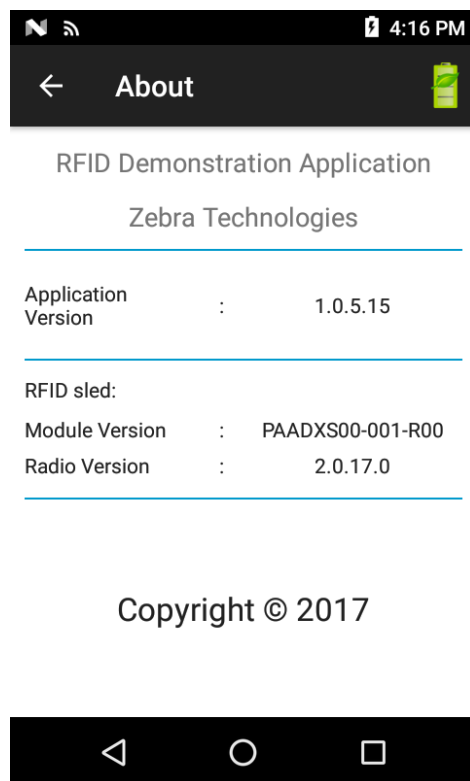
オプション

次の 2 つまでの Pre Filters を有効にすることができます。

- **[Memory Bank]** - [EPC]、[TID] および [USER]
- **[Offset]** - メモリ バンクのオフセットを単語で指定します。
- **[Action]:**
 - INV A NOT INV B または ASRT_SL_NOT_DSRT_SL
 - INV A または ASRT SL
 - NOT INV B または NOT DSRT SL
 - INV A2BB2A NOT INV A または NEG SL NOT ASRT SL
 - INV B NOT INV A または DSRT SL NOT ASRT SL
 - INV B または DSRT SL
 - NOT INV A または NOT ASRT SL
 - NOT INV A2BB2A または NOT NEG SL
- **[Target]** - SESSION S0、SESSION S1、SESSION S2、SESSION S3 および SL FLAG

About

図 28 [About] 画面



この画面には、RFD2000 により報告されるバージョン情報が表示されます。

RFID Manager

はじめに

Zebra RFID Manager アプリケーションは、RFD2000 とともに使用する TC20 Android モバイル デバイスの管理をサポートしています。デバイスが RFD2000 リーダーに接続されているかどうかに関係なく、このアプリケーションでは、すべての画面に移動できます。リーダーに接続されていない場合、**[Settings]** 画面にはアプリケーションの既定が表示されます。



メモ: このガイドに示す画面には、デバイス上に表示される実際の画面とは異なるものもあります。画面は、今後のリリースで変更される場合があります。

RFD2000 のセットアップ

RFD2000 を TC20 と一緒に初めて使用する際には、次のことを行います。

- バッテリーが取り付けられているかどうかを確認する
- RFD2000 を充電する
- RFD2000 の電源をオンにする
- RFD2000 を TC20 に取り付ける
- リージョンおよび パワーレベルを設定する (RFID Manager アプリケーション、Demo アプリケーション、またはパートナー アプリケーションを使用)。

Android 用 RFID Manager のインストール

要件

- TC20 Zebra モバイル コンピュータ
- モバイル コンピュータ上の Android の推奨バージョンは、Nougat バージョン 7.1.x です。

インストール

ソフトウェアをインストールするには、次の手順に従います。

1. Android デバイスをコンピュータに接続します。Android デバイスが PC に接続されたら、USB をファイル転送モードで設定します。そうすると、デバイスがコンピュータ上でストレージ デバイスとして表示されます。メディア転送プロトコルを使用したファイルの転送については、次のサイトにある TC20 モバイル コンピュータの『Integrator Guide』を参照してください。 www.zebra.com/support
2. Zebra_RFID_Manager-1.0.7.xx.apk ファイルをモバイル デバイスにコピーします。
3. [Device Settings] > [Security] の順に移動し、[Unknown Sources] チェック ボックスをオンにして、不明なソースからのアプリケーションのインストールを許可します。
4. ファイル マネージャを使用して、Zebra_RFID_Manager-1.0.7.xx.apk ファイルを見つけ、選択します。
5. インストーラ ウィンドウが表示されます。Android App インストーラを選択して、インストールを開始します。

Android 用 RFID Manager の使用

RFID の操作にこのアプリケーションを使用するには、次の手順に従います。

1. TC20 モバイル デバイスに Android 用の Zebra RFID Manager アプリケーションがインストールされていることを確認します。
2. モバイル デバイスで Android 用の Zebra RFID Manager アプリケーションを起動します。
3. RFD2000 を接続します。
4. 初めて使用する前に、デバイスが動作するリージョンを設定します。リージョンを設定するには、アプリケーションを開き、[Settings] > [Regulatory] を選択します。



メモ: RFID Demo アプリケーションまたはパートナー アプリケーションを RFD2000 に接続する場合、RFID Manager アプリケーションにはリアルタイムな情報が表示されず、規制、リーダーのリセット、出荷時の既定値へのリセット、ファームウェアの更新などの設定を変更できません。

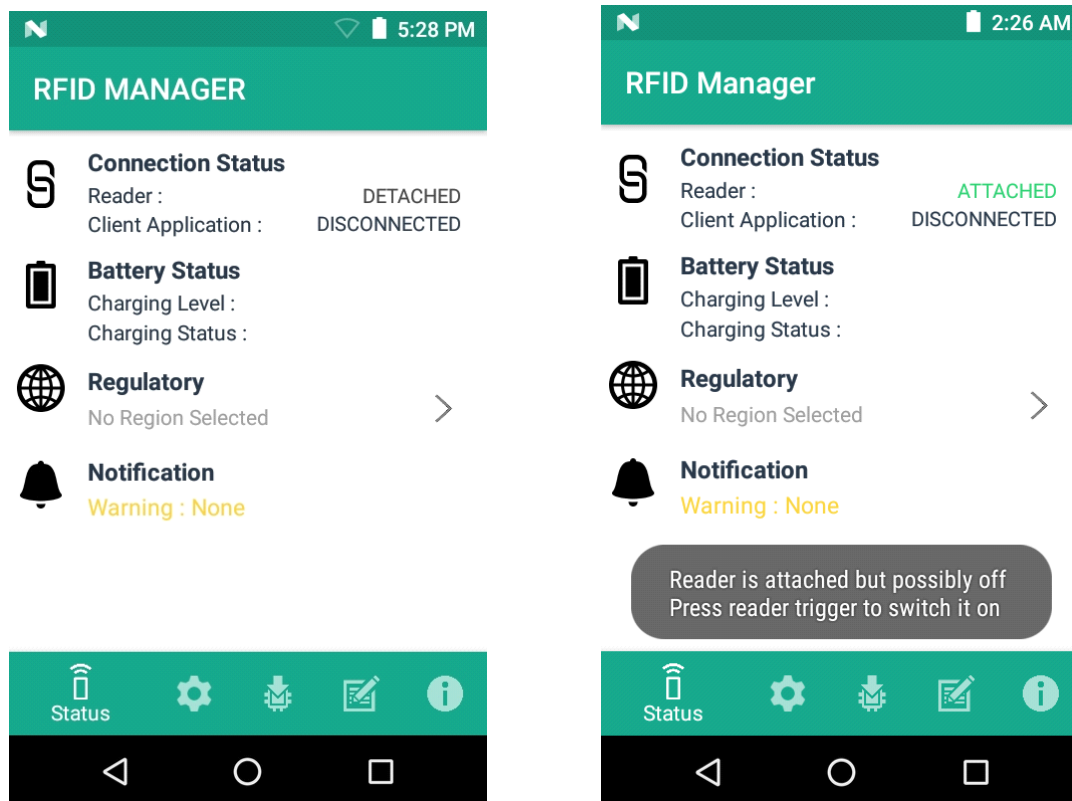
Connection Status

リーダーの [Connection Status]

TC20 が RFD2000 に接続されていない場合は、以下の操作を実行します。

1. RFID Manager を手動で起動します。
2. [Connection Status] > [Reader] の下の [Home] 画面に、RFD2000 が TC20 に対して [Attached] であるか、または [Detached] であるかが示されます。
3. RFID Manager アプリケーションは、接続されたら、リーダーとの接続を試みます。リーダーがオフの場合は、通知ウィンドウが表示されます。RFD2000 をオンにする場合は、1.3 秒間トリガーを押してから放します。
4. クライアントが接続されていない場合、RFID Manager ではバッテリ ステータスと規制が表示されます。

図 29 リーダーの [Connection Status] 画面

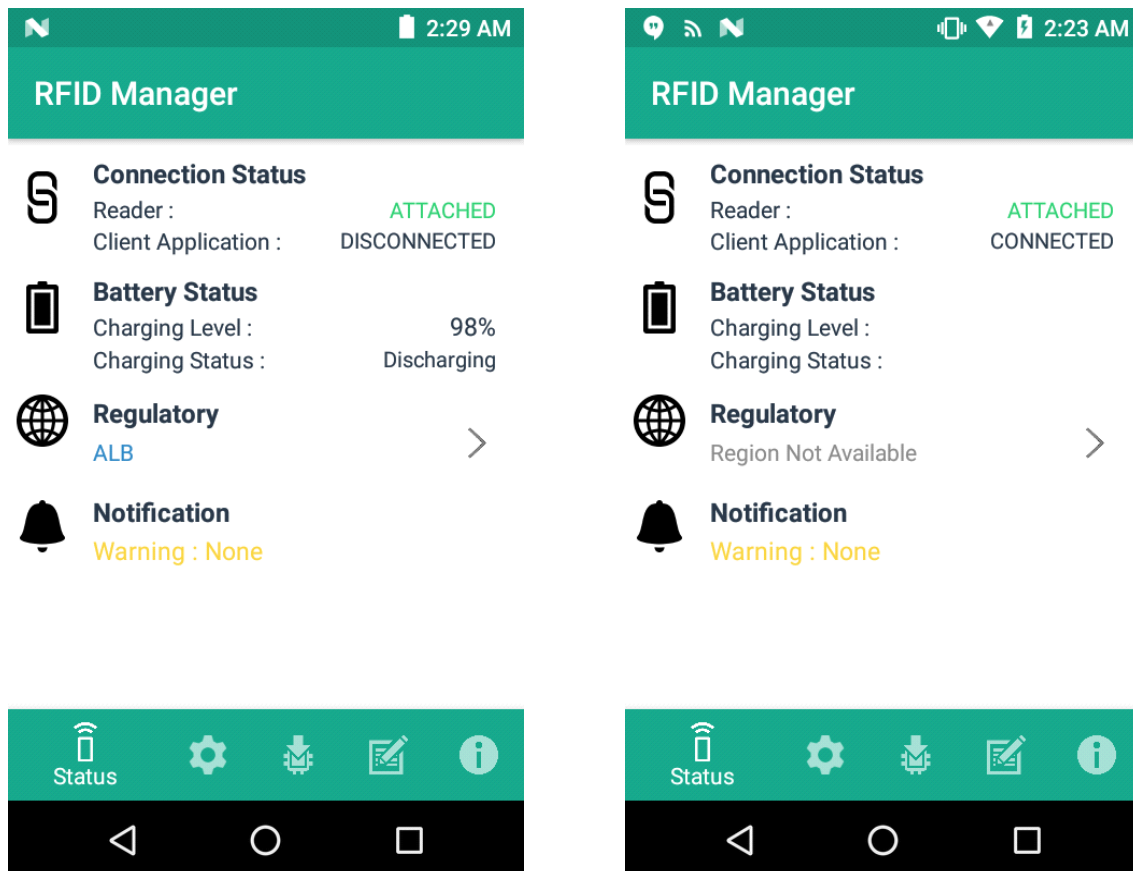


クライアント アプリケーションのステータス

TC20 が RFD2000 に接続されている場合は、次の手順を実行します。

1. 手動でアプリケーションを起動します。
2. [Connection Status] > [Client Application] の下の [Home] 画面に、クライアント アプリケーションが RFD2000 に対して [Connected] であるか、または [Disconnected] であるかが示されます。

図 30 クライアント アプリケーションのステータス画面



[Battery Status] には、バッテリーの [Charging Level] の割合と [Charging Status] ([Charging] または [Discharging]) が含まれます。クライアント アプリケーションが接続されている場合は、[Battery Status] フィールドが空です。

クライアント アプリケーションが接続されている場合は、[Regulatory] フィールドが空です。

RFID の規制

リージョンを設定するには、[Regulatory] 矢印ボタンを選択して、[Regulatory] 画面を開きます。[Region] および [Channel Selection] 設定を選択し、[Apply] ボタンをタップします。[Region] ドロップダウンには、デバイスで設定されている現在のリージョンが表示されます。デバイスを使用する前に正しいリージョンを選択します。



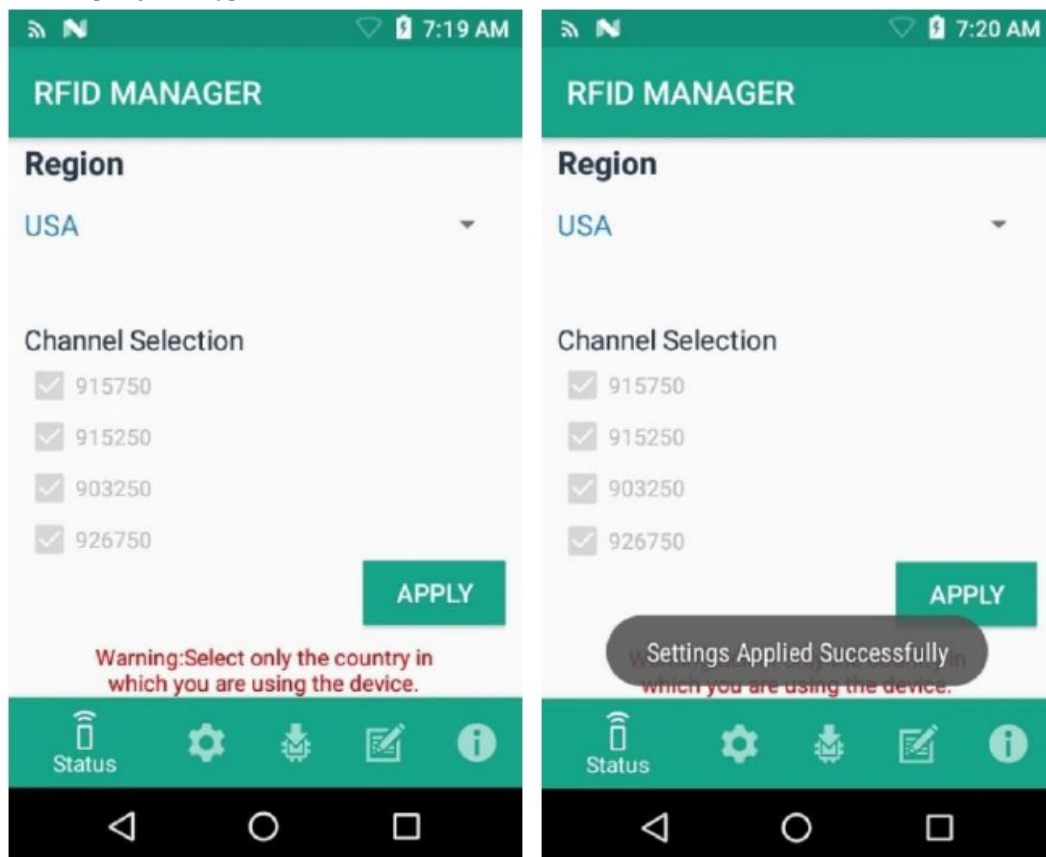
メモ: [Region] および [Channel Selection] は、初めて使用する前にのみセットアップが必要です。ただし、RFD2000 RFID スレッドで、[Reset to Factory Defaults] 操作が実行される場合は、その操作により、リージョンおよびチャネル構成が削除されるため、リセットする必要があります。



メモ: 機器を使用する国のみを選択してください。

- [Channel Selection] は、チャネル設定が許可されているリージョンにのみ許可されます。
- サポートされるリージョンは、RFD2000 により報告されます。
- RFD2000 でリージョンが構成されていない場合、[Regulatory] ステータスが NA と表示されます。
- お客様のアプリケーションで、リージョンと構成を実際的方法で設定することもできます。

図 31 [Regulatory] 画面



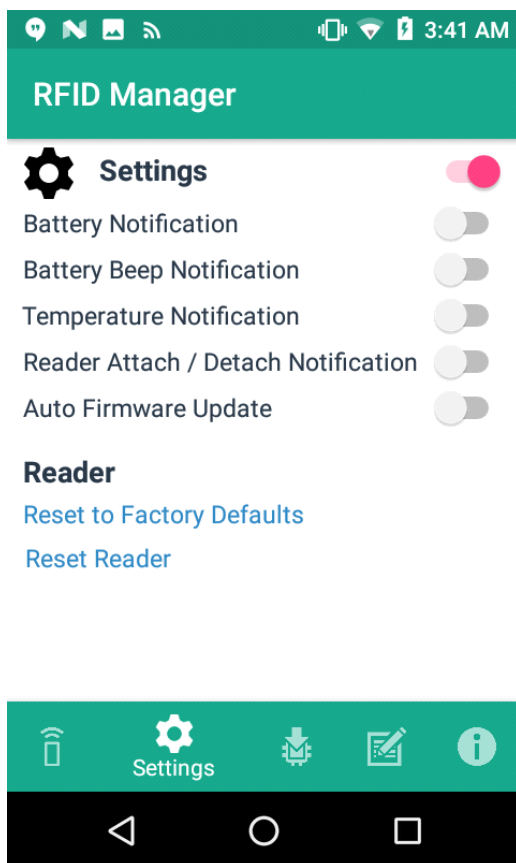
Settings

[Settings] を表示するには、下部のツールバーにある **[Settings]** アイコンを選択します。

通知制御とリーダー リセット機能を編集するには、**[Settings]** 制御ボタンを選択します。[Setting] オプションは次のとおりです。

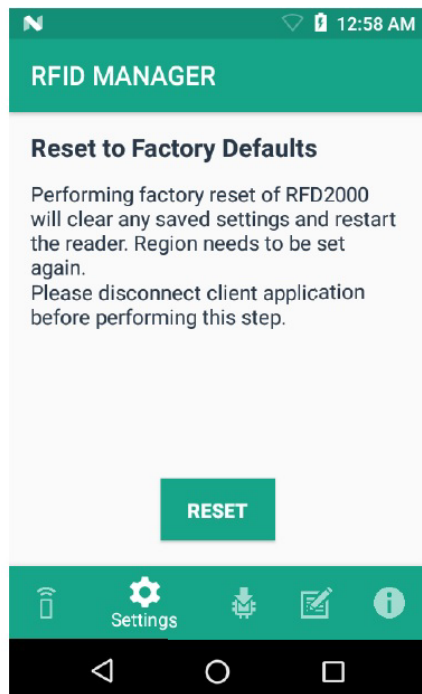
- **[Battery Notification]** – 有効化すると、低バッテリー通知がバッテリー レベル表示とともに表示されます。
- **[Battery Beep Notification]** – 有効化すると、低バッテリー ビープ通知がモバイル コンピュータから聞こえます。
- **[Temperature Notification]** – 有効化すると、温度が高温で危機的であることを示す通知が温度レベル表示とともに表示されます。
- **[Reader Attach / Detach Notification]** – 有効化すると、リーダーが接続されるか、接続解除される時に通知が生成されます。
- **[Auto Firmware Update]** – 有効化される場合、およびデバイスがモバイル コンピュータに接続される際に、バージョンが一致しない場合には、アプリケーション キャッシュに格納されたファームウェアで自動的にファームウェアの更新が開始されます。

図 32 [Settings] 画面



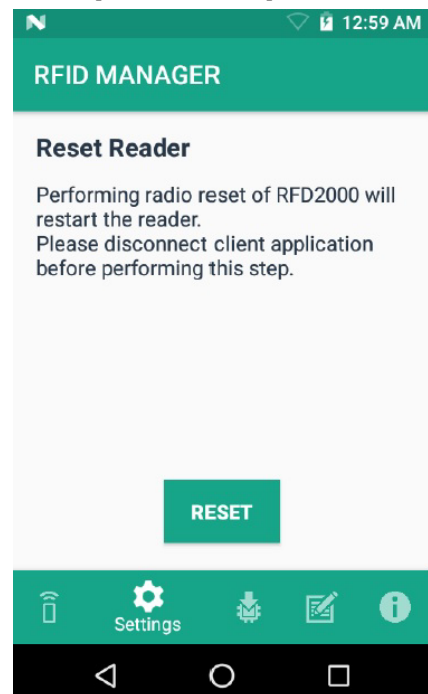
- **[Reset to Factory Defaults]** - **[Reset to Factory Defaults]** を選択すると、すべての構成およびリージョン設定が工場出荷時のデフォルト設定にリセットされます。選択すると、リーダーが再起動し、操作完了後にウィンドウ メッセージが表示されます。リーダー ステータスを確認する場合は、**[Home]** > **[Status]** を参照してください。

図 33 [Reset to Factory Defaults] 画面



- **[Reset Reader]** - **[Reset Reader]** を選択すると、リーダーが再起動されます。選択すると、リーダーが再起動し、操作完了後にウィンドウ メッセージが表示されます。リーダー ステータスを確認する場合は、**[Home]** > **[Status]** を参照してください。

図 34 [Reader Reset] 画面



ファームウェアの更新

[Firmware Update] 画面を使用して、製品コードの更新、Bootloader、および無線の更新を実行できます。



メモ: RFID Manager アプリケーションが最初に起動したときに、内部ストレージへのアクセスの許可を求めるダイアログ ボックスが表示されます。ファームウェアの更新を実行するには、アクセスを許可する必要があります。



メモ: バッテリ レベルが 20% を超えると、ファームウェアの更新を実行する必要があります。

ファームウェアの更新を実行するには、次の手順に従います。

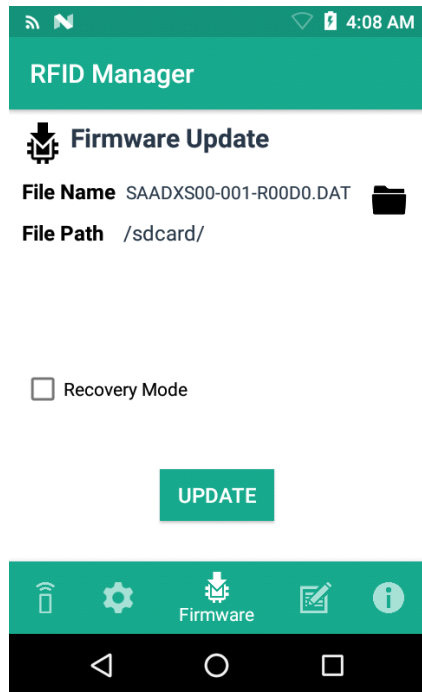
1. DAT または SCNPLG ファイルを TC20 SD カードにコピーします。次のサイトにある TC20 モバイル コンピュータの『Integrator Guide』のメディア転送プロトコルを使用したファイルの転送に関するセクションを参照してください。www.zebra.com/support
2. フォルダ アイコンをクリックして、ファームウェア DAT または SCNPLG ファイル、Super Combined 画像または個々のファイルのいずれかを参照します。
3. [File View] メニューから必要な DAT または SCNPLG ファイルを選択します。ファイルが選択されたら、アプリケーションは更新画面に戻ります。

図 35 ファームウェアの更新用のファイルの転送

4:08 AM		
Music	0 item	Mar 10, 1970 12:17:11 AM
Notifications	0 item	Mar 10, 1970 12:17:11 AM
Pictures	0 item	Mar 10, 1970 12:17:11 AM
Podcasts	0 item	Mar 10, 1970 12:17:11 AM
Ringtones	0 item	Mar 10, 1970 12:17:11 AM
RxLogger	0 item	Mar 10, 1970 12:17:11 AM
wlan_logs	4 items	Mar 15, 1970 3:51:59 AM
RfidLog.txt	23162 Byte	Mar 23, 1970 12:51:09 AM
SAADX00-001-R00D0.DAT	1857958 Byte	Mar 24, 1970 4:06:37 AM

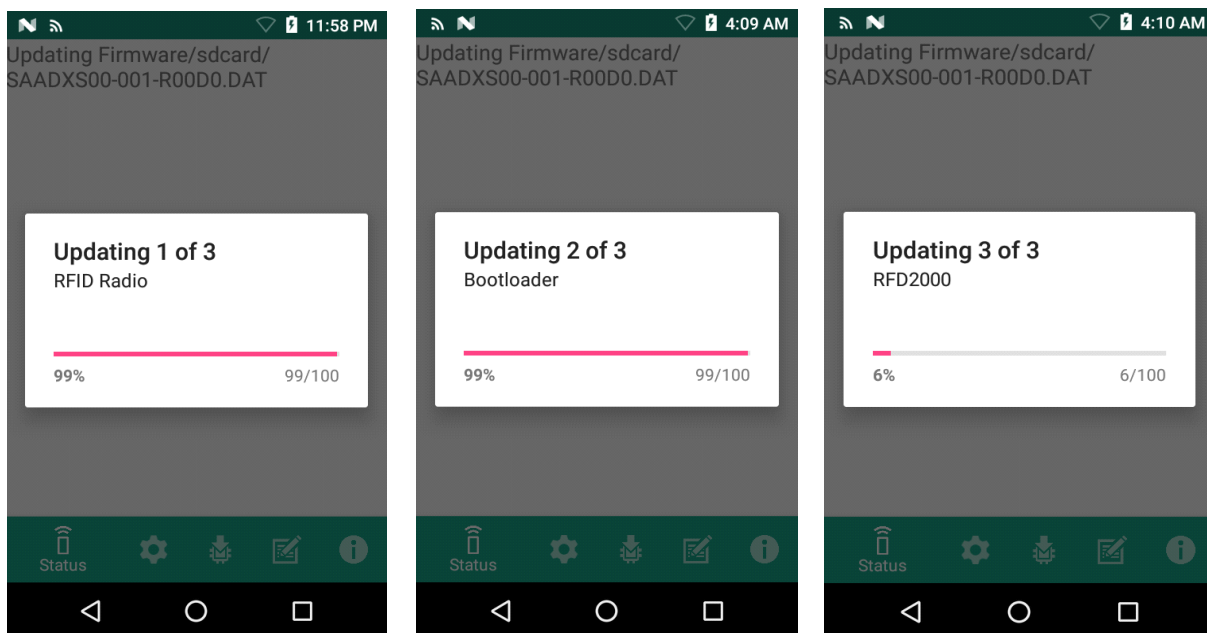
4. [Update] を選択します。

図 36 RFID Manager の [Firmware Update] 画面



5. Super Combined 画像が使用される場合は、進捗が RFID 無線、Bootloader、および RFD2000 の進捗ダイアログとともに表示されます。個々の画像ファイルが使用される場合は、単一の進捗ダイアログが表示されます。
6. 更新が正常に終了したら、ウィンドウに RFD2000 ファームウェアのインストール完了メッセージが表示されます。

図 37 ファームウェア更新の進捗画面



更新されたファームウェア情報が [Information] 画面に表示されます。

図 38 [Information] 画面



Recovery Mode

RFD2000 ファームウェアが壊れていると思われる場合にのみ、**[Recovery Mode]** チェック ボックスをオンにしてください (52ページの図 36を参照)。**[Recovery Mode]** オプションの使用については、Zebra サポート チームに連絡してください。

RFID Manager ログ

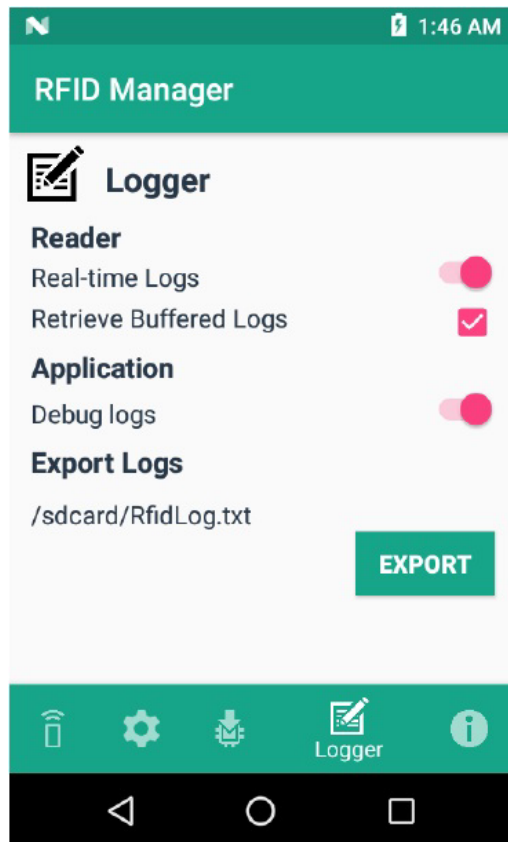
次のオプションは、リーダー ログをキャプチャするために有効にできます。

- **[Real-time Logs]** - RFD2000 からリアルタイム ログをキャプチャします。
- **[Retrieve Buffered Logs]** - RFD2000 からバッファされたログをキャプチャします。
- **[Debug Logs]** - RFID Manager デバッグ ログをキャプチャします。



メモ: 3 つのすべてのログを有効にできます。3 つのすべてのログが無効化される場合、RFD2000 ログを含まない、アプリケーションからのデフォルト ログがキャプチャされます。

図 39 RFID Manager の [Logger] 画面



リアルタイム ログをキャプチャするには、次の手順に従います。

1. **[Real-time logs]** を有効にします。
2. ログを作成するために RFID アプリケーションを接続して使用します。
3. **[Export]** をタップして、リアルタイム ログを取得します。RFID アプリケーションの接続を解除したり終了したりする必要はありません。

[Retrieve Buffered Logs] オプションは、RFID アプリケーションが接続解除されるか、実行されていない場合にのみ使用できます。

標準の RX Logger アプリケーションを使用して、RFIDAPI3 および RFIDSERVICE アクティビティを取得することもできます。

ログ ファイルのエクスポート

キャプチャしたログ ファイルをエクスポートするには、**[Export]** ボタンを選択します。ログ ファイルは、TC20 ファイル システムのルートに RfidLog.txt として保存されます。PC に接続した後で、ログ ファイルを取得します。RfidLog.txt ファイルは、ルート フォルダの内部ストレージにあります。



メモ: クライアントが接続されている場合、RFID Manager はデバッグ ログのみエクスポートできます。ダンプ ログを取得することはできません。

ビープ音の意味

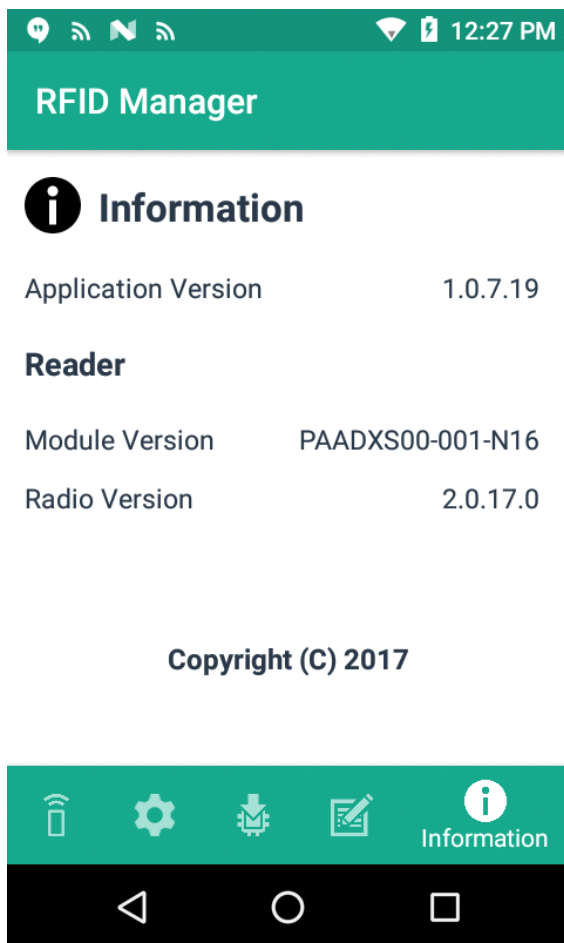
RFID Manager アプリケーションでは、以下のために TC20 にビープ音を提供しています。

- 低バッテリー アラート
- 充電開始表示

About

[About] 画面には、RFID Manager の **[Application Version]**、**[Reader Module]**、および RFD2000 によって報告される **[Radio Version]** が表示されます。

図 40 [About] 画面



Copyright (C) 2017

RFID Scan-Scan-Write

はじめに

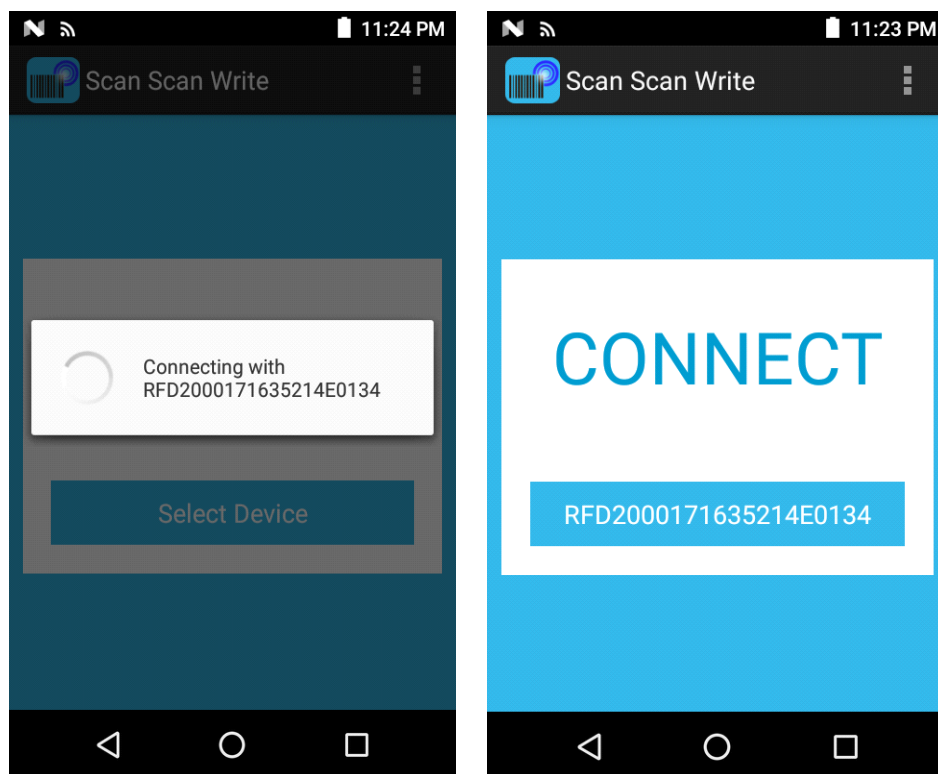
Zebra Scan-Scan-Write アプリケーションは、タグをプログラミングするために、RFD2000 と Android モバイル デバイスを使用する事例を実行します。このアプリケーションは、UPC & EPC バーコードのスキャンの一般的な使用事例を確認し、情報を使用してタグに一意の EPC ID を書き込みます。

また、このアプリケーションは、会社のプリフィックスおよび物品の識別子に対して UPC-12/14 (GTIN12 & GTIN14) バーコードで動作します。シリアル番号は、スキャンされた一時的な EPC タグから派生します。

アプリケーションの用途と画面

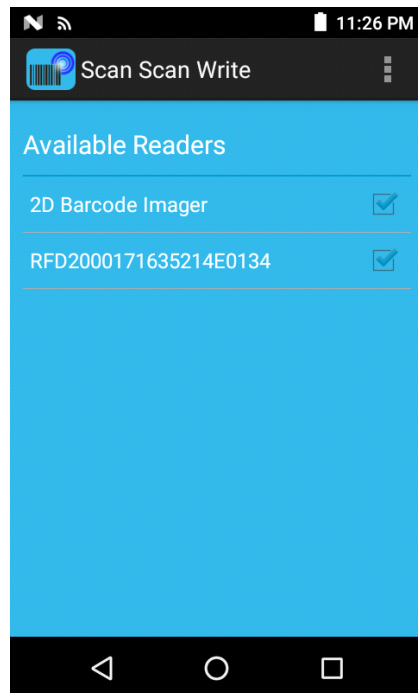
1. Scan-Scan-Write アプリケーションの起動時に、デバイスのリストが表示されます。デバイスを選択し、[Select Device] をタップします。RFD2000 と自動的に接続された後で、リーダー名が表示されます。

図 41 [Select Device] への接続



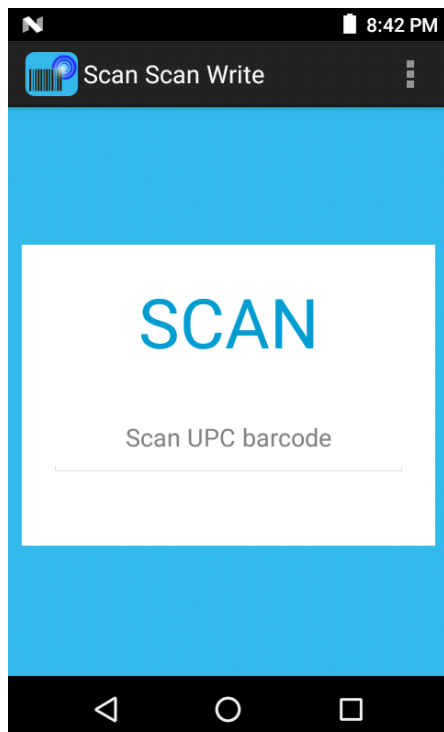
2. アクション バーの [Overflow] アイコンをタップすると、[Available Readers] が表示され、列挙されたスキャナ デバイスと RFD2000 リーダー名が接続ステータスとともに表示されます。RFD2000 との接続を解除するには、目的のチェック ボックスをオフにします。

図 42 [Available Readers] 画面



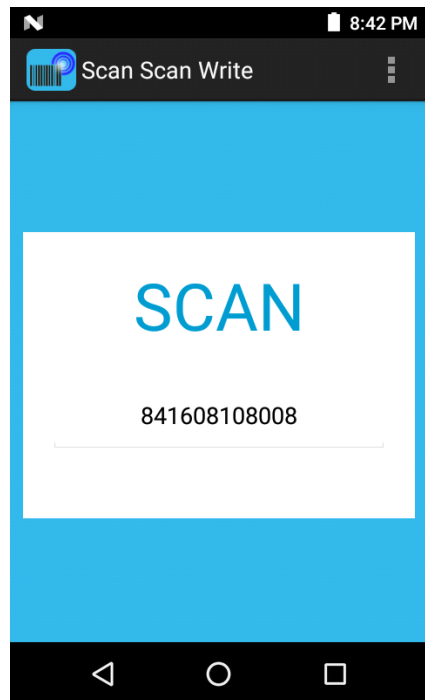
3. リーダーと正常に接続されると、アプリケーションは自動的に [Scan UPC Barcode] 画面を表示します。

図 43 UPC バーコードの画面



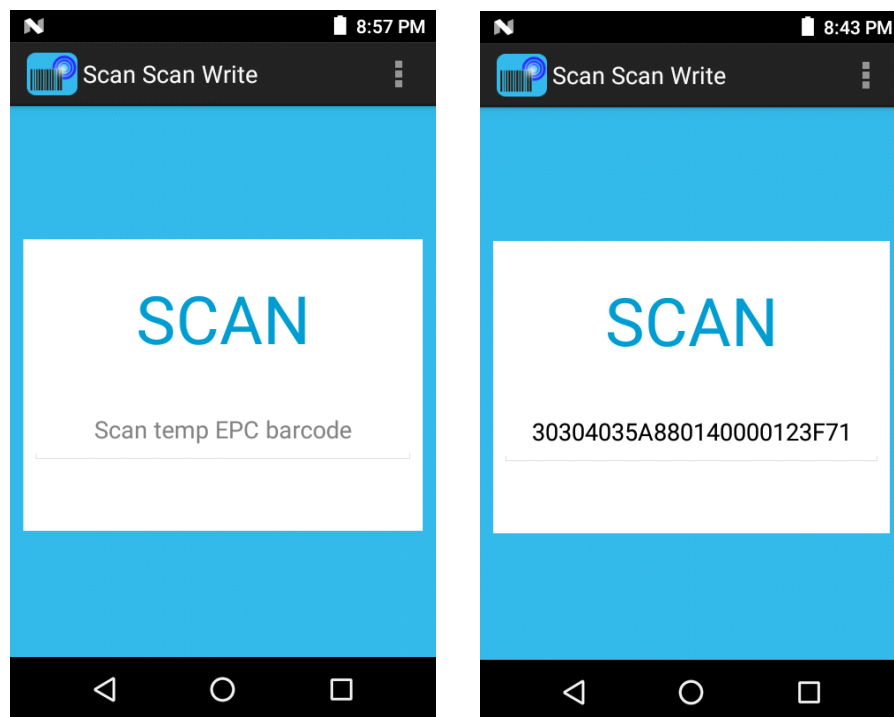
4. UPC バーコードをスキャンします。EPC バーコードの画面が表示されます。

図 44 UPC バーコードのスキャン済み画面



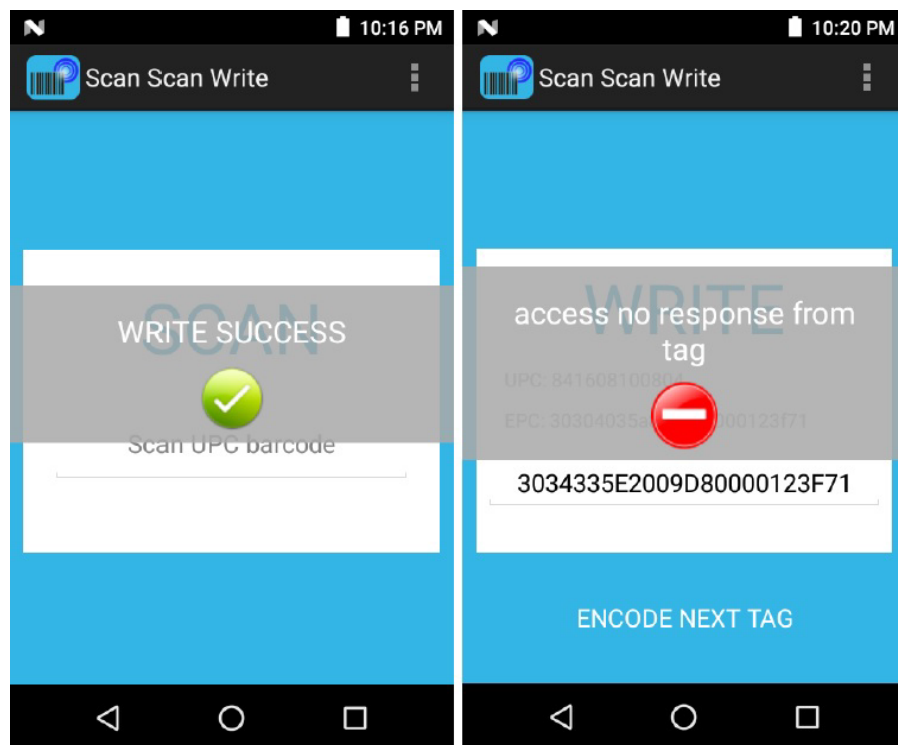
5. EPC アプリケーションのスキャンが正常に完了すると、生成された SGTIN96 EPC タグ ID の書き込みが表示されます。

図 45 EPC バーコードのスキャン画面



6. [Write Success] または [Access No Response From Tag] メッセージの通知が表示されます。
7. [Encode Next Tag] をタップして、続行します。

図 46 タグの読み取り通知の画面

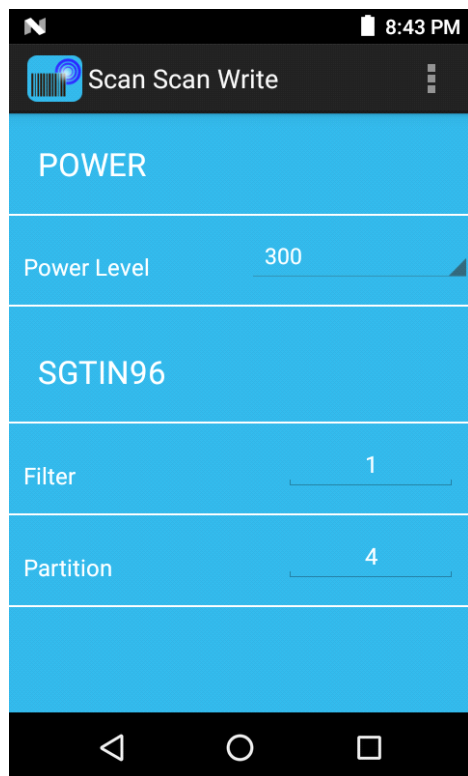


設定

設定オプションを表示するには、下部ツールバーの [overflow] アイコンを選択します。

- [Available Readers] の [Reader List]
- **[Power Level]** - 電源の変更は現在サポートされていません。書き込み操作は最大値で実行されます。
- **[SGTIN96]** - アプリケーションは SGTIN96 EPC タグ ID のフォーマット時に編集テキスト ボックスのフィルタおよびパーティション値を考慮します。

図 47 設定画面



StageNow

StageNow ステージング ソリューション

Zebra Technologies の StageNow では、組織の規模にかかわらず、バーコードのクイック スキャンや NFC タグ上のタップによって、数台から数千台の Android デバイスを簡単にステージングすることができます。StageNow では、複雑なステージング プロファイルも容易に作成できるウィザードベースの簡単なツールが用意されています。

『StageNow Installation Guide』では、StageNow ステージング ソリューションをインストール、アンインストール、およびアップグレードする方法について説明しています。また、バージョン、互換性、およびシステム要件に関する情報も記載しています。次のサイトにある『StageNow Installation Guide』およびファームウェアを参照してください。www.zebra.com/support

RFID Manager StageNow プラグイン

はじめに

この章では、StageNow を設定して RFD2000 ファームウェアと構成を更新するために必要な手順について説明します。また、RFID CSP プラグインを StageNow アプリにインポートし、ファームウェア アップデートとリーダー構成に必要なさまざまなプロファイルを生成する手順も提供しています。

要件



メモ： このプラグインは、StageNow バージョン 2.9.1.1279 および 2.9.1.1328 でテスト済みです。

- RFD2000 StageNow プラグイン : RFD2000-StageNow-Plugin-v1.1.zip
- StageNow v2.9
- DAT 形式 (SAADXS00-001-R04D0.DAT) または RFD 形式 (RFD2000-SAADXS00-001-R04.RFD) の RFD2000 ファームウェア。これらのファイルは、Zebra RFD2000 のサポート サイトからダウンロードできます。www.zebra.com/us/en/support-downloads/software/firmware/rfd2000-firmware.html
- StageNow で構成されたステージング サーバー
- RFD 2000 RFID Manager バージョン 1.0.7.22 搭載 TC20



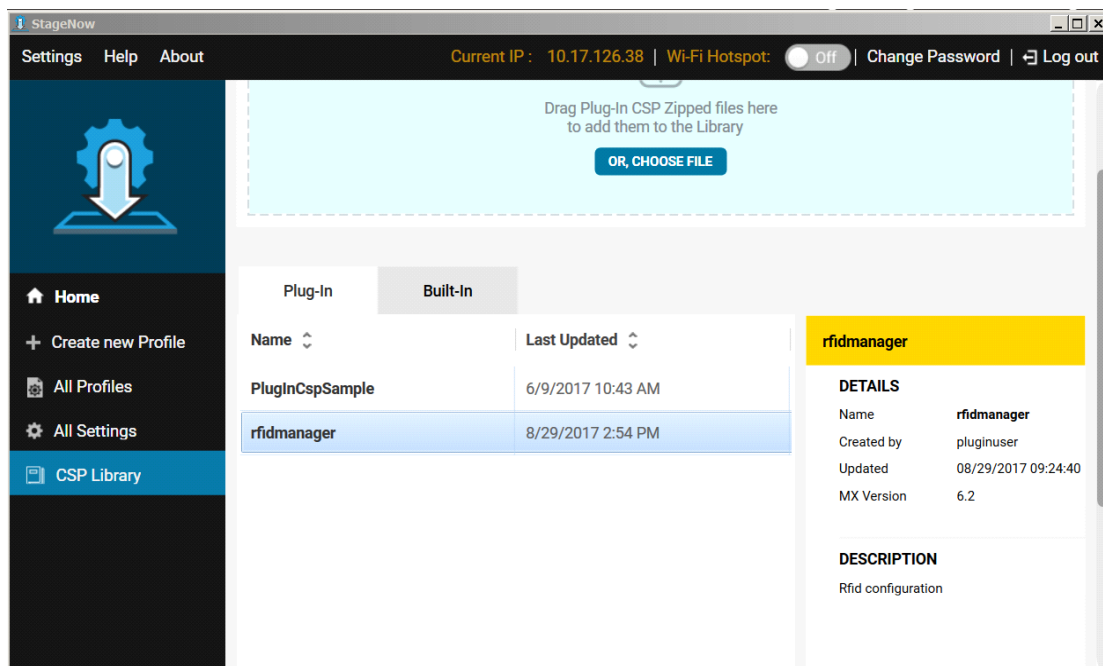
重要： StageNow を使用する前に、RFID Manager を少なくとも 1 回実行して CSP プラグインを正常に登録し、RFD2000 をステージングできるように TC20 を準備します。

RFID Manager CSP プラグインのインポート

RFID Manager CSP プラグインを StageNow アプリケーションにインポートする方法：

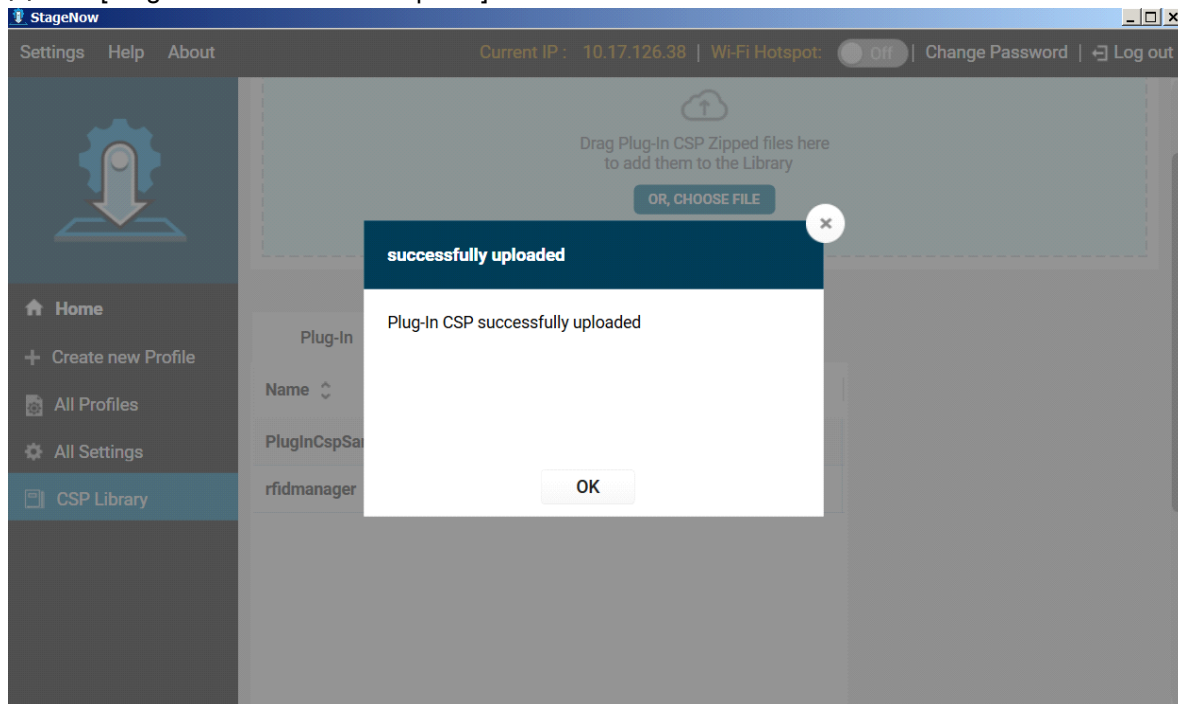
1. StageNow アプリケーションを開きます。
2. [CSP Library] を選択します。

図 48 RFID Manager のインポート - [CSP Library] の選択



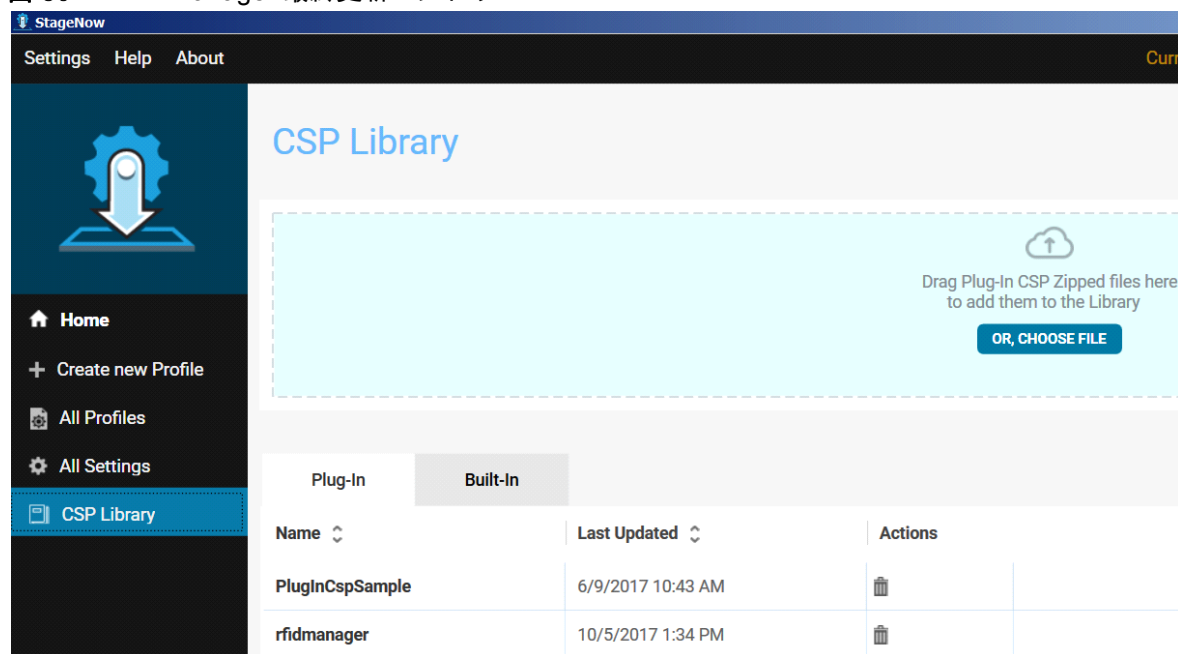
3. [CHOOSE FILE] を選択します。
4. RFD2000-StageNow-Plugin-v1.1.zip を参照します。

図 49 [Plug-in CSP Successful Upload] ウィンドウ



5. .zip ファイルのアップロードが正常に完了すると、RFID Manager のエントリが表示されます (図 50)。

図 50 RFID Manager 最終更新エントリ



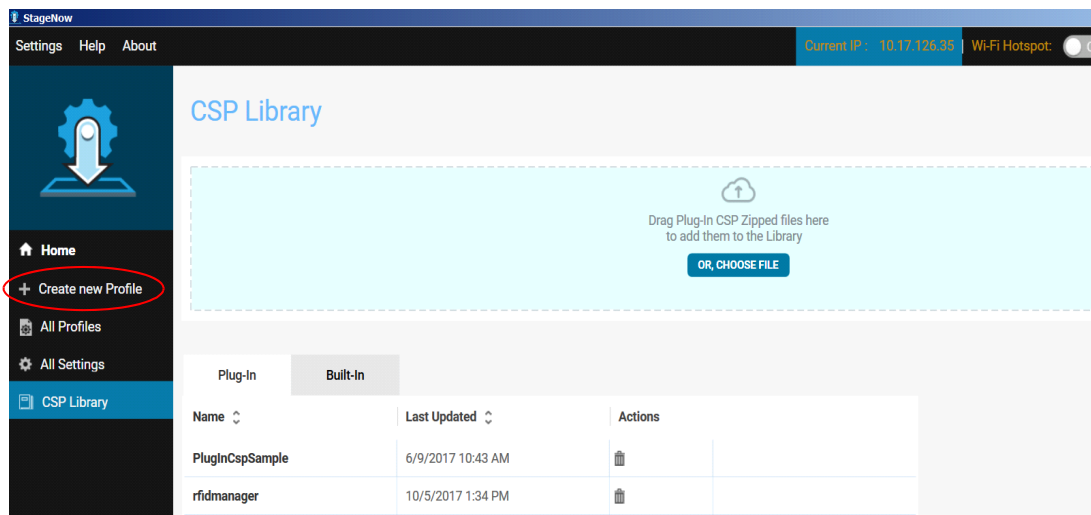
StageNow を使用したファームウェア アップデート プロファイルの作成

このセクションでは、新しいファームウェア プロファイルを作成する手順について説明します。以下に、SAADX00-001-N10D0.DAT ファイルをステージング サーバーからデバイスにコピーして、その後にファームウェアをアップデートするプロファイルを作成する例を示します。

新しいファームウェア プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

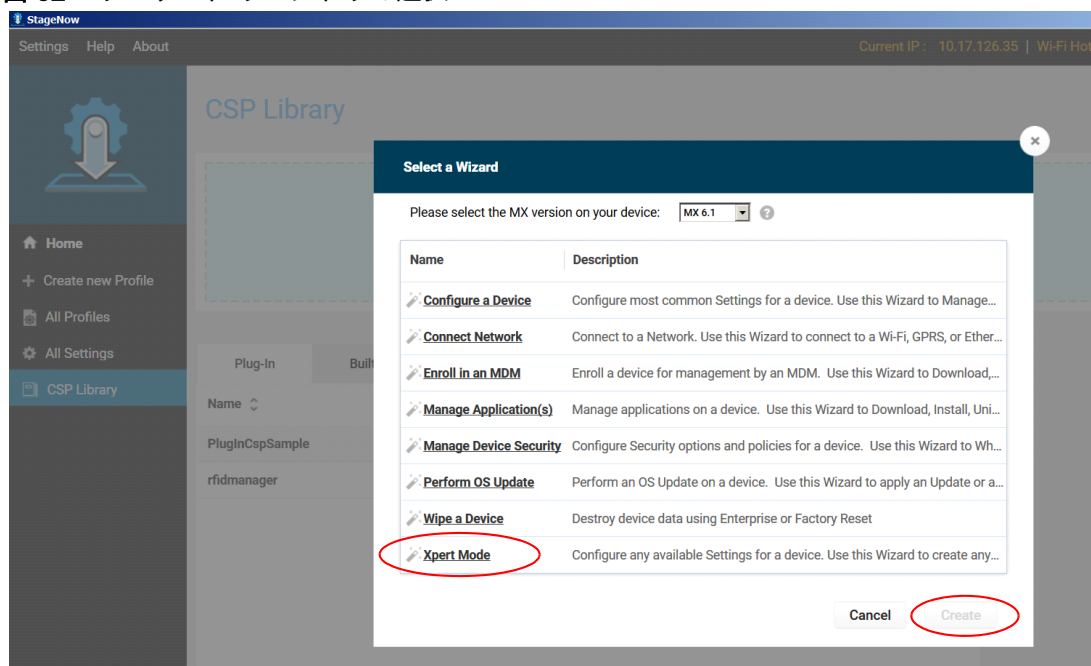
1. ステージングされるデバイスとステージング サーバーの両方が接続され、ネットワークを通じてアクセスできることを確認します。
2. サイドメニューから **[Create New Profile]** を選択します。

図 51 ファームウェア アップデートの作成 - [CSP Library] 画面



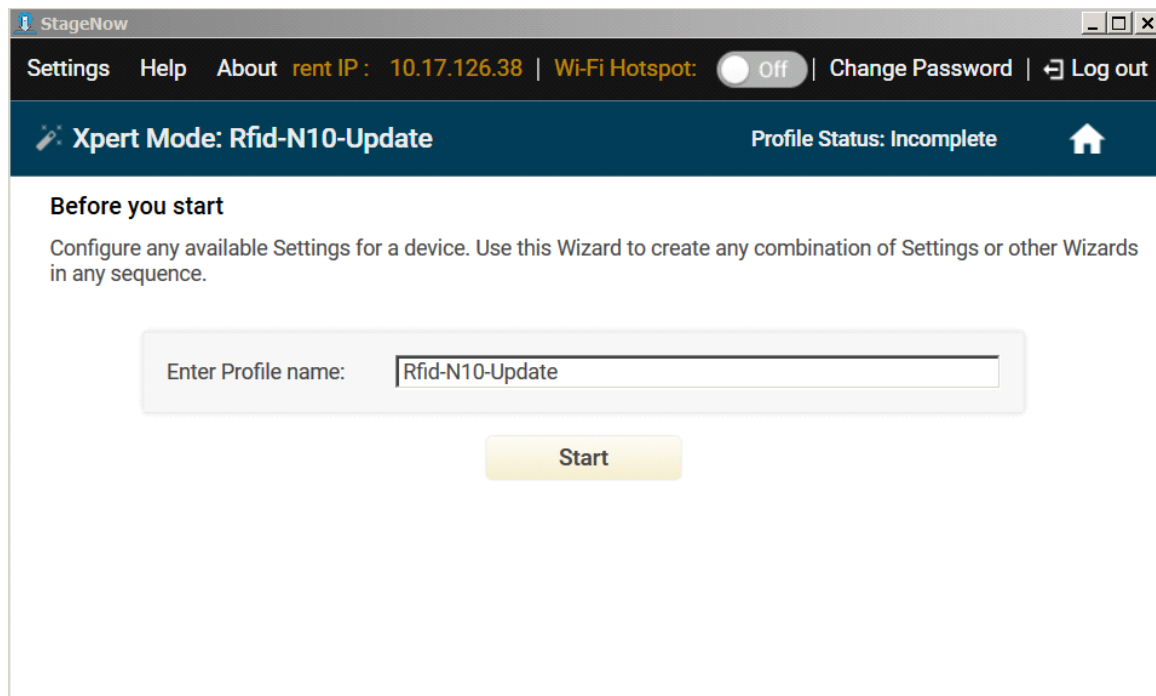
3. **[Select a Wizard]** ウィンドウで、**[XpertMode]** を選択してから、**[Create]** を選択します。

図 52 ウィザード ウィンドウの選択



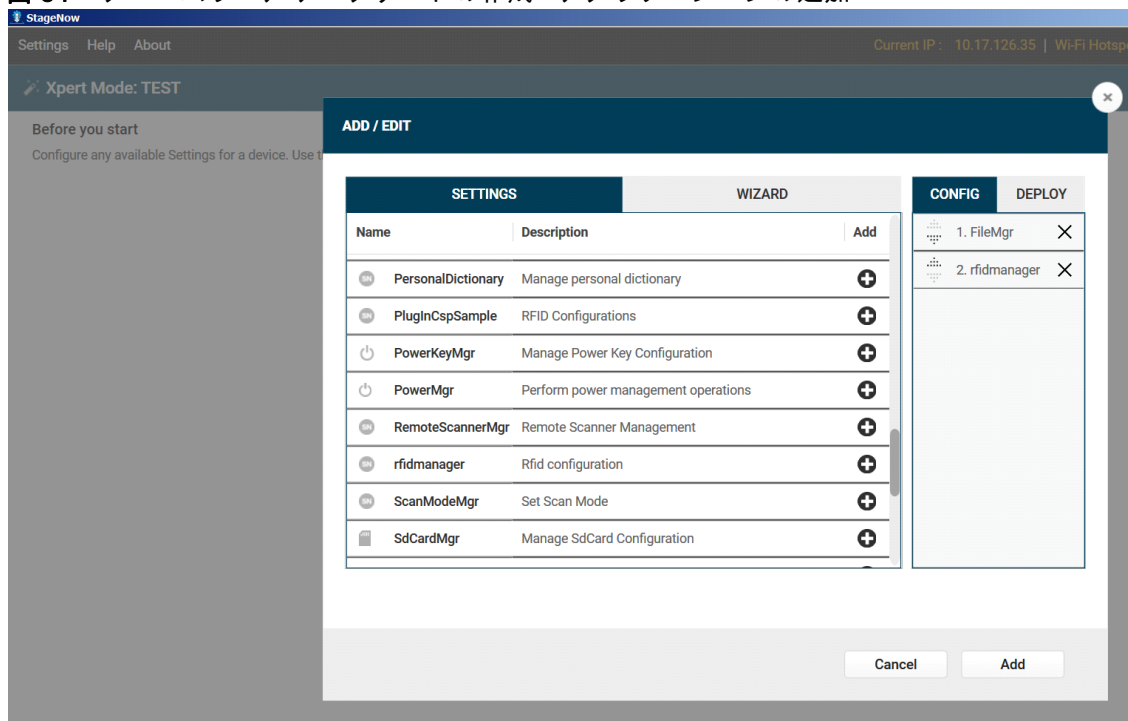
4. **[Enter Profile name:]** テキストボックスに、新しいプロファイルの名前を入力します。例えば、図 53 に示すように、「Rfid-N10-Update」と入力します。**[Start]** を選択します。

図 53 ファームウェア アップデートの作成 - プロファイル名



5. **[FileMgr CSP]** と **[rfidmanager CSP]** の横にある **+** を選択して、**[Add]** を選択します。

図 54 ファームウェア アップデートの作成 - アプリケーションの追加



6. 図 55 に示すように、[Target Path and File Name] (デバイスのターゲット パス) と [Source File URL] (ステージング サーバーのファイル パス) を入力します。[Continue] を選択します。

図 55 ファームウェア アップデートの作成 - FileMgr の構成

StageNow

Settings Help About

XpertConfig: Rfid-N10-Update

StageNow Config Review Publish

1 FileMgr 2 rfidmanager

File Action: ?

Transfer/Copy File Delete File Download and Expand Archive File

Target Access Method: ?

File in the device file system

Target Path and File Name: ?

/data/tmp/public/SAADX00-001-N10D0.DAT

Source Access Method: ?

File on a remote server File in the device file system File embedded in XML

Source File URI: ?

ftp-p://ftp-dev:M0t04sds@localhost:21/SETTINGS/setting

7. **[Firmware Update]** のチェックボックスを選択し、**[Firmware Update FileName]** を入力します。これは、[ステップ 6](#) で入力された **[Target Path and File Name]** です (/data/tmp/public/SAADXS00-001-N10D0.DAT)。**[Continue >]** を選択します。

図 56 ファームウェア アップデートの作成 - RfidManager の構成

StageNow

Settings Help About

Current IP: 10.17.129.133 | Wi-Fi Hotspot: Off | Change Password | Log out

XpertConfig: FirmwareConfiguration Profile Id: 2 Profile Status: Incomplete

StageNow Config Review Publish

1 FileMgr 2 rfidmanager ADD / EDIT

SN rfidmanager

Configure the Setting

Create New Setting

☐ Save Setting for Re-use

Firmware Update ☒

Firmware Update FileName: /sdcard/SAADXS00-001-R04D0.DAT

Rfid Advanced options ☐

Edit Save Cancel

< Back Continue >

8. 入力を確認し、[Complete Profile >] を選択します。

図 57 プロファイルの確認と完了

StageNow

Settings Help About Current IP: 10.17.129.133 | Wi-Fi Hotspot: off | Change Password | Log out

XpertConfig: FirmwareConfiguration Profile Id: 2 Profile Status: Incomplete

StageNow Config Review Publish

Staging Profile

StageNow Config 2 + Expand

Profile Description : XpertConfig

Encrypt Barcode, Audio and NFC Data: Security Warning: Your Barcode, Audio and NFC data will NOT be encrypted if unchecking this box. ☒

< Back Complete Profile >

9. 必要な [Barcode Type] のチェックボックスを選択します。[Test] を選択します。

図 58 ファームウェア アップデートの作成 - バーコードの選択

StageNow

Settings Help About Current IP: 10.17.129.133 | Wi-Fi Hotspot: off | Change Password | Log out

XpertConfig: FirmwareConfiguration Profile Id: 2 Profile Status: Complete

StageNow Config Review Publish

Export for MDM Export for StageNow

WiFi-Hotspot

You have a Staging Server configured. Would you like to use the new WiFi Hotspot feature instead? This will allow you to create a direct connection to this computer via hotspot. The connection will be secure and remove the need to print the multiples barcodes in the case that you have Device Settings in the Config Section.

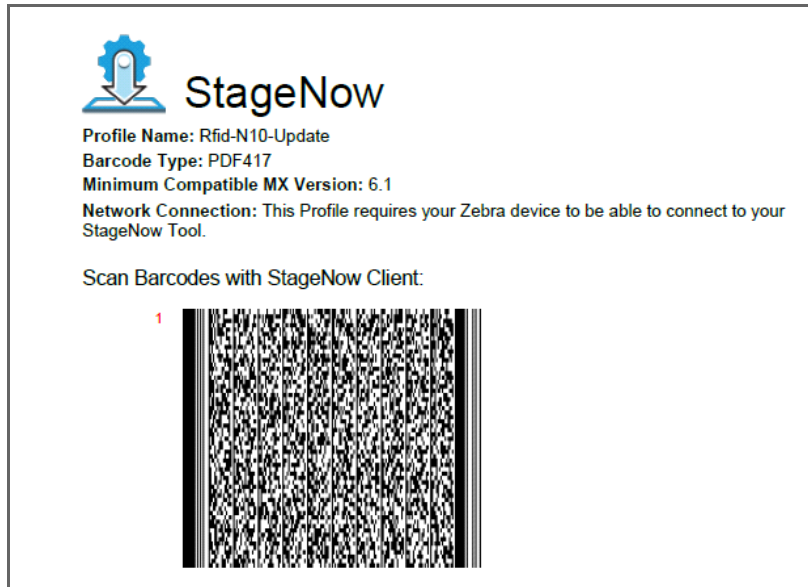
☐ Yes, use WiFi Hotspot

Barcode	Audio	NFC
Type	Staging Client	Last Tested
PDF417 Recommended for 2D Scan Engines	☒ StageNow	
Linear Recommended for 1D Laser Scanner	☐ StageNow	
Action	Select	Test
	Select All	Test

< Back

10. テストでは、ファームウェアをステージングするデバイスで StageNow クライアントを使用してスキャンできるバーコードが生成されます。

図 59 ファームウェア バーコードのステージング



リーダー構成の作成

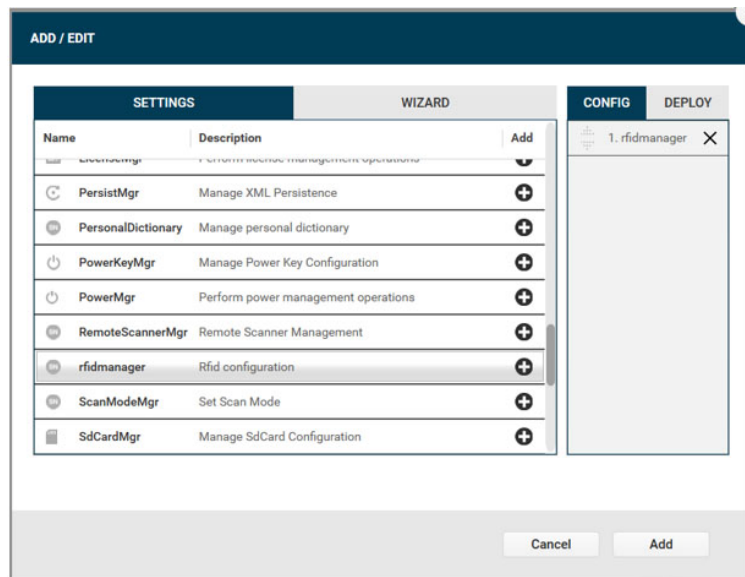
このセクションでは、StageNow の詳細オプションを使用して、新しい規制構成プロファイルを作成する手順について説明します。

プロファイルを作成し、リージョン、チャンネル マスク、およびチャンネル ホッピングを更新するには、次の手順を実行します。

1. ステージングされるデバイスとステージング サーバーの両方が接続され、ネットワークを通じてアクセスできることを確認します。
2. [Create New Profile] を選択し、[XpertMode] を選択します (65 ページの図 51 と図 52 を参照)。

3. [rfidmanager] の横にある  を選択し、[Add] を選択します。

図 60 RFID 構成の追加



4. 72 ページの図 61 に示す次の設定を入力します。

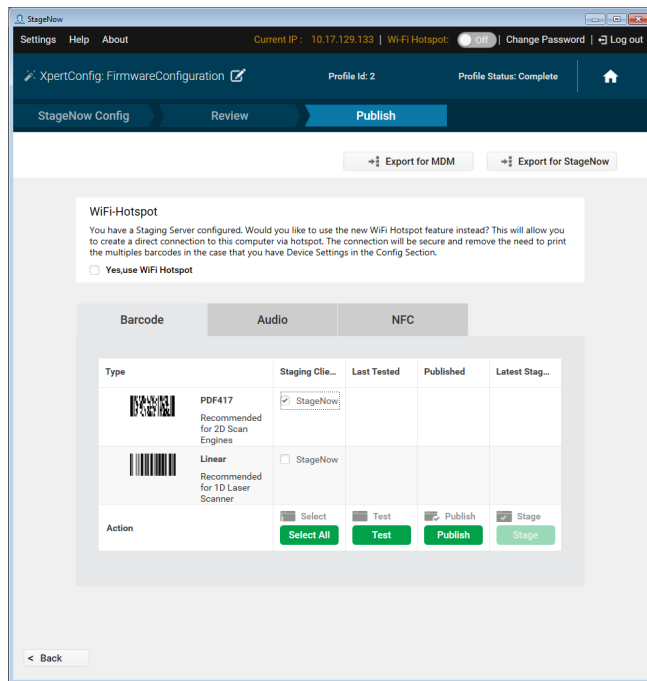
- [Channels Mask]
- [Country of Operation] (リージョン)
- [Channel Hopping] の値
- [Antenna information]
- [Singulation Control]
- [Export Settings]

図 61 rfidmanager プロファイルの作成

注:

- a. プロファイルは、すべての要素 ([Channels Mask]、[Country of Operation]、[Channel Hopping]、[Transit Power Level]、[Query Session]、[Export Settings]) に対して個別に作成できます。
 - b. リーダー情報 (デバイスの詳細、ファームウェアのバージョン、ログ、デバイス コマンド、チャネル情報) の **[Export Settings]** を選択します。すべての詳細情報は、export_logs.txt のファイル名で SD カードに格納されます。
 - c. チャネル ホッピングが有効になっている場合、複数のチャネルを選択することができます。チャネル ホッピングが無効になっている場合、リージョン設定を適用するために選択できるチャネルは 1 つだけです。
 - d. 負の値、文字列、または範囲外の値が適用された場合、これらの値はアプリケーションに表示されません。
 - e. [Country of Operation] が [United States] の場合は、[Channels Mask] の値は必要ありません。入力しても、アプリケーションには表示されません。
5. **[Continue >]** を選択し、入力を確認して、**[Complete Profile]** を選択します。
 6. 必要な **[Barcode Type]** のチェックボックスを選択します。**[Test]** を選択します。

図 62 規制アップデートの作成 - バーコードの選択



7. テストで図 63 に示すバーコードを生成します。このバーコードを、デバイスの StageNow クライアントを使用してスキャンし、規制の詳細設定とアンテナ情報をステージングできます。

図 63 規制の詳細構成とアンテナ情報をステージングするバーコード



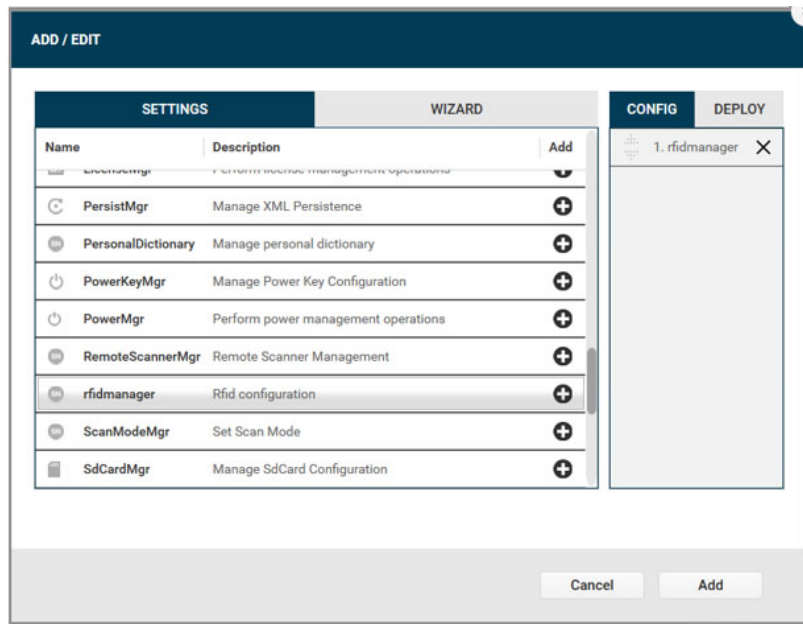
Reset Radio と Reset to Factory プロファイルの作成

このセクションでは、StageNow を使用して Reset Radio と Reset to Factory のプロファイルを作成する手順について説明します。

Reset Radio と Reset to Factory プロファイルを作成するには：

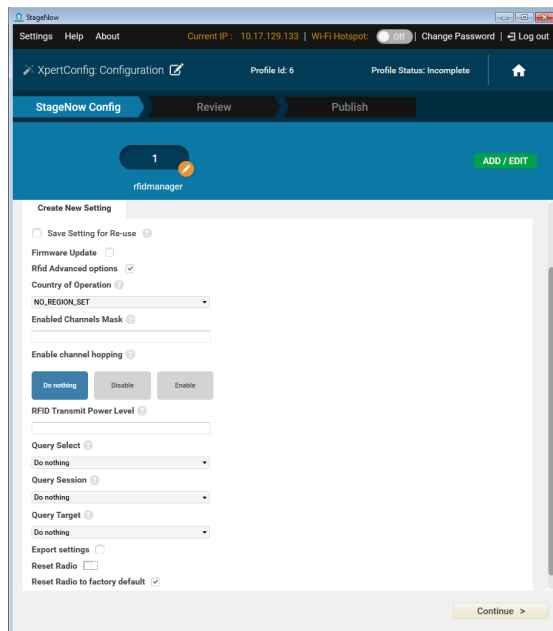
1. ステージングされるデバイスとステージング サーバーの両方が接続され、ネットワークを通じてアクセスできることを確認します。
2. [Create New Profile] を選択し、[XpertMode] を選択します (65 ページの図 51 と図 52 を参照)。
3. [rfidmanager] の横にある ⊕ を選択し、[Add] を選択します。

図 64 RFID 構成の追加



4. 図 65 に示すように、[Reset Radio] を選択して、[Reset Radio to factory default] チェックボックスを選択します。

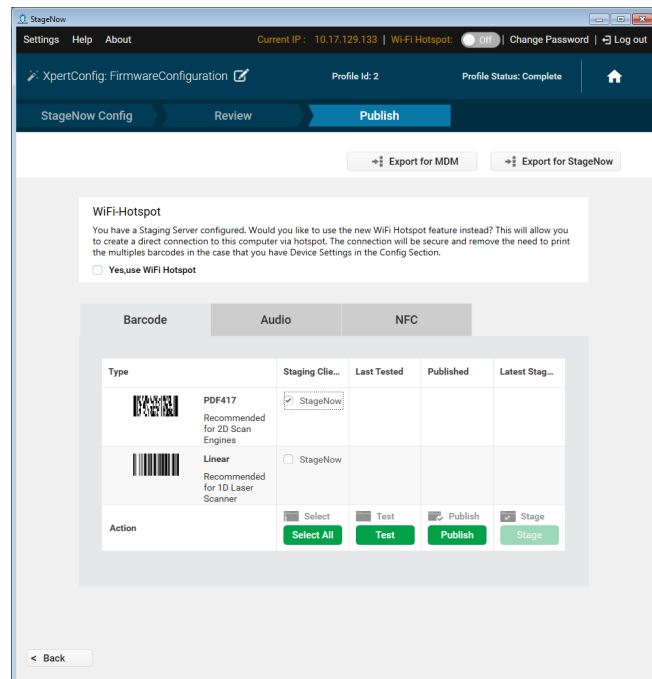
図 65 無線のリセット



注：

- プロフィールは、すべての要素 ([Reset Radio]、[Reset Radio to factory default]) に対して個別に作成することができます。
 - [Reset Radio] を選択すると、デバイスのバッテリー ランプが点滅し、設定が適用されます。
 - [Reset Radio to factory default] を選択すると、管理とデモの両方のアプリケーションのすべての値がリセットされます。
5. [Continue >] を選択し、入力を確認して、[Complete Profile] を選択します。
 6. 必要な [Barcode Type] のチェックボックスを選択します。[Test] を選択します。

図 66 リセット アップデートの作成 - バーコードの選択



7. テストで 図 67 に示すバーコードを生成します。このバーコードを、デバイスの StageNow クライアントを使用してスキャンし、リセットをステージングできます。

図 67 リセットのステージング



単一プロファイルによるファームウェアおよび規制のアップデートの適用

1つのプロファイルを使用して、ファームウェアおよび規制のアップデートを適用することができます。リーダーのファームウェアが最初に更新され、次に規制構成が適用されます。

図 68 単一プロファイルのファームウェアと構成

The screenshot displays the StageNow Config web interface. At the top, there's a navigation bar with 'Settings', 'Help', and 'About'. Below it, a status bar shows 'Current IP: 10.17.129.133', 'Wi-Fi Hotspot: OFF', and 'Change Password | Log out'. The main header includes 'XpertConfig: Configuration' and 'Profile Id: 6'. The 'Profile Status: Incomplete' is also shown. The 'StageNow Config' tab is active, with 'Review' and 'Publish' tabs visible. A blue bar at the top of the main content area contains a '1' in a circle and an 'ADD / EDIT' button. Below this, the 'Create New Setting' form is displayed. It includes a checkbox for 'Save Setting for Re-use', a 'Firmware Update' checkbox, a 'Firmware Update FileName' field with the value '/sdcard/SAADXS00-001-R04D0.DAT', a checked 'Rfid Advanced options' checkbox, a 'Country of Operation' dropdown set to 'UNITED STATES', an 'Enabled Channels Mask' field, and an 'Enable channel hopping' section with 'Do nothing', 'Disable', and 'Enable' buttons. The 'RFID Transmit Power Level' is set to '270'. There are also 'Query Select', 'Query Session', 'Query Target', and 'Inventory Target Flag A' dropdowns. A 'Continue >' button is at the bottom right.

メンテナンスと トラブルシューティング

はじめに

この章では、クリーニングとメンテナンスの方法、および発生する可能性のある問題のトラブルシューティングについて説明します。

クリーニング



注意: 必ず保護用めがねを着用してください。

ご使用前に、圧縮空気とアルコールに関する警告ラベルをお読みください。

医学的な理由などで他の溶液を使用する必要がある場合は、Zebra に詳細をお問い合わせください。



警告: 高温の油やその他の可燃性の液体に製品を触れさせないでください。万一そのような液体に触れた場合は、製品を電源から抜き、このガイドラインに従ってただちに製品をクリーニングしてください。

使用可能な洗剤の活性成分

どのような洗剤であってもその活性成分は、イソプロピル アルコール、漂白剤/次亜塩素酸ナトリウム、過酸化水素、中性食器洗剤のいずれか、またはこれらの組み合わせのみで構成されている必要があります。

有害成分

化学薬品の中には、RFD2000 およびモバイル コンピュータの樹脂部分を冒すことが判明しているために、デバイスに接触しないような配慮が必要なものがあります。このような化学薬品として、アンモニア溶液、アミンまたはアンモニアの化合物、アセトン、ケトン、エーテル、芳香族炭化水素および塩素化炭化水素、アルカリのアルコール溶液または水溶液、エタノールアミン、トルエン、トリクロロエチレン、ベンゼン、石炭酸、および TB-リゾフォルムがあります。

クリーニング方法

RFD2000 およびモバイル コンピュータに液体を直接塗布しないでください。柔らかい布にしみ込ませて使用するか、ウェット ティッシュを使用してください。布やウェット ティッシュにデバイスをくるまず、力を入れずにゆっくりと表面を拭きます。ディスプレイの周辺などに液体がたまらないように注意してください。デバイスの使用前に、十分に自然乾燥させてください。



重要: クリーニングするとき、または雨や湿気にさらすときは、必ずバッテリー カバーを取り付けた状態にしてください。バッテリー カバーがないと、防滴、防塵の性能は発揮されません。

クリーニングの際の注意事項

多くのビニール製手袋には、医療用途にはお勧めできないフタレート系の添加剤が含有されており、RFD2000 およびモバイル コンピュータの筐体には有害であることがわかっています。フタレートを含有する手袋を着用して RFD2000 を扱わないでください。また、手袋を外した後は、手を洗って汚染残留物を除去してからデバイスを扱ってください。RFD2000 を扱う前に、エタノールアミンを含有する除菌ローションなど、上記の有害成分を含有する製品を使用していた場合は、樹脂部の損傷を防止するために、手を完全に乾燥させてから RFD2000 を扱うようにしてください。

必要な材料

- アルコール脱脂綿
- レンズ用ティッシュ ペーパー
- 綿棒
- イソプロピル アルコール
- 管つき圧縮空気の缶

クレードルのコネクタのクリーニング

クレードルのコネクタをクリーニングするには、次の手順に従います。

1. クレードルから DC 電源ケーブルを取り外します。
2. 綿棒のコットン部をイソプロピル アルコールに浸します。
3. 綿棒の綿の部分をコネクタのピンに沿ってこすります。コネクタの片側から反対側に向けて、ゆっくり綿棒を往復させます。コネクタにコットンの屑が残らないようにしてください。
4. コネクタのすべての側面を綿棒で拭きます。
5. 圧縮空気をコネクタ部にスプレーします。このとき、圧縮空気の管やノズルを表面から約 1.2cm 以上離してください。



注意: ノズルを自分や他の人に向けしないでください。ノズルや管は自分の顔に向けないようにしてください。

6. 綿棒の屑が残っていないことを確認し、屑が残っていれば取り除きます。
7. クレードルの他の部分に油分や埃が見つかった場合は、糸くずの出ない布とアルコールを使用して取り除きます。
8. アルコールが蒸発するまで 10 ~ 30 分 (周辺の温度と湿度による) 置いてから、クレードルに電源をつないでください。

気温が低く湿度が高い場合は、長い乾燥時間が必要となります。気温が高く湿度が低い場合は、乾燥時間が短くて済みます。

クリーニングの頻度

モバイル デバイスが使用される環境がそれぞれ異なるため、クリーニングの頻度はご自分でご判断ください。必要に応じた頻度でクリーニングを行うことができます。ただし、埃の多い環境で使用する場合は、スキャンのパフォーマンスを最適に保つため、スキャナ ウィンドウを定期的にクリーニングすることをお勧めします。

メンテナンス

トラブルを避けるため、本機の使用中は次の注意事項を守ってください。

RFD2000

- 防滴および防塵シーリングがありますが、雨や湿気には長時間さらさないでください。一般的に、電卓などの小型電子装置と同様に扱ってください。
- クリーニングするとき、または雨や湿気にさらすときは、必ずバッテリー カバーを取り付けた状態にしてください。バッテリー カバーがないと、防滴、防塵の性能は発揮されません。
- 落としたり強い衝撃を与えたりはしないでください。
- 極度の高温または低温にはさらさないでください。暑い日に車のダッシュボードに置いたままにしたり、熱源のそばに置いたりしないでください。
- 極端にほこりっぽい場所、極端に湿度が高い場所、濡れている場所では、保管も使用もしないでください。
- 窓拭き用の洗浄液は使わないでください。イソプロピル アルコールと水とを 1 対 1 の割合で混ぜた溶液で湿らせた柔らかい布を使用してください。[77ページのクリーニング](#)を参照してください。
- スクリーンにも本機のどこにも溶液が溜まらないようにしてください。
- 本機が濡れたままになるほどの大量の溶液は使わないでください。

バッテリー



警告: 本機を保管するときは、必ずバッテリーを抜いてください。バッテリーは、長期間入れたままにしておくと不可逆的損傷が生じる可能性があります。バッテリーは必ず、本機から抜いて保管してください。バッテリーは、取り付けのまま長期間保管すると、充電できなくなるほどまで放電してしまうことがあります。

本機とは別に保管する場合でも、業界標準の指針に従うことが重要です。バッテリー セルの製造業者は、バッテリーを 1 年以上保管すると、バッテリーの総合的な品質に不可逆的な劣化が発生する可能性があることを指摘しています。このような劣化を最小限に抑える手段として、半分まで充電した状態で、5 ~ 25°C (41 ~ 77°F) の乾燥した涼しい場所に保管することを推奨します。温度は低いほど良いです。バッテリーは少なくとも 1 年に 1 回、半分の容量まで充電してください。バッテリーを半分の容量まで充電するには、完全に放電したバッテリーを 2 時間充電します。液漏れを発見した場合は、液が付着した部分への接触を避け、適切な方法で廃棄してください。

技術仕様

表 9 RFD2000 の技術仕様

項目	説明
物理特性	
寸法	高さ : 14.9cm (5.9 インチ) 幅 : 7.9cm (3.1 インチ) 長さ : 13.3cm (5.2 インチ)
重量	~10.9 オンス / ~310g (バッテリ搭載スレッド)
電源	PowerPrecision+ Li-Ion 3160 mAh バッテリ
周波数範囲 / RF 出力	米国 : 902-928MHz; 0 - 30dBm (EIRP) EU: 865-868MHz; 0 - 30dBm (EIRP) 日本 : 916-921MHz (LBT あり); 0 - 30dBm (EIRP)
動作環境	
動作温度	0°C ~ 40°C (32°F ~ 104°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
充電温度	0°C ~ 40°C (32°F ~ 104°F)
相対湿度	動作時 : 5 ~ 85% (結露なきこと)
シーリング	IP52
耐落下衝撃性能	1.2m (4 フィート) の高さからコンクリート面
耐転倒衝撃仕様	20°C 下で、0.5m の高さからの転倒 500 サイクル (1000 回の落下)
静電放電 (ESD)	± 15kV 大気放電、± 8kV 直接放電、± 8kV 間接放電

図 69 シングル スロット クレードルの技術仕様

項目	説明
寸法	高さ : 9.0cm (3.54 インチ) 幅 : 9.8cm (3.86 インチ) 長さ : 13.3cm (5.24 インチ)
重量	0.205kg / 0.45lbs
入力電圧	12VDC
消費電力	最大 15W
動作温度	0°C ~ 40°C (32°F ~ 104°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
充電温度	0°C ~ 40°C (32°F ~ 104°F)
相対湿度	動作時 : 5 ~ 85% (結露なきこと)
耐落下衝撃性能	20°C 下で、76.2cm (30 インチ) の高さからビニール タイル接着コンクリートへ落下
静電放電 (ESD)	± 15kV 大気放電、± 8kV 直接放電、± 8kV 間接放電

図 70 5 スロット クレードルの技術仕様

項目	説明
寸法	高さ : 10.9cm (4.29 インチ) 幅 : 48.9cm (19.25 インチ) 長さ : 13.3cm (5.24 インチ)
重量	1.884kg / 4.15lbs
入力電圧	12VDC @ 9Amp
消費電力	75W (スロットすべてで充電する場合の最大電力)
動作温度	0°C ~ 40°C (32°F ~ 104°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
充電温度	0°C ~ 40°C (32°F ~ 104°F)
相対湿度	動作時 : 5 ~ 85% (結露なきこと)
耐落下衝撃性能	20°C 下で、76.2cm (30 インチ) の高さからビニール タイル接着コンクリートへ落下
静電放電 (ESD)	± 15kV 大気放電、± 8kV 直接放電、± 8kV 間接放電

トラブルシューティング

トラブルシューティング



メモ: 表 10 に記載されているトラブルシューティング情報は、RFD2000 RFID スレッドのデフォルト LED 構成に該当します。

表 10 デフォルト LED による RFD2000 RFID スレッドのトラブルシューティング

症状	主な原因	操作
RFID アプリケーションは TC20 モバイル デバイスで動作します。	RFD2000 RFID Manager APK がインストールされていません。	TC20 モバイル デバイスに RFID アプリケーションをインストールする前に、最初に RFID Manager APK をインストールします。 TC20 端末でエンタープライズ リセットが発生した場合、RFID Manager APK を再インストールする必要があります。
RFID スレッドはタグを読み取りません。	RF リージョン構成が設定されていません。	RFID Manager アプリケーションを使用し、アプリケーションの手順に従って、規制リージョンまたは国ごとの操作を設定します。
RFID スレッドは TC20 モバイル デバイスに接続されていて、トリガーを押した後も、RFID アプリケーションに応答しません。	バッテリー残量が低すぎて、RFID スレッドに電源を投入できません。	RFID スレッドの電源をオンにするには、トリガーを 2 ~ 3 秒間押します。RFID スレッドの電源をオンにすると LED が黄色に点滅します。 (デフォルトでは、RFID スレッドがオフ モードになっているときにトリガーを押すと電源がオンになります。ただし、RFID スレッドは無効にすることができ、その場合、このステップは不要です。) RFID スレッドを充電クレードルで充電します。RFID スレッドで黄色 LED が点滅して充電が開始したことを示します。 13ページのLED の意味 を参照してください。
	Zebra TC20 モバイル コンピュータが RFID スレッドに正しく挿入されていません。	Zebra モバイル デバイスを取り外して、RFID スレッドに確実に取り付け直してください。 16ページのモバイル コンピュータを RFID スレッドに取り付ける を参照してください。
	バッテリーが破損しています。	充電クレードルにしばらく取り付けただ後も RFD2000 RFID スレッドの LED が黄色に点滅しない場合、バッテリーの交換サービスを依頼してください。 9ページのサービスに関する情報 を参照してください。

表 10 デフォルト LED (続き) による RFD2000 RFID スレッドのトラブルシューティング

症状	主な原因	操作
RFID スレッドがアプリケーションに応答せず、RFD2000 RFID スレッドの赤色 LED が点灯または点滅しています。	回復モードが有効です。	意図せずに回復モードに入った場合は、RFID スレッドで回復モードが自動的に終了するまで約 1.5 分間待ちます。 13ページの回復モード を参照してください。
RFID スレッドは応答していますがタグを読み取れません。	バッテリー残量がきわめて少なくなっています。	RFID スレッドを充電クレードルで充電します。RFID スレッドの LED が黄色に点滅します。RFID スレッドは、充電クレードルから取り外したときに LED が一瞬黄色または緑色に点灯すると、使用できます。
クレードルに取り付けているとき、RFD2000 RFID スレッドの LED は黄色に速く点滅します。	充電エラーです。	RFID スレッドをクレードルから取り外し、クレードルに挿入し直して、充電を再開します。問題が解決しない場合は、バッテリーの交換サービスを依頼してください。 9ページのサービスに関する情報 を参照してください。
RFID スレッドをクレードルから取り外すと、RFID スレッドの赤色 LED が一瞬点灯します。	これは、バッテリーレベルがまだ低いため、RFID スレッドをクレードルから取り外すのが早すぎたことを示しています。	バッテリーが十分に充電されるまで RFID スレッドを充電器に戻します。
(充電中ではなく) 使用中に、RFID スレッドの LED が赤色で点滅するか、LED が赤色と緑色または黄色で交互に点滅します。	バッテリー寿命終了の表示です。	バッテリーの交換サービスを依頼してください。 9ページのサービスに関する情報 を参照してください。
Zebra TC20 モバイルコンピュータのバッテリーが充電されません。	充電クレードルが AC 電源から抜かれています。	充電クレードルに電力が供給されていることを確認します。
	Zebra TC20 モバイルコンピュータがクレードルに完全にセットされていません。	Zebra TC20 モバイルコンピュータをクレードルから取り外し、充電クレードルにしっかりセットされるように差し込み直します。

LED モード 2 による RFD2000 RFID スレッドのトラブルシューティング



メモ: 表 10 に記載されているトラブルシューティング情報に加え、表 11 は、トリガーを押したときに RFD2000 RFID スレッドがバッテリー充電状態を示すように構成されている場合にも該当します。これは、12ページの表 5 に説明されている LED モード 2 です。

表 11 LED モード 2 による RFD2000 RFID スレッドのトラブルシューティング

症状	主な原因	操作
トリガーを押したときに RFID スレッドの LED が点滅しません。	バッテリー残量が低すぎて、RFID スレッドに電源を投入できません。	RFID スレッドの電源をオンにするには、トリガーを 2 ~ 3 秒間押します。RFID スレッドの電源をオンにすると LED が黄色に点滅します。 (デフォルトでは、RFID スレッドがオフ モードになっているときにトリガーを押すと電源がオンになります。ただし、RFID スレッドは無効にすることができ、その場合、このステップは不要です。) RFID スレッドを充電クレードルで充電します。RFID スレッドで黄色 LED が点滅して充電が開始したことを示します。13ページのLED の意味を参照してください。
	バッテリーが破損しています。	充電クレードルにしばらく取り付けただ後も RFD2000 RFID スレッドの LED が黄色に点滅しない場合、バッテリーの交換サービスを依頼してください。9ページのサービスに関する情報を参照してください。

症状	主な原因	操作
RFID スレッドは TC20 モバイル デバイスに接続されていて、トリガーを押した後も、RFID アプリケーションに応答しません。	バッテリー残量が低すぎて、RFID スレッドに電源を投入できません。	RFID スレッドの電源をオンにするには、トリガーを 2 ~ 3 秒間押します。RFID スレッドの電源をオンにすると LED が黄色に点滅します。 (デフォルトでは、RFID スレッドがオフ モードになっているときにトリガーを押すと電源がオンになります。ただし、RFID スレッドは無効にすることができ、その場合、このステップは不要です。) RFID スレッドを充電クレードルで充電します。RFID スレッドで黄色 LED が点滅して充電が開始したことを示します。 13ページのLED の意味 を参照してください。
	バッテリーが破損しています。	充電クレードルにしばらく取り付けただ後も RFID2000 RFID スレッドの LED が黄色に点滅しない場合、バッテリーの交換サービスを依頼してください。 9ページのサービスに関する情報 を参照してください。
	Zebra TC20 モバイル コンピュータが RFID スレッドに正しく挿入されていません。	Zebra モバイル デバイスを取り外して、RFID スレッドに確実に取り付け直してください。 16ページのモバイルコンピュータを RFID スレッドに取り付ける を参照してください。
	TC20 モバイル コンピュータが RFID スレッドに接続できません。	RFID スレッドのトリガーを押すと RFID スレッドの LED が緑色または黄色になる場合、スレッドは機能しています。同じ RFID スレッドで別の TC20 モバイル コンピュータを試してみるか、TC20 モバイル コンピュータを再起動して RFID スレッドに再接続してみます。
RFID スレッドは応答していますがタグを読み取れません。	バッテリー残量がきわめて少なくなっています。	RFID スレッドのトリガーを押すと赤色の LED が点灯する場合は、RFID スレッドを充電クレードルに取り付けます。RFID スレッドの LED が黄色に点滅します。RFID スレッドは、充電クレードルから取り外したときに LED が一瞬黄色または緑色に点灯すると、使用できます。

Data Dictionary

はじめに

この章では、属性番号 (デバイスに関する構成パラメータ、監視対象データ、作成日) およびさまざまな属性ドメインの管理について説明します。この情報はバーコード スキャナと OEM エンジンの両方に適用されます。

RFD2000 の属性

属性の定義

- 属性番号 - 属性番号が含まれます。すべての属性番号は一意です。
- 属性名 - 属性の名前を定義します。
- 説明 - 属性の説明が含まれます。
- タイプ - 表 12 で定義されています。

表 12 属性タイプ

タイプ	定義
B	Byte - 符号なしの文字
C	Char - 単一バイト
F	ビット フラグ
W	WORD - 短い符号なし整数 (16 ビット)
I	SWORD - 短い符号付き整数 (16 ビット)
D	DWORD - 長い符号なし整数 (32 ビット)
L	SDWORD - 長い符号付き整数 (32 ビット)
A	アレイ
S	文字列
X	操作
N	最後のパラメータの表示

- サイズ - 属性のサイズを示します。
- 値 - レポートされた/受け入れられた値の有効な範囲。
- ユーザー モード アクセス - 属性が読み取り専用か読み取り/書き込みかどうかを定義します。

インベントリ コマンド構成

表 13 インベントリ コマンド構成

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
バイト パラメータ							
1501	ATT_RFID_TAG_REPORT_FIRST_SEEN_TIME	ZETI インタフェースを経由して通知される在庫タグの最初に表示されるタイムスタンプフィールドを有効または無効にします。	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	1	RW
1502	ATT_RFID_TAG_REPORT_LAST_SEEN_TIME	ZETI インタフェースを経由して通知される在庫タグの最後に表示される [timestamp] フィールドを有効または無効にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW
1503	ATT_RFID_TAG_REPORT_CPC	ZETI インタフェースを経由して通知される在庫タグの [Protocol Control] フィールドを有効または無効にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW
1504	ATT_RFID_TAG_REPORT_RSSI	ZETI インタフェースを経由して通知される在庫タグの [RSSI] フィールドを有効または無効にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	1	RW
1505	ATT_RFID_TAG_REPORT_PHASE	ZETI インタフェースを経由して通知される在庫タグの [phase difference] フィールドを有効または無効にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW
1506	ATT_RFID_TAG_REPORT_CHANNEL_INDEX	ZETI インタフェースを経由して通知される在庫タグの [channel index] フィールドを有効または無効にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW
1507	ATT_RFID_TAG_REPORT_TAG_SEEN_COUNT	ZETI インタフェースを経由して通知される在庫タグの [tag seen count] フィールドを有効または無効にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	1	RW

Data Dictionary

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
1509 (米国のみ)	ATT_RFID_ANT_ IP_INDEX	使用する無線接続プロファイルの索引	'B'	1	0 ~ 35 (0: DivideRatio: 8, BDR: 60000, M: M4, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 25000, MaxTari: 25000, StepTari: 0, 1: DivideRatio: 8, BDR: 640000, M: FM0, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 6250, MaxTari: 6250, StepTari: 0, 2: DivideRatio: 8, BDR: 640000, M: FM0, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 6250, MaxTari: 6250, StepTari: 0, 3: DivideRatio: 8, BDR: 120000, M: M2, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 25000, MaxTari: 25000, StepTari: 0, 4: DivideRatio: 8, BDR: 120000, M: M2, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 12500, MaxTari: 23000, StepTari: 2100, 5: DivideRatio: 8, BDR: 120000, M: M2, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 25000, MaxTari: 25000, StepTari: 0, 6: DivideRatio: 8, BDR: 120000, M: M2, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 12500, MaxTari: 23000, StepTari: 2100, 7: DivideRatio: 8, BDR: 128000, M: M2, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 25000, MaxTari: 25000, StepTari: 0, 8: DivideRatio: 8, BDR: 128000, M: M2, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 12500, MaxTari: 23000, StepTari: 2100, 9: DivideRatio: 8, BDR: 128000, M: M2, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 25000, MaxTari: 25000, StepTari: 0, 10: DivideRatio: 8, BDR: 128000, M: M2, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 12500, MaxTari: 23000, StepTari: 2100, 11: DivideRatio: 8, BDR: 160000, M: M2, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 12500, MaxTari: 18800, StepTari: 2100, 12: DivideRatio: 8, BDR: 160000, M: M2, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 12500, MaxTari: 18800, StepTari: 2100, 13: DivideRatio: 8, BDR: 60000, M: M4, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 25000, MaxTari: 25000, StepTari: 0, 14: DivideRatio: 8, BDR: 60000, M: M4, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 12500, MaxTari: 23000, StepTari: 2100, 15: DivideRatio: 8, BDR: 60000, M: M4, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 25000, MaxTari: 25000, StepTari: 0, 16: DivideRatio: 8, BDR: 60000, M: M4, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 12500, MaxTari: 23000, StepTari: 2100,	0	RW

Data Dictionary

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
1509 (続き)	ATT_RFID_ANT_ IP_INDEX	使用する無線接続プロファイルの索引	'B'	1	17: DivideRatio: 8, BDR: 64000, M: M4, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 25000, MaxTari: 25000, StepTari: 0, 18: DivideRatio: 8, BDR: 64000, M: M4, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 12500, MaxTari: 23000, StepTari: 2100, 19: DivideRatio: 8, BDR: 64000, M: M4, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 25000, MaxTari: 25000, StepTari: 0, 20: DivideRatio: 8, BDR: 64000, M: M4, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 12500, MaxTari: 23000, StepTari: 2100, 21: DivideRatio: 8, BDR: 80000, M: M4, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 12500, MaxTari: 18800, StepTari: 2100, 22: DivideRatio: 8, BDR: 80000, M: M4, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 12500, MaxTari: 18800, StepTari: 2100, 23: 自動プロファイル、 24: DivideRatio: 8, BDR: 320000, M: FM0, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 12500, MaxTari: 18800, StepTari: 2100 25: DivideRatio: 8, BDR: 320000, M: FM0, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 12500, MaxTari: 18800, StepTari: 2100, 26: DivideRatio: 8, BDR: 30000, M: M8, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 25000, MaxTari: 25000, StepTari: 0, 27: DivideRatio: 8, BDR: 30000, M: M8, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 12500, MaxTari: 23000, StepTari: 2100, 28: DivideRatio: 8, BDR: 30000, M: M8, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 25000, MaxTari: 25000, StepTari: 0, 29: DivideRatio: 8, BDR: 30000, M: M8, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 12500, MaxTari: 23000, StepTari: 2100, 30: DivideRatio: 8, BDR: 32000, M: M8, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 25000, MaxTari: 25000, StepTari: 0, 31: DivideRatio: 8, BDR: 32000, M: M8, FLM: PR_ASK, PIE: 1500, MinTari: 12500, MaxTari: 23000, StepTari: 2100, 32: DivideRatio: 8, BDR: 32000, M: M8, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 25000, MaxTari: 25000, StepTari: 0, 33: DivideRatio: 8, BDR: 32000, M: M8, FLM: PR_ASK, PIE: 2000, MinTari: 12500, MaxTari: 23000, StepTari: 2100,	0	RW

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
1509 (続き)	ATT_RFID_ANT_IP_INDEX	使用する無線接続プロファイルの索引	'B'	1	34: DivideRatio: 8、BDR: 40000、M: M8、FLM: PR_ASK、PIE: 1500、MinTari: 12500、MaxTari: 18800、StepTari: 2100、 35: DivideRatio: 8、BDR: 40000、M: M8、FLM: PR_ASK、PIE: 2000、MinTari: 12500、MaxTari: 18800、StepTari: 2100)	0	RW
1510	ATT_RFID_ANT_SELECT	エア インタフェースレベルのタグ選択 (プリフィルタ) を有効または無効にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW
WORD パラメータ							
1623	ATT_RFID_ANT_ENNA_POWER	RF 送信の出力レベル (10 dBm 単位)	'W'	2	0 ~ 300	270dBm	RW
DWORD パラメータ							
1643	ATT_RFID_ANT_ENNA_TARI	Tari 値、ナノ秒単位	'D'	4	0 ~ 4294967295 (次のいずれかの値: 6250 12500 14600 16700 18800 20900 23000 25000)	0	RW

タグ選択構成

表 14 タグ選択構成

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
バイト パラメータ							
1511	ATT_RFID_TAG_SELECT_1_ENABLE	[select filter 1] を有効または無効にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW
1512	ATT_RFID_TAG_SELECT_1_TARGET	[select filter 1] のターゲット	'B'	1	0 ~ 4 (0: セッション S0 1: セッション S1 2: セッション S2 3: セッション S3 4: フラグの選択)	2	RW
1513	ATT_RFID_TAG_SELECT_1_ACTION	[select filter 1] のアクション	'B'	1	0 ~ 7 (「アクション値」セクション、表 17を参照してください)	0	RW
1514	ATT_RFID_TAG_SELECT_1_MEMBANK	[select filter 1] のメモリ バンク	'B'	1	0 ~ 3 (0: 予約済み 1: EPC 2: TID 3: ユーザー)	1	RW
1515	ATT_RFID_TAG_SELECT_1_TRUNCATE	[select filter 1] の切り詰められた返信を有効または無効にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW

Data Dictionary

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
1516	ATT_RFID_TAG_SELE CT_1_LENGTH	[select filter 1] の 選択マスクに使用 する一致パターンの開始から のビット数	'B'	1	0 ~ 255	16	RW
1517	ATT_RFID_TAG_SELE CT_2_ENABLE	[select filter 2] を 有効または無効 にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW
1518	ATT_RFID_TAG_SELE CT_2_TARGET	[select filter 2] の ターゲット	'B'	1	0 ~ 4 (0: セッション S0 1: セッション S1 2: セッション S2 3: セッション S3 4: フラグの選択)	2	RW
1519	ATT_RFID_TAG_SELE CT_2_ACTION	[select filter 2] の アクション	'B'	1	0 ~ 7 (「アクション値」 セッション、表 17を 参照してください)	0	RW
1536	ATT_RFID_TAG_SELE CT_2_MEMBANK	[select filter 2] の メモリ バンク	'B'	1	0 ~ 3 (0: 予約済み 1: EPC 2: TID 3: ユーザー)	1	RW
1537	ATT_RFID_TAG_SELE CT_2_TRUNCATE	[select filter 2] の 切り詰められた 返信を有効または 無効にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW
1538	ATT_RFID_TAG_SELE CT_2_LENGTH	[select filter 2] の 選択マスクに使用 する一致パターンの開始から のビット数	'B'	1	0 ~ 255	16	RW
1539	ATT_RFID_TAG_SELE CT_3_ENABLE	[select filter 3] を 有効または無効 にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW
1540	ATT_RFID_TAG_SELE CT_3_TARGET	[select filter 3] の ターゲット	'B'	1	0 ~ 4 (0: セッション S0 1: セッション S1 2: セッション S2 3: セッション S3 4: フラグの選択)	2	RW
1541	ATT_RFID_TAG_SELE CT_3_ACTION	[select filter 3] の アクション	'B'	1	0 ~ 7 (「アクション値」 セッション、表 17を 参照してください)	0	RW
1542	ATT_RFID_TAG_SELE CT_3_MEMBANK	[select filter 3] の メモリ バンク	'B'	1	0 ~ 3 (0: 予約済み 1: EPC 2: TID 3: ユーザー)	1	RW
1543	ATT_RFID_TAG_SELE CT_3_TRUNCATE	[select filter 3] の 切り詰められた 返信を有効または 無効にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW

Data Dictionary

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
1544	ATT_RFID_TAG_SELE CT_3_LENGTH	[select filter 3] の 選択マスクに使 用する一致パタ ーンの開始から のビット数	'B'	1	0 ~ 255	16	RW
1545	ATT_RFID_TAG_SELE CT_4_ENABLE	[select filter 4] を 有効または無効 にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW
1546	ATT_RFID_TAG_SELE CT_4_TARGET	[select filter 4] の ターゲット	'B'	1	0 ~ 4 (0: セッション S0 1: セッション S1 2: セッション S2 3: セッション S3 4: フラグの選択)	2	RW
1547	ATT_RFID_TAG_SELE CT_4_ACTION	[select filter 4] の アクション	'B'	1	0 ~ 7 (「アクション 値」セクション、 表 17を参照してくだ さい)	0	RW
1548	ATT_RFID_TAG_SELE CT_4_MEMBANK	[select filter 4] の メモリ バンク	'B'	1	0 ~ 3 (0: 予約済み 1: EPC 2: TID 3: ユーザー)	0	RW
1549	ATT_RFID_TAG_SELE CT_4_TRUNCATE	[select filter 4] の 切り詰められた 返信を有効また は無効にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW
1550	ATT_RFID_TAG_SELE CT_4_LENGTH	[select filter 4] の 選択マスクに使 用する一致パタ ーンの開始から のビット数	'B'	1	0 ~ 255	16	RW
WORD パラメータ							
1624	ATT_RFID_TAG_SELE CT_1_POINTER	一致を実行する 必要があるメモ リ バンクの先頭 からの開始位置 (単位: ビット)。	'W'	2	0 ~ 512	16	RW
1625	ATT_RFID_TAG_SELE CT_2_POINTER	一致を実行する 必要があるメモ リ バンクの先頭 からの開始位置 (単位: ビット)。	'W'	2	0 ~ 512	16	RW
1626	ATT_RFID_TAG_SELE CT_3_POINTER	一致を実行する 必要があるメモ リ バンクの先頭 からの開始位置 (単位: ビット)。	'W'	2	0 ~ 512	16	RW
1627	ATT_RFID_TAG_SELE CT_4_POINTER	一致を実行する 必要があるメモ リ バンクの先頭 からの開始位置 (単位: ビット)。	'W'	2	0 ~ 512	16	RW

[illegible]

タグ クエリ構成

表 15 タグ クエリ構成

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
バイト パラメータ							
1551	ATT_RFID_TAG_QUERY_SELECT	クエリが適用されるタグをフィルタするタグの SL フラグの状態	'B'	1	0 ~ 3 (0: すべてのタグに適用されるクエリ 1: 2: SL がアサート解除されているタグに適用されるクエリ 3: SL がアサートされているタグに適用されるクエリ)	0	RW
1552	ATT_RFID_TAG_QUERY_SESSION	クエリが適用されるセッション	'B'	1	10 ~ 3 (0: セッション S0 1: セッション S1 2: セッション S2 3: セッション S3)	1	RW
1553	ATT_RFID_TAG_QUERY_TARGET	タグのターゲット インベントリ フラグ状態。ターゲットが [AB flip] に設定されている場合、ターゲット A での在庫ラウンドの後に、ターゲット B で在庫ラウンドが繰り返されます	'B'	1	0 ~ 2 (0: 在庫ターゲット フラグ A 1: 在庫ターゲット フラグ B 2: AB flip)	0	RW
DWORD パラメータ							
1644	ATT_RFID_TAG_POPULATION	リーダーが動作している間にデフォルトでフィールドに想定されるタグ入力	'D'	4	0 ~ 4294967295	30	RW

タグ アクセス構成

表 16 タグ アクセス構成

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
バイト パラメータ							
1554	ATT_RFID_TAG_ACCESS_CRITERIA_IDX	アクセス操作中に使用する基準を選択するためのアクセス基準のリストの索引	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW
1555	ATT_RFID_TAG_ACCESS_CMD	デフォルトのアクセス コマンド識別子	'B'	1	0 -255 (7: Read 8: Write 9: Lock 10: Kill 11: Block Erase 12: Block Perma Lock)	7	RW
1556	ATT_RFID_TAG_READ_MEMBANK	読み取るメモリバンク。 [Read] アクセス操作に適用されます。	'B'	1	0 ~ 3 (0: 予約済み 1: EPC 2: TID 3: ユーザー)	3	RW
1557	ATT_RFID_TAG_READ_LENGTH	読み取るワード数。 0 は、バンク内のすべてのデータを意味します。	'B'	1	0 ~ 64	0	RW
1558	ATT_RFID_TAG_WRITE_MEMBANK	書き込むメモリバンク。 書き込みアクセス操作に適用されます。	'B'	1	0 ~ 3 (0: 予約済み 1: EPC 2: TID 3: ユーザー)	3	RW
1559	ATT_RFID_TAG_WRITE_DOBLOCK_WRITE	[Write] アクセス操作の実行中に [Block Write] 操作を実行します。	'B'	1	0 ~ 1 (0: [Write] 操作に [Block Write] を実行しません 1: [Write] 操作に [Block Write] を実行します)	0	RW
1560	ATT_RFID_TAG_BLOCK_ERASE_MEMBANK	[Block Erase] 用のメモリバンク。 [Block Erase] アクセス操作に適用されます。	'B'	1	0 ~ 3 (0: 予約済み 1: EPC 2: TID 3: ユーザー)	3	RW
1561	ATT_RFID_TAG_BLOCK_ERASE_LENGTH	消去するワード数。	'B'	1	1 ~ 128	1	RW
1562	ATT_RFID_TAG_BLOCK_PERMA_LOCK	[Block Perma Lock] を実行または現在の [Perma Lock] ステータスを読み取り	'B'	1	0 ~ 1 (0: [Block Perma Lock] ステータスの読み取り 1: [Block Perma Lock] の実行)	0	RW

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
1563	ATT_RFID_TAG_BLOCK_PERMA_MEMBANK	[Block Perma Lock] 操作を実行する必要があるメモリバンク	'B'	1	0 ~ 3 (0: 予約済み 1: EPC 2: TID 3: ユーザー)	3	RW
1565	ATT_RFID_TAG_BLOCK_PERMA_LOCK_BLKRRANGE	16 ブロック単位での [Block Perma Lock] マスク範囲	'B'	1	0 ~ 255	1	RW
WORD パラメータ							
1564	ATT_RFID_TAG_BLOCK_PERMA_LOCK_BLKPTR	16 ブロック単位での blockmask の開始アドレス	'W'	2	0 ~ 65535	0	RW
1628	ATT_RFID_TAG_READ_OFFSET	読み取り操作を開始する必要があるデータ バンクの先頭からのオフセットのワード数。	'W'	2	0 ~ 65535	0	RW
1629	ATT_RFID_TAG_WRITE_OFFSET	書き込み操作を開始する必要があるデータ バンクの先頭からのオフセットのワード数。	'W'	2	0 ~ 65535	0	RW
1630	ATT_RFID_TAG_BLOCK_ERASE_OFFSET	ブロック消去操作を開始する必要があるデータ バンクの先頭からのオフセットのワード数。	'W'	2	0 ~ 65535	0	RW
文字列パラメータ							
1654	ATT_RFID_TAG_WRITE_DATA_BUF	タグ書き込みアクセス操作に書き込まれるデータ	'S'	34	変数 (バイトのシーケンス。 最大 34 バイト)	NULL 文字列 (0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0x00,0x00)	RW
1684	ATT_RFID_TAG_BLOCK_PERMA_LOCK_BLKMASK		'S'	32	変数 (バイトのシーケンス。 最大 32 バイト)	NULL 文字列 (0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0x00,0x00)	RW
1655	ATT_RFID_TAG_LOCK_MASK	タグ ロック操作のマスキング値	'S'	5	変数 (バイトのシーケンス。 最大 5 バイト)	0x07,0x07,0x07,0x07,0x07	RW
DWORD パラメータ							
1645	ATT_RFID_TAG_ACCESS_PWD	アクセス操作のパスワード	'D'		0 ~ 4294967295	0	RW

リージョン構成

表 17 リージョン構成

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
バイト パラメータ							
1581	ATT_RFID_REGION_SKU	RFID 規制識別子	'B'	1	0 ~ 255	1	RW
1582	ATT_RFID_REGION_DEV_NAME		'B'	1	0 ~ 255		RW

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
1583	ATT_RFID_REGION_CODE	装置を稼働させる国。[Regulatory] 設定はこの選択により異なります。	'B'	1	0 ~ 255{ 0: NO_REGION_SET 1: アルバニア 2: アンドラ 3: アルゼンチン 4: オーストラリア 5: バングラデシュ 6: ブータン 7: ボリビア 8: ボスニア ヘルツェゴビナ 9: ブラジル 10: カナダ 11: カンボジア 12: チリ 13: 中国 14: コロンビア 15: ドミニカ共和国 16: エクアドル 17: エルサルバドル 18: 英国 19: 欧州連合 20: グアテマラ 21: グアム 22: 香港 23: インド 24: インドネシア 25: JAPAN_1W_LBT 26: JAPAN_250MW 27: ラオス_EU 28: ラオス_FCC 29: マカオ 30: マケドニア 31: マレーシア 32: メキシコ 33: モナコ 34: モンテネグロ 35: ニュージーランド_FCC 36: ニュージーランド_EU 37: パキスタン 38: パナマ 39: パラグアイ 40: ペルー 41: フィリピン 42: プエルトリコ 43: ロシア 44: サウジアラビア 45: シンガポール 46: 南アフリカ 47: 大韓民国 48: スリランカ 49: 台湾 50: タイ 51: トルコ 52: UAE 53: 米国 54: ウルグアイ 55: ベネズエラ 56: ベトナム 57: ヴァージン諸島 58: ETSI 59: FCC 60: イスラエル 61: アルジェリア 62: アルメニア 63: オーストリア 64: アゼルバイジャン 65: バーレーン 66: ベルギー 67: ブルガリア 68: コスタリカ 69: クロアチア 70: キプロス 71: チェコ共和国 72: デンマーク		

Data Dictionary

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
					73: エジプト 74: エストニア 75: フィンランド 76: フランス 77: ジョージア 78: ドイツ 79: ギリシャ 80: ハンガリー 81: アイスランド 82: アイルランド 83: イタリア 84: ヨルダン 85: カザフスタン 86: クウェート 87: ラトビア 88: リトアニア 89: ルクセンブルグ 90: マルタ 91: オランダ 92: ノルウェー 93: オマーン 94: ポーランド 95: ポルトガル 96: カタール 97: ルーマニア 98: セルビア 99: スロベニア 100: スロベニア 101: スペイン 102: スウェーデン 103: スイス 104: チュニジア 105: ウクライナ }	0	RW
1584	ATT_RFID_HOPPING_ENABLED	チャンネル ホッピングを有効にします。規制で構成可能な場合のみ適用されます。	'B'	1	0 -1 (0: 無効 1: 有効)	1	RW
DWORD パラメータ							
1647	ATT_RFID_REG_CH_NL_LOWER_MASK	有効にされているチャンネルのビットマスク。最小有効ビットは、最下位のチャンネルを表します。	'D'	4	0 ~ 4294967295	0x000f	RW
1648	1648 ATT_RFID_REG_CH_NL_UPPER_MASK		'D'	4	0 ~ 4294967295	0x0000	RW

周辺機器構成

表 18 周辺機器構成

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
バイト パラメータ							
1607	ATT_RFID_UUID_CONFIG_ORDER	UUID の順序を決定します	'B'	1	0 ~ 1 (0: 最初に SPP UUID を構成 1: 最初に CUSTOM UUID を構成)	1	RW

トリガー構成

表 19 トリガー構成

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
バイト パラメータ							
1593	ATT_RFID_START_ON_TRIGGER	外部ハンドヘルドトリガーに基づいて RFID 操作の開始を制御します	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW
1594	ATT_RFID_START_TRIGGER_TYPE	トリガーを押すまたは解除することで操作の開始を制御します	'B'	1	0 ~ 1 (0: トリガーを押すと開始 1: トリガーを解除すると開始)	0	RW
1595	ATT_RFID_REPEAT_START	トリガー停止条件が満たされた後トリガー開始条件をモニタリングすることにより、操作を繰り返す必要があるかを設定します	'B'	1	0 ~ 1 (0: トリガー開始モニタリングを繰り返します 1: トリガー開始を繰り返しません)	0	RW
1596	ATT_RFID_STOP_ON_TRIGGER	外部ハンドヘルドトリガーに基づいて RFID 操作の停止を制御します	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW
1597	ATT_RFID_STOP_TRIGGER_TYPE	トリガーを押すまたは解除することで操作の停止を制御します	'B'	1	0 ~ 1 (0: トリガーを引くと停止 1: トリガーを解除すると停止)	0	RW
1598	ATT_RFID_STOP_ON_TAG_COUNT	タグ認識数に基づいて RFID 操作の停止を制御します	'B'	1	0 ~ 1 (0: タグ認識数に基づいて停止しません 1: タグ認識数に基づいて停止します)	0	RW
1599	ATT_RFID_STOP_ON_TIMEOUT	タイムアウトに基づいて RFID 操作の停止を制御します	'B'	1	0 ~ 1 (0: タイムアウトで停止しません 1: タイムアウトで停止します)	0	RW
1600	ATT_RFID_STOP_ON_INV_COUNT	指定回数の在庫ラウンドの完了に基づいて RFID 操作の停止を制御します	'B'	1	0 ~ 1 (0: 在庫数に基づいて停止しません 1: 在庫数に基づいて停止します)	0	RW

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
WORD パラメータ							
1635	ATT_RFID_TRIGG ER_START_DELAY	トリガーの開始から動作の開始までのデレイ (ミリ秒単位) 0 はデレイなしを意味します。	'W'	2	0 ~ 65535	0	RW
1636	ATT_RFID_STOP_ TAG_COUNT	停止する前に監視するタグ数。	'W'	2	0 ~ 65535	0	RW
1637	ATT_RFID_STOP_I NV_COUNT	在庫ラウンドの回数	'W'	2	0 ~ 65535	0	RW
DWORD パラメータ							
1649	ATT_RFID_TRIGG ER_STOP_TIMEOU T	トリガー停止のタイムアウト値	'D'	4	0 ~ 4294967295	0	RW

ASCII 構成

表 20 ASCII 構成

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
バイト パラメータ							
1601	ATT_RFID_ASCII_EC O_OFF_ON	ホストからの入力 ZETI 通信のホストにエコーされるかどうかを制御します。端末ベースのホストが入力されて、リーダーに送信される内容を確認するために便利です。	'B'	1	0 ~ 1 (0: ZETI エコーを有効にする 1: ZETI エコーをオフにする)	1	RW
1602	ATT_RFID_ASCII_CR C_ON_OFF	ZETI 通信で [CRC] フィールドが有効にされるかどうかを制御します。有効にされている場合、[CRC] フィールドがリーダーからの各行に追加されます。	'B'	1	0 ~ 1 (0: ZETI CRC をオフにする 1: ZETI CRC を有効にする)	0	RW
1603	ATT_RFID_ASCII_DE BUG_INTERFACE		'B'	1	0 ~ 255	0	RW
1604	ATT_RFID_ASCII_DE BUG_ON_OFF		'B'	1	0 ~ 255	0	RW
1605	ATT_RFID_ASCII_DE BUG_LEVEL		'B'	1	0 ~ 255	3	RW
1606	ATT_RFID_ASCII_OP ERAND_NOTIFY_ON _OFF	RFID 操作の ZETI インタフェース経由でリーダーからの動作終了通知メッセージを有効または無効にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 動作終了通知をオフにする 1: 動作終了通知を有効にする)	0	RW

Data Dictionary

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
1608	ATT_RFID_ASCII_ST ART_OPR_NOTIFY_ ON_OFF	すべての動作開始後 に ZETI インタフェ ース経由でリーダーか らの通知メッセージを 有効または無効にし ます	'B'	1	0 ~ 1 (0: 動作開始 通知をオフにする 1: 動作開始通知を有効 にする)	0	RW
1609	ATT_RFID_ASCII_ST OP_OPR_NOTIFY_O N_OFF	すべての動作停止後 に ZETI インタフェ ース経由でリーダーか らの通知メッセージを 有効または無効にし ます	'B'	1	0 ~ 1 (0: 動作停止 通知をオフにする 1: 動作停止通知を有効 にする)	0	RW
1668	ATT_RFID_ASCII_TR IGGER_NOTIFY_ON_ OFF		'B'	1	0 ~ 1 (0: 通知をオフに する 1: 通知をオンにする)	1	RW
1669	ATT_RFID_ASCII_BA TTERY_NOTIFY_ON_ OFF		'B'	1	0 ~ 1 (0: 通知をオフに する 1: 通知をオンにする)	1	RW
1670	ATT_RFID_ASCII_TE MPERATURE_NOTIF Y_ON_OFF		'B'	1	0 ~ 1 (0: 通知をオフに する 1: 通知をオンにする)	1	RW
1671	ATT_RFID_ASCII_PO WER_NOTIFY_ON_O FF		'B'	1	0 ~ 1 (0: 通知をオフに する 1: 通知をオンにする)	0	RW
1680	ATT_RFID_ASCII_DA TABASE_NOTIFY_O N_OFF		'B'	1	0 ~ 1 (0: 通知をオフに する 1: 通知をオンにする)	0	RW
1681	ATT_RFID_ASCII_RA DIO_ERR_NOTIFY_O N_OFF		'B'	1	0 ~ 1 (0: 通知をオフに する 1: 通知をオンにする)	0	RW
1685	ATT_RFID_ASCII_BA TCH_MODE_NOTIFY_ ON_OFF		'B'	1	0 ~ 1 (0: 通知をオフに する 1: 通知をオンにする)	1	RW

タグ アクセス基準構成

表 21 タグ アクセス基準構成

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
バイト パラメータ							
1610	ATT_RFID_ACCESS1_ENABLE	RFID アクセス操作フィルタを有効または無効にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: アクセスフィルタを無効にする 1: アクセスフィルタを有効にする)		
1611	ATT_RFID_ACCESS1_FILTER1_MEMBANK	最初のフィルタのメモリバンク	'B'	1	0 ~ 3 (0: 予約済み 1: EPC 2: TID 3: ユーザー)	3	RW
1612	ATT_RFID_ACCESS1_FILTER1_DOMATCH	フィルタに一致するタグまたはフィルタに一致しないタグのどちらで動作を実行するかを設定します	'B'	1	0 ~ 1 (0: アクセスフィルタを無効にする 1: フィルタの一致を有効にする)	0	RW
1613	ATT_RFID_ACCESS1_FILTER2_MEMBANK	第2フィルタ用メモリバンク	'B'	1	0 ~ 3 (0: 予約済み 1: EPC 2: TID 3: ユーザー)	3	RW
1614	ATT_RFID_ACCESS1_FILTER2_DOMATCH	フィルタに一致するタグまたはフィルタに一致しないタグのどちらで動作を実行するかを設定します	'B'	1	0 ~ 1 (0: アクセスフィルタを無効にする 1: フィルタの一致を有効にする)	0	RW
WORD パラメータ							
1638	ATT_RFID_ACCESS1_FILTER1_START_POS	一致を実行する必要があるメモリバンクの先頭からの開始位置 (単位: ビット)。	'W'	2	0 ~ 65535	0	RW
1639	ATT_RFID_ACCESS1_FILTER1_MATCH_LENGTH	一致に使用する開始位置からのビット数。	'W'	2	0 ~ 65535	16	RW
1640	ATT_RFID_ACCESS1_FILTER2_START_POS	一致を実行する必要があるメモリバンクの先頭からの開始位置 (単位: ビット)。	'W'	2	0 ~ 65535	0	RW
1641	ATT_RFID_ACCESS1_FILTER2_MATCH_LENGTH	一致に使用する開始位置からのビット数。	'W'	2	0 ~ 65535	16	RW

Locate Tag 構成

表 22 Locate Tag 構成

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
文字列パラメータ							
1663	ATT_RFID_LOCATE_EPCID		'S'	66	変数 (バイトのシーケンス。最大 66 バイト)	NULL 文字列 (0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 00,0x00,0x00,0x00,0x00,0x00, 0x00,0x00)	RW

Dynamic Power 構成

表 23 Dynamic Power 構成

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
バイト パラメータ							
1676	ATT_GENX_DYN_PW R_OPTIMIZATION	RFID 操作中に Dynamic Power Optimization を有効ま たは無効にします	‘B’	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	1	RW

デューティ サイクル構成

表 24 デューティ サイクル構成

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
バイト パラメータ							
1677	ATT_GENX_DUTY_C YCLE_PERCENT	リーダーの動作中 RF がオンになっている 時間の公称パーセント	'B'	1	0 ~ 100	100%	RW

電力モード構成

表 25 電力モード構成

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
バイト パラメータ							
1765	ATT_BATT_DISCON NECT_EN	タイムアウト後にデ バイスの電源が自動 的にオフになる低電 力モードでのアイド ル タイムアウト	'B'	2	0 - 無効、 26 - 10 分、 27 - 15 分、 28 - 20 分、 29 - 30 分、 30 - 45 秒、 33 - 1 時間、 34 - 2 時間、 36 - 4 時間 メモ: 上記のタイムア ウトにさらに 5 分 追 加されます (たとえ ば、10 分を選択した 場合はオフ モードへ の移行に 15 分かかり ます)。	35 分	RW
1785	ATT_RFID_LED_ MODE	(「LED モード」セ クション、表 18を 参照してください)	'B'	2	0 ~ 3	1	RW
1786	ATT_RFID_LED_ MODE	トリガーを押したと き、LED はほぼ瞬時 に"点灯 - 1 回点滅"し て、バッテリーの充電 状態を示す必要があ ります。LED はデフ ォルトでは 0.3 秒間 点灯します。この時 間ウィンドウは、 0.1 秒から 3 秒の間で 構成できます。	'B'	2	1 ~ 30	0.3sec (単位は 10 分の 1 秒です)	RW
1788	ATT_BATTERY_ STATUS_LED_ DURATION	LED モードに関係な く、スレッドを充電 クレードルから取り 外すと、バッテリーの 充電状態が表示され ます	'B'	2	0 ~ 50 秒	4 秒	RW
WORD パラメータ							
1632	ATT_RFID_LOW_ POWER_MODE_ TIMEOUT	タイムアウト後に装 置が低電力モードに なるアイドル タイム アウト	'W'	2	5 ~ 65535	5 分	RW
1633	ATT_RFID_OFF_ MODE_TIMEOUT	タイムアウト後にデ バイスの電源が自動 的にオフになる低電 力モードでのアイド ル タイムアウト	'W'	2	5 ~ 65535	300 秒	RW

[Unique Tag Reporting]

表 26 [Unique Tag Reporting]

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
バイト パラメータ							
1580	ATT_RFID_UNIQUE_TAG_REPORT	ユニーク タグのみのレポートを有効または無効にします	'B'	1	0 ~ 1 (0: 無効 1: 有効)	0	RW

その他の RFID 構成

表 27 その他の RFID 構成

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
バイト パラメータ							
1615	ATT_RFID_BUFFER_SIZE		'B'	1	6 ~ 50	10	RW
1616	ATT_RFID_INV_CYCLES		'B'	1	0 ~ 255	4	RW
1617	ATT_RFID_KTX		'B'	1	0 ~ 255	4	RW
1618	ATT_RFID_KS		'B'	1	0 ~ 255	5	RW

システム構成

表 28 システム構成

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
ビット パラメータ							
1664	ATT_GENX_MODE_SELECT	RFID モード	'F'	1 ビット	0 (0: RFID)	0	RW
56	ATT_DEC_BEEP	正常な RFID 操作の後でビーブ音が鳴ります	'F'	1 ビット	0 ~ 1	1	RW
文字列パラメータ							
533	ATT_MODEL_NUMBER	モデル番号	'S'	19	変数 (バイトのシーケンス。最大 19 バイト)	'R','F','D','2','0','0','0','-', 'X', 'X', 'X','X','X','X','X','X','X','X'	RO
534	534ATT_SERIAL_NUMBER	シリアル番号	'S'	17	変数 (バイトのシーケンス。最大 17 バイト)	'X','X','X','X','X','X','X','X', 'X', 'X','X','X','X','X','X'	RO
535	ATT_DATE_OF_MANUFACTURE	製造日	'S'	8	変数 (バイトのシーケンス。最大 8 バイト)	'D','D','M','M','M','Y','Y'	

属性番号	属性名	説明	タイプ	サイズ (バイト)	値	既定値	ユーザー モード アクセス
536	ATT_DATE_OF_SERVICE	最終サービスの 日付	'S'	8	変数 (バイトの シーケ ンス。最大 8 バイト)	'D','D','M','M','M','Y','Y'	
614	ATT_DATE_FIRST_ PROGRAM	最初にプログラミ ングした日	'S'	8	変数 (バイトの シーケ ンス。最大 8 バイト)	'D','D','M','M','M','Y','Y'	RW
616	ATT_CONFIG_FILE	デバイスの構成を 特定します	'S'	17	変数 (バイトの シーケ ンス。最大 17 バイト)	'F', 'a', 'c', 't', 'o', 'r', 'y', '', 'D', 'e', 'f', 'a', 'u', 'l', 't', 0x03	RW
20004	ATT_FIRM_VERSION	ファームウェア バージョン文字列	'S'				RO
アクション パラメータ							
6001	ATT_SET_DEFAULTS	パラメータのデフ ォルト コマンドを 開始します	'X'	1			WO
6004	ATT_REBOOT	リモート ロボット コマンド	'X'	1			WO

アクション値

表 29 アクション値の可能な選択肢

操作	一致	不一致
0 (デフォルト)	SL のアサートまたは在庫 - A	SL のアサート解除または在庫 - B
1	SL のアサートまたは在庫 - A	何もしない
2	何もしない	SL のアサート解除または在庫 - B
3	SL の無効化または (A - B、B - A)	何もしない
4	SL のアサート解除または在庫 - B	SL のアサートまたは在庫 - A
5	SL のアサート解除または在庫 - B	何もしない
6	何もしない	SL のアサートまたは在庫 - A
7	何もしない	SL の無効化または (A - B、B - A)

索引

D	
d	34
data dictionary	86
DPO	26, 29, 38
P	
Power Management	26, 29, 38
R	
RFID Manager	44
StageNow にインポート	63
Recovery Mode	53
インストール	45
ファームウェアの更新	51
RFID Scan-Scan-Write	56
RFID スレッド	
機能	11
クリーニング	77
構成	7
トラブルシューティング	82
メンテナンス	79
RSSI	35
S	
StageNow	61
T	
Tag Reporting	
RSSI	35
あ	
アプリケーション	
Android 用の RFID	
[About] 画面	43
[Access Control] 画面	41
Antenna	32
Battery	37
Beeper	39
[Inventory] 画面	25
[Locate Tag] 画面	28
[Pre Filters] 画面	42
[Rapid Read] 画面	24
[Readers List] 画面	30
Save Configuration	40
[Settings] 画面	29
Singulation Control	33
Start/Stop Triggers	34
Tag Reporting	35
Android 用の RFID の使用方法	21
き	
規則	
表記	8
機能	19
さ	
サービスに関する情報	9
し	
情報、サービスに関する	9
使用方法	
Android 用の RFID	21
す	
ストラップ	11, 17
そ	
ソフトウェア	9

と

ドキュメント	9
トラブルシューティング	82
LED モード 2	84

は

パッケージの開梱	10
バッテリー	
管理	19, 79
最適な使用方法	19
通知	19
ハンドヘルド	34

め

メンテナンス	79
--------------	----

